

# 2005 Deaflympic Games Melbourne

★ 2005 メルボルンデフリンピック大会報告書 ★



財団法人 全日本ろうあ連盟

日本ろう者スポーツ協会

秋篠宮同妃両殿下御接見  
2004年12月13日（月）

秋篠宮同妃両殿下が第20回デフリンピック日本代表選手団をご激励されました。御接見の中、秋篠宮殿下からのお言葉を秋篠宮妃殿下が手話通訳され、その心のこもった温かい励ましに日本代表選手団一同感動しました。



提供：宮内庁

## 【メダル受賞者】



水泳競技で初の金メダル獲得！今村選手の活躍が光った。

（左）高岸里佳選手、（中）今村可奈選手、（右）早川友二選手



バドミントン女子ダブルス競技で金メダルに輝いた

石井満里選手（左）と樋渡美香選手（右）

石井選手はバドミントン競技女子選手のMVPにも選ばれた。



船越選手（卓球）は日本代表団主将のプレッシャーを押しのけての  
3大会連続メダル獲得。

（左）田口博人団長、（右）船越京子選手



卓球女子団体競技で銅メダルを獲得した卓球女子チーム。

（左から）寺田千寿子選手、船越京子選手、田中雅美選手、今西直子選手  
今西選手と船越選手のペアは女子ダブルス競技でも銀メダルを獲得した。



銀メダルを獲得したバレー女子チーム

(順不同) 平尾あゆみ、岡崎宏美、岡本かおり、西田節子、西田友子、山崎 望  
鈴木恵子、仲宗根祥子、安積梨絵、大鶴直美、三平 薫、信田裕子



テニス女子ダブルス競技で銀メダルを獲得した  
阿部八千代選手（左）と有川真理子選手（右）  
テニス女子ダブルス競技ではこれが初のメダル獲得



女子槍投げ競技で銀メダルに輝いた武内晴香選手



陸上マラソン競技で炎天に負けず銀メダルを獲得した泉裕子選手

## 【日本選手団結団式】



1月3日（月）

メルボルン市内の宿泊ホテルにて日本代表団の結団式を行なう。

真剣に団長や総監督の説明を受ける日本代表選手たち



## 【DEAFLYMPICS 評議員会】

1月3・4日（月・火）

デフリンピック大会が開催される前日に、主催団体であるデフリンピックスの評議員会が恒例開催される。今回は団体名称をCISS（旧称）より新たに「DEAFLYMPICS」へ変えることが承認され、新たなロゴマークも発表された。また、役員選挙も行なわれ、新たな会長と執行委員が選ばれた。



（左）新会長

donalda Ammons（米国）

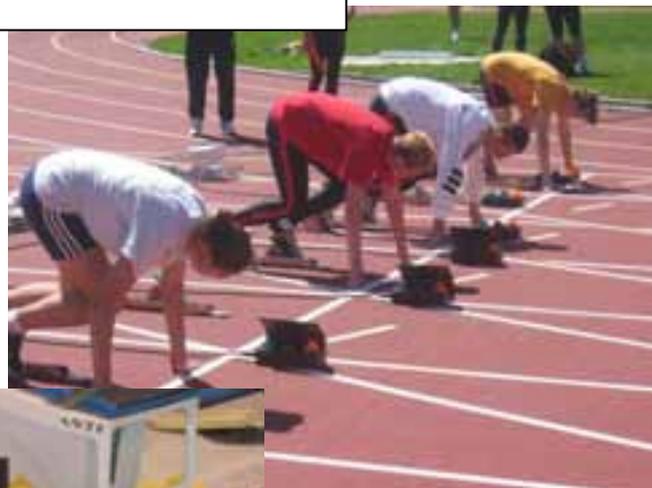
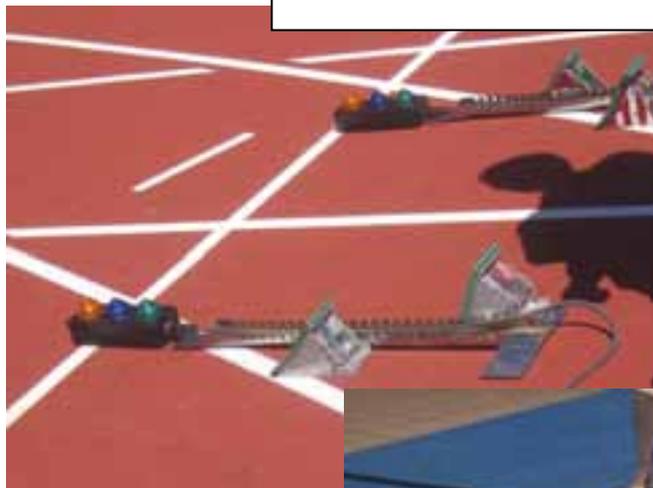


セレモニー開始！聖火が燃え上がり、明日よりの競技試合のスタートが宣言された。



## 【スタートの工夫】

試合前に練習する陸上競技の選手たち。聴覚障害者にスタートの合図がわかるよう、ランプの点滅で合図を行なう。



水泳競技もスタートの合図にランプが使用されている。

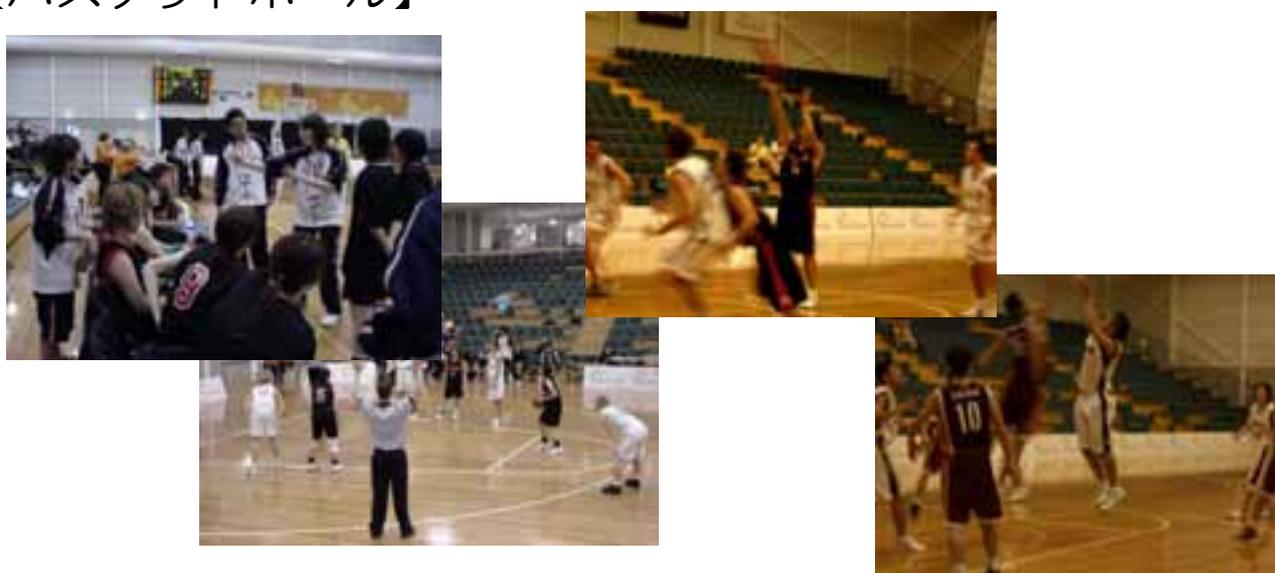
【陸上】



【バドミントン】



【バスケットボール】



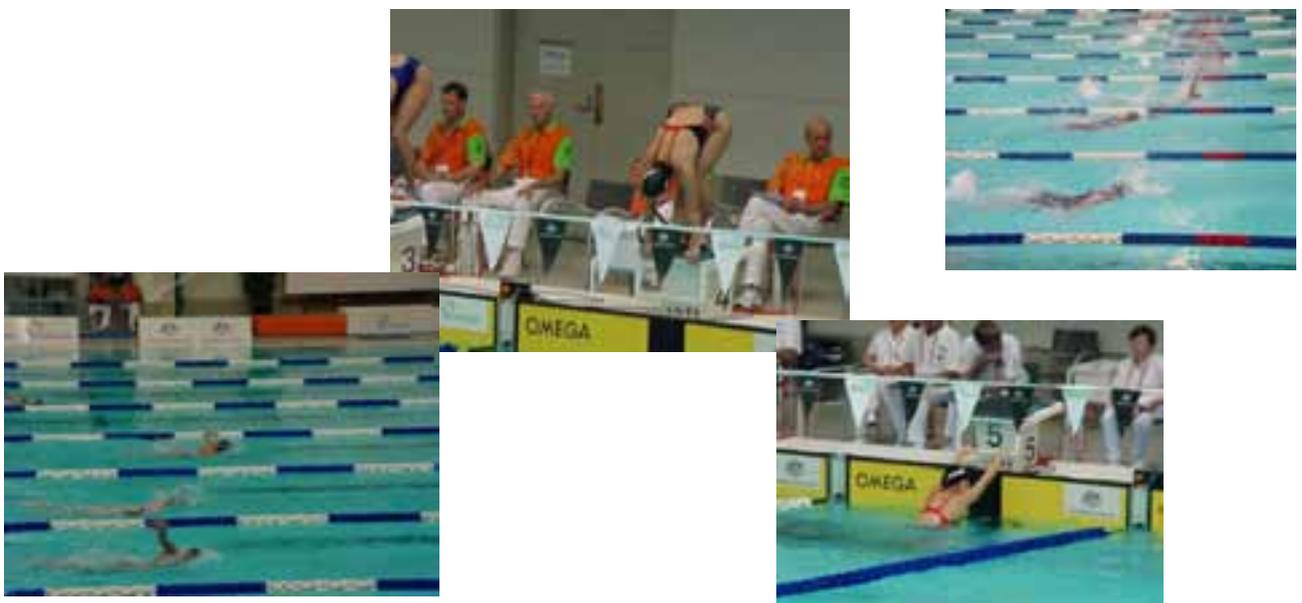
## 【サッカー】



## 【オリエンテーリング】



## 【水泳】



## 【卓球】



## 【テニス】



## 【ボウリング】



## 【バレーボール】



## 【閉会式】



次のデフリンピック大会は  
2009年9月5日から15日まで  
中国台北（台湾）で開かれます。

## 【開会式】

日本代表団の先頭に立つ旗手の  
早川友二選手（水泳）



フィジーの伝統的踊りを披露するフィジー代表  
選手団。中国や南アフリカなどアジアや南米、ア  
フリカの国々からも選手が参加した。



手を振って声援を送る観客たち。  
ろう者は手を叩く代わりに手を振  
って声援を送る。



## 第20回デフリンピック日本代表選手団参加報告について（お礼）

財団法人全日本ろうあ連盟理事長  
第20回デフリンピック派遣委員会委員長  
安藤豊喜

第20回夏季デフリンピック派遣事業の報告書を関係する皆様にお届けできますことを大きな喜びとしています。デフリンピックは、全国民が関心を持ち、注目するオリンピックとその終了後に実施されるパラリンピックと同様に、4年に1回開催され、国内或いは地域の予選を勝ち抜いた聴覚障害のある選手やチームが出場する国際的な競技大会ですが、その知名度は低く、殆どの国民の皆さんに知られていませんでした。

それが、今回の夏季デフリンピック派遣で、不十分ながらも啓発が図られました。それは、派遣にご協力を賜りました厚生労働省や日本障害者スポーツ協会のご支援やご協力に、出場した選手の日本を代表する選手としての自覚に溢れた競技展開が主因ですが、それと合わせて、従来、派遣費用のご協力を受けていた財団からの助成がまったく期待できなくなり、マスコミ関係や企業、福祉関係団体、個人などのご支援を受けての参加になったためでもあります。財団からの助成中止は私たちにとっては、それこそ青天の霹靂というべきもので、100人を超える選手、役員の派遣費用の問題が重くのしかかりました。

この事態に対して私たちは、厚生労働省や日本障害者スポーツ協会に代替的な支援を申し入れるとともに、ろう者のオリンピックであるデフリンピックを国民の皆さんに認識していただくための取組みを行いました。もっとも効果が期待される新聞、テレビ等のマスコミに対してもデフリンピックの歴史、目的、競技種目、派遣費捻出の困難な状況を説明し、報道や取材などのご支援をいただきました。このような私たちの取組みを後押しするものとして、秋篠宮同妃両殿下と派遣選手、役員代表のご接見が得られたのも大きな喜びでした。

基本的な派遣費用の調達については、厚生労働省、日本障害者スポーツ協会のご支援を信頼しつつ、私たちも可能な限りの資金調達を図るために企業や福祉関係団体等に助成や寄付をお願いしました。まったくお付き合いのない企業や団体などへの依頼が殆どでしたので、アポイントなしの訪問となり、ご迷惑をお掛けした面もありますが、ご担当者にお会いしてデフリンピックの開催意義や出場する選手の日頃の鍛錬の努力および、国内の聴覚障害者や関係者の期待を説明し、ご理解とご協力を取り付けることが大事との判断で訪問させていただきました。切羽詰った事情があって、私たちの都合の良い解釈による訪問でしたが、多くの企業や団体が誠実に対応していただき、別掲のようなご支援を賜りました。厚くお礼を申し上げます。

また、加盟団体に対しても、Tシャツ販売のご協力を依頼しましたが、日程的に無理なお願いにもかかわらず派遣を実現させるためのご支援をいただきました。これに対しても感謝申し上げます。

はじめに述べましたように、財団からの助成中止は寝耳に水の出来事でしたが、このような経過を経て、多くの皆さんにデフリンピックを理解していただく結果となりました。その後、厚生労働省、日本障害者スポーツ協会の努力のお蔭による助成があり、私たちで確保した寄付などを合わせて当初決定の役員、選手が派遣でき、ここに選手の活躍や経過をご紹介できる報告書を皆様にお届けできました。私たちは、この経験を活かして、国内の聴覚障害者スポーツの振興と国際競技大会参加への努力を続けて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

# 目 次

第20回デフリンピック日本代表選手団参加報告について（お礼）	-----	1
1. 日本代表選手団派遣事務報告		
(1) メルボルンデフリンピック概要・日本代表選手団派遣概要	-----	4
(2) デフリンピック日本代表選手選考に関して	-----	7
(3) 日本代表選手団派遣準備スケジュール	-----	8
(4) 派遣日程・競技日程	-----	10
(5) 日本代表選手団名簿	-----	12
(6) 日本代表選手団出場種目一覧	-----	16
(7) 日本代表選手団成績・記録	-----	17
2. 日本選手団総括報告		
(1) 団 長	田口 博人 -----	58
(2) 総監督	大竹 浩司 -----	59
(3) 医師・医療報告	大井 直往 -----	60
3. 日本代表選手団各競技報告		
(1) 陸 上	-----	61
(2) バドミントン	-----	64
(3) 男子バスケットボール	-----	68
(4) 女子バスケットボール	-----	73
(5) サッカー	-----	78
(6) オリエンテーリング	-----	80
(7) 水 泳	-----	83
(8) 男子卓球	-----	87
(9) 女子卓球	-----	90
(10) テニス	-----	92
(11) ボウリング	-----	94
(12) 男子バレーボール	-----	97
(13) 女子バレーボール	-----	104

#### 4. 資料

(1) デフリンピックQ&A集 -----	117
(2) 夏季デフリンピック開催地一覧 -----	125
(3) 日本選手の大会別入賞一覧	
① 卓球・陸上・水泳 -----	126
② バレーボール・テニス -----	130
③ バドミントン・ボウリング・バスケットボール -----	131
④ サッカー・自転車 -----	132
(4) 冬季デフリンピック開催地一覧 -----	133
(5) 日本選手の大会別入賞一覧（冬季デフリンピック）	
①アルペンスキー -----	134
②スノーボード -----	134
(6) デフリンピック関連記事 -----	137
(7) デフリンピック通信 -----	153

5. ご支援・ご寄付を頂いた企業・個人の方々 -----	173
------------------------------	-----

# 1. 日本代表選手団派遣事務報告

## (1) メルボルンデフリンピック概要・日本代表選手団派遣概要

1. 大会名称 第20回デフリンピック夏季大会（通称；メルボルンデフリンピック）
2. 開催期間 2005年1月5日（水）開会式～16日（日）閉会式 【12日間】
  - 1) 渡航日程 1月2日（日）午後8時 成田発  
（サッカーチームは12月31日出発）  
1月17日（月）午後7時 成田着
  - 2) 結団式 1月3日（月）午後7時～8時 メルボルン市内  
（スタンフォードプラザホテル・2階大会議室）
  - 3) 解団式 1月16日（日）午前9時～10時 メルボルン市内  
（スタンフォードプラザホテル・1階大会議室）
  - 4) 派遣日程及び競技日程 10ページ～11ページ
3. 開催国・都市 オーストラリア・メルボルン
4. 運営主体 デフリンピックス（DEAFLYMPICS）  
メルボルン2005デフリンピック大会組織委員会（M2005DG）
5. 参加国・地域数 66カ国
6. 参加者・役員数 約3,500人
7. 実施競技 陸上、水泳、卓球、テニス、射撃、バドミントン、ボウリング、オリエンテーリング、自転車、レスリング、バスケットボール、バレーボール、ビーチバレー、ハンドボール、サッカー、水球（16競技）  
\*アンダーラインは日本選手が参加した競技
8. 各競技の参加資格
  - 1) 地域ブロックからの参加枠内にあるもの。  
バレーボール（男子・女子）、バスケットボール（男子・女子）
  - 2) 地域ブロック予選を通過したもの。  
サッカー
  - 3) その他については日本ろう者スポーツ協会で定める選考基準（7ページ）による。
9. 日本代表選手団派遣準備スケジュール 8ページ参照

## 10. 日本選手団

- 1) 参加人数 135名  
 選手 102名(男性61名 女性41名)  
 役員 33名(男性26名 女性7名)
- 2) 団長 田口 博人 (財)全日本ろうあ連盟常任理事・日本ろう者スポーツ協会会長
- 3) キャプテン 船越京子  
 出場競技 卓球女子団体、女子シングルス、女子ダブルス、混合ダブルス  
 29才 女 大阪府大阪市在住
- 4) 旗手 早川友二  
 出場競技 水泳男子50m自由形、100m自由形、400m自由形、50mバタフライ  
 35才 男 神奈川県在住
- 5) 日本代表団の特徴(名簿及び出場種目一覧は12ページ~16ページ)
- ① 過去最高の代表団人数
  - ② 最年少出場選手はバレーボールの安積梨絵選手で13才
  - ③ 最高齢出場選手はボウリングの数見満選手で61才
  - ④ 水泳・陸上競技は標準記録(前大会3位記録)を超えている選手のみを選考
  - ⑤ サッカーチームははじめて予選を突破しての出場

競 技	競技担当役員数				選手数		
	監 督	トレーナー	スタッフ	小 計	男 子	女 子	小 計
本部役員・事務局	役員3	医師1	5	9			
男子バレーボール	1	1	-	2	12	-	12
女子バレーボール	1	1	-	2	-	12	12
男子卓球	1	1	1	3	4	-	4
女子卓球	1	0	-	1	-	4	4
バドミントン	1	1	-	2	4	4	8
ボウリング	1	0	-	1	5	5	10
水泳	1	1	-	2	1	2	3
テニス	1	1	-	2	2	2	4
陸上	1	1	-	2	2	2	4
サッカー	1	2	-	3	18	-	18
男子バスケットボール	1	1	-	2	12	-	12
女子バスケットボール	1	1	-	2	-	10	10
オリエンテーリング	-	-	-	-	1	-	1
選手合計	12	11	1	33	61	41	102

## 6) 成績

- ① 金メダル 3個
- ② 銀メダル 7個
- ③ 銅メダル 1個
- ④ 総メダル数 11個 (国別メダル数 17ページ)
- ⑤ メダル獲得者一覧 (18ページ)
- ⑥ 入賞者一覧 (19ページ)
- ⑦ 競技種目別成績一覧 (20ページ~57ページ)

## 11. 特記事項

- 1) CISS (国際ろう者スポーツ委員会) が DEAFLYMPICS (デフリンピックス) という新しい名称に変更となった。また、国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会との連携方針が強調された。
- 2) 開閉会式はオリンピックパークスタジアムで行なわれ、開会式には5,000名の観客と3,600名を超える選手・役員が参加した。また、地元での大会開催の実現に全力を尽くしながらも昨年逝去したCISS ロベット会長を偲ぶ追悼歌が流れた。
- 3) メルボルン・デフリンピックのために聖火台が特別に製作された。
- 4) 世界各国から英国BBCを含む70を超える報道機関の取材があった。日本からもNHKによる取材があるなど、デフリンピックへの関心が国内でも高まった。
- 5) 現地では多くのボランティアに支えられ、メルボルン市民による応援も目立った。日本国加来総領事が開会式やバレーボール試合の応援にいらしてくださったほか、日本人コミュニティでもデフリンピックでの日本の活躍が話題となった。
- 6) 全体的に世界の實力レベルがあがり、ウクライナ、中国などのように国の施策として力を入れている国の活躍が目立った。

## 12. マスコット「Vic (ヴィク) と Mel (メル)」

公式マスコットは手をかたどったVicとMelです。名前は開催州のヴィクトリア州 (Victoria) と開催都市のメルボルン (Melbourne) から名付けられました。



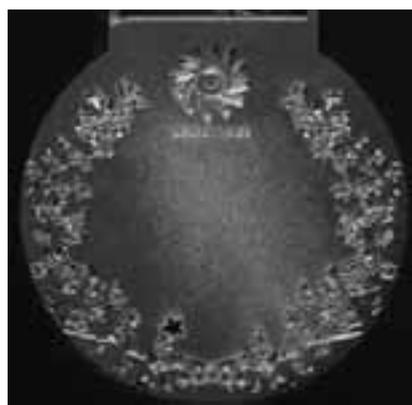
Vic と Mel (公式マスコット)

## 13. メダル

表面には技を競う選手の姿が表現されており、デフリンピック開催国オーストラリア国土の形にメルボルンの場所を示す星印が彫られている。裏面は今年新しく制定されたデフリンピックの公式マークが上部に彫られており、中央に競技種目の名前がはいる。



表面



裏面

## (2) デフリンピック日本代表選手選考に関して

2004年12月現在

以前は、日本ろう者スポーツ協会中央委員会で全国ろうあ者体育大会や選手権大会実績などを考慮し、候補選手リストを作り、決定していた。前大会デフリンピック（ローマ）から一部をろう競技スポーツ団体に選考を依頼するようになり、現在は全体的に下記とおりの方法をとった。現在はメダル取得の可能性を重視した形となっている。

なお、今後、日本障害者スポーツ協会等（派遣費用申請先）により、選考基準が変更される場合がある。アジア太平洋ろう者スポーツ大会出場選手もこれに準用する。

### ①選手、競技役員枠の決定（デフリンピック開催時期の1年半から2年前）

現在は日本障害者スポーツ協会を通してその選手の在住する都道府県自治体に派遣費の一部助成を依頼しているため、開催年度の前年度にすませる必要から長くて1年半から2年前になる。

まず、中央委員会で各競技ごとに前回デフリンピックの成績を重んじ、またメダル取得の可能性を考慮し、派遣人数（基本）を決定する。なお、代表団派遣費（予算）規模によって、数を絞る場合、バランスをとって調整する。

### ②ろうスポーツ団体への選考依頼

選手数が決定されたら、その競技に該当するろう競技スポーツ団体に候補選手選考を依頼する。この段階で、必要に応じてろう競技スポーツ団体と人数を調整する。

該当するろう競技スポーツ団体がない場合、中央委員会で審議、決定する。

### ③候補選手の条件

候補選手の条件は、基本は全国ろうあ者体育大会や選手権大会出場経験があることと、メダル取得の可能性があることの2つである。ろう競技スポーツ団体の中には、全国ろうあ者体育大会や選手権大会出場を条件とした選考基準を決めているところもある。

なお、デフリンピック出場選手の年齢制限は一部の競技を除き定められていないので、例外として中、高校生などを加えることもできる。

### ④一次候補選手から最終決定まで

③を経て候補選手リストが提出されたら、中央委員会で審議、一次決定する。なお、デフリンピック出場のためのエントリー手順は下記のとおりである（過去例）。

	時期	団体競技	個人競技
一次エントリー	開催時期より約1年前	必要（国名のみ）	なし
	※この後のエントリー取消の場合、罰金 100 ドル		
二次エントリー	開催時期より約6ヶ月前	氏名、年齢等	左に同様
	※この後のエントリー取消の場合、罰金 1000 ドル		
エントリー変更	開催時期より約1年前		

この間、選手や役員の変更があれば、行い、最終エントリー決定までに候補選手、競技役員を絞っていき、決定する。

※ 個人競技（陸上、水泳など）は、そのろう競技スポーツ団体と検討し、デフリンピックの最近過去3大会の第3位記録から平均で割り出した記録を標準と決め、選考依頼するとともに、一般公開した（第20回デフリンピックの場合）。

### (3) 日本代表選手団派遣準備スケジュール

#### 派遣取組みの記録

##### 2003年

12月 CISS(国際ろう者スポーツ委員会)への予備登録完了

##### 2004年

2月22日 日本ろう者スポーツ協会全国委員会にて代表選手決定  
4月1日 自転車振興会よりデフリンピックへの補助金を見合わせるための連絡  
4月7日 全日本ろうあ連盟理事長が厚生労働省社会参加推進室長に協力依頼  
4月24日 日本ろう者スポーツ協会緊急四役会議にて協議  
4月29日 全日本ろうあ連盟臨時理事会にて協議  
5月9日 デフリンピック競技団体に説明会を実施、団体に選手決定の通知  
5月下旬 男子サッカーチームがアジア太平洋地域予選を3位で突破  
5月25日 選手に内定通知・調査票提出を依頼、団体に推薦理由書提出を依頼  
5月28日 役員に内定通知・調査票提出を依頼  
6月1日 全日本ろうあ連盟理事長が厚生労働省社会参加推進室長と協議  
6月1日 追加選手・役員に内定通知・調査票提出を依頼  
6月10日 全日本ろうあ連盟理事会にて寄付依頼活動を行う方針を決定  
6月15日 選手の所属協会に決定通知、勤務先に派遣協力依頼  
7月1日 寄付依頼活動を開始、厚生労働省記者クラブへのリリース投げ込み  
8月1日 日本聴力障害新聞に代表団陣容を発表  
9月17日 全国ろうあ者体育大会にて代表団壮行会・説明会を実施、応援Tシャツ販売開始  
9月21日 派遣資金造成強化を目的として第1回デフリンピック派遣委員会を開催  
9月28日 CISSよりデフリンピック競技規則集・登録用紙が到着  
10月1日 加盟団体にデフリンピック啓蒙と派遣資金カンパ取組みを指示  
10月中 選手に聴力検査表提出を依頼  
11月3日～7日 契約旅行業者が現地を視察  
11月12日 第2回デフリンピック派遣委員会を開催  
11月24日 独立行政法人福祉医療機構より代表団の渡航費・宿泊費などの助成が決定  
11月30日 CISSに最終登録をファックス及び郵送で提出  
12月13日 秋篠宮同妃両殿下が選手代表にご接見  
12月20日 CISSに選手の聴力検査表を提出  
12月31日 代表団第1陣24名が出発

2005年

- 1月2日 代表団第2陣 111名が出発
- 1月3日 メルボルンにて代表団結団式
- 1月5日～16日 メルボルンにて第20回デフリンピック大会
- 1月15日 代表団第1陣 28名が帰国
- 1月16日 メルボルンにて代表団解団式
- 1月17日 代表団第2陣 107名が帰国
- 1月18日 代表団団長が厚生労働省、日本障害者スポーツ協会に大会の報告
- 1月31日 寄付依頼・カンパ活動が終了
- 2月7日 代表団団長と選手代表が秋篠宮同妃両殿下に大会の報告
- 3月11日 第3回デフリンピック派遣委員会を開催
- 9月下旬 第20回デフリンピック報告書を発行

## (4) 派遣日程・競技日程

月日	曜日	競技/内容	
1月3日	(月)	結団式 3日~4日評議員会	
1月4日	(火)	サッカー	予選リーグ VS アルゼンチン
1月5日	(水)	開会式	
1月6日	(木)	陸上	10,000m 決勝
		バドミントン	団体戦・予選リーグ VS リトアニア・ガーナ・オーストラリア
		バスケットボール	予選リーグ (男子) VS ロシア
		サッカー	予選リーグ VS ロシア
		卓球	団体戦・予選リーグ (男子) VS クウェート・モンゴル (女子) VS ブルガリア・韓国
		テニス	予選・シングルス
		ボウリング	(男子) シングルス
		バレーボール	予選リーグ (男子) VS イラン (女子) VS ウズベキスタン
1月7日	(金)	陸上	1,500m1 次予選
		バドミントン	団体戦・決勝トーナメント
		バスケットボール	予選リーグ (男子) VS ニュージーランド
		卓球	団体予選リーグ (男子) VS オーストラリア・ポーランド (女子) VS インド
		テニス	予選シングルス
		ボウリング	(女子) シングルス
		バレーボール	予選リーグ (男子) VS オーストラリア (女子) VS イタリア
1月8日	(土)	バドミントン	団体準決勝・決勝
		バスケットボール	予選リーグ (女子) VS リトアニア
		サッカー	予選リーグ VS オランダ
		水泳	予選・決勝 (男子 400m 自由形)
		卓球	団体決勝トーナメント
		テニス	シングルス・ダブルス・混合ダブルス
		ボウリング	(男子) ダブルス
		バレーボール	予選リーグ (男子) VS トルコ (女子) VS ロシア
1月9日	(日)	陸上	800m予選 1組
		バドミントン	シングルス・予選リーグ
		バスケットボール	予選リーグ (男子) VS スロベニア (女子) VS ニュージーランド
		オリエンテーリング	短距離
		水泳	予選・決勝 (女子 400m 自由形) 予選・決勝 (女子 200m 背泳ぎ)
		卓球	シングルス予選
		テニス	混合ダブルス
		ボウリング	(女子) ダブルス
		バレーボール	予選リーグ (男子) VS ウクライナ (女子) VS ウクライナ
1月10日	(月)	バスケットボール	予選リーグ (女子) VS アメリカ
		水泳	予選・決勝 (女子 100m 自由形) 予選・決勝 (女子 50m 背泳ぎ) 予選・決勝 (男子 100m 自由形)
		ボウリング	(男子) トリオ

月日	曜日	競技/内容		
1月10日	(月)	バレーボール	予選リーグ	(男子) VS フィンランド
				(女子) VS アメリカ
1月11日	(火)	陸上	槍投げ決勝	
		バドミントン	シングルス予選/準々決勝	
		バスケットボール	予選リーグ	(男子) VS オーストラリア
			9位決定戦	(女子) VS 中国
		バレーボール	(男子) 準決勝	
		テニス	(男子) 予選リーグ	
			(女子) シングルス	
		卓球	混合ダブルス準決勝	
ボウリング	(女子) トリオ			
バレーボール	(男子) 7-8位決定戦	VS アメリカ		
	(女子) 準決勝	VS アメリカ		
1月12日	(水)	バドミントン	ダブルス準々決勝	
		バスケットボール	(男子) 予選リーグ	VS 中国
			(女子) 準決勝	
			(女子) 5-8位決定トーナメント	VS ギリシャ
		サッカー	本戦トーナメント戦	VS チェコ共和国
		ボウリング	団体戦	
		オリエンテーリング	長距離	
		水泳	予選・決勝(女子 200m 自由形)	
			予選・決勝(男子 50m バタフライ)	
卓球	シングルス・ダブルス準々決勝、混合ダブルス			
テニス	シングルス・ダブルス準決勝、混合ダブルス決勝・3位決定戦			
1月13日	(木)	サッカー	準決勝	
		水泳	予選・決勝(女子 100m 背泳ぎ)	
			予選・決勝(女子 800m 自由形)	
			予選・決勝(男子 50m 自由形)	
		卓球	シングルス・ダブルス決勝・準決勝・混合ダブルス決勝・3位決定戦	
		テニス	混合ダブルス	
		ボウリング	男女団体決勝、マスターズ	
バレーボール	決勝	(女子) VS ウクライナ		
1月14日	(金)	陸上	マラソン	
		バドミントン	シングルス・ダブルス準決勝	
		バスケットボール	(男子) 準決勝	
			(男子) 9-10位決定戦	VS イタリア
			(女子) 7-8位決定戦	VS ニュージーランド
		サッカー	本戦 11-12位決定戦	VS ギリシャ
		水泳	予選・決勝(女子 50m 自由形)	
			決勝(女子 800m 自由形)	
テニス	女子ダブルス、混合ダブルス準決勝			
ボウリング	マスターズ決勝			
1月15日	(土)	バドミントン	シングルス・ダブルス決勝・3位決定戦	
		バスケットボール	決勝・3位決定戦	
		サッカー	3位決定戦	
		テニス	ダブルス決勝、混合ダブルス 3位決定戦	
1月16日	(日)	サッカー	決勝	
1月16日	(日)	閉会式 解団式		

## (5) 日本代表選手団名簿

2005年1月5日時点

### <事務局>

No.		役職	氏名	性別	都道府県	
1	日ろうスポ協	1	団長	田口博人	男	福岡県
2		2	総監督	大竹浩司	男	大阪市
3		3	事務局長	大杉 豊	男	東京都
4		4	事務局員	後藤啓二	男	東京都
5		5	事務局員	豊島絵美子	女	大阪府
6		6	事務局員	高木真知子	女	東京都
7		7	事務局員	山口千春	女	千葉県
8		8	事務局員	小川美都子	男	埼玉県
9		9	医師	大井直往	男	埼玉県

### <選手>

No.	競技名/No.	役職	氏名	性別	都道府県	
1	サッカー	1	監督	佐藤 彰	男	愛知県
2		2	トレーナー	立川智隆	男	広島県
3		3	トレーナー	高橋孝司	男	埼玉県
4		4	選手	四方 恒	男	大阪府
5		5	選手	飯坂隆行	男	神奈川
6		6	選手	湯澤史就	男	東京都
7		7	選手	野呂 啓	男	愛知県
8		8	選手	羽木敬哲	男	愛知県
9		9	選手	山地寿朋	男	札幌市
10		10	選手	馬場博史	男	和歌山県
11		11	選手	阿部清志	男	大阪市
12		12	選手	細見尚史	男	神戸市
13		13	選手	伊東高志	男	秋田県
14		14	選手	川見浩一	男	大阪府
15		15	選手	風間隆由	男	愛知県
16		16	選手	古 隆喜	男	兵庫県
17		17	選手	野間三夫	男	福岡県
18		18	選手	松本紀彦	男	埼玉県
19		19	選手	光野 誠	男	埼玉県
20		20	選手	船越弘幸	男	大阪府
21		21	選手	白木健太	男	広島県
22	バレーボール男子	1	監督	浜本也寸志	男	広島県
23		2	トレーナー	中島幸則	男	千葉県
24		3	選手	大川裕二	男	東京都
25		4	選手	信田光宣	男	千葉県
26		5	選手	猪野康隆	男	大阪府

No.	競技名/No.	役職	氏名	性別	都道府県		
27		6	選手	乾 康隆	男	大阪府	
28		7	選手	福本和巳	男	鳥取県	
29		8	選手	平田智哉	男	千葉県	
30		9	選手	梅本隆久	男	大阪市	
31		10	選手	小垣憲一	男	兵庫県	
32		11	選手	藤井康生	男	大阪府	
33		12	選手	西村浩一	男	兵庫県	
34		13	選手	若原正享	男	茨城県	
35		14	選手	梅本浩章	男	大阪府	
36		バレーボール女子	1	監督	都倉里江	女	兵庫県
37			2	トレーナー	澤和信二	男	千葉県
38			3	選手	平尾あゆみ	女	兵庫県
39			4	選手	岡崎宏美	女	大阪府
40			5	選手	岡本かおり	女	大阪府
41	6		選手	西田節子	女	大阪府	
42	7		選手	西田友子	女	大阪府	
43	8		選手	山崎 望	女	大阪府	
44	9		選手	鈴木恵子	女	京都府	
45	10		選手	仲宗根祥子	女	神奈川県	
46	11		選手	安積梨絵	女	兵庫県	
47	12		選手	大鶴直美	女	大阪市	
48	13		選手	三平 薫	女	神奈川	
49	14		選手	信田裕子	女	千葉県	
50	バスケットボール 男子	1	監督	林 彩根	女	大阪府	
51		2	トレーナー	守本健児	男	愛知県	
52		3	選手	及川澄志	男	北海道	
53		4	選手	稲村広太	男	大阪市	
54		5	選手	澤口雅哉	男	広島県	
55		6	選手	須田将広	男	大阪府	
56		7	選手	辻 朋大	男	愛知県	
57		8	選手	手塚清貴	男	長野県	
58		9	選手	中村典之	男	北海道	
59		10	選手	中山明人	男	京都府	
60		11	選手	中山直樹	男	愛知県	
61		12	選手	日比野隆	男	兵庫県	
62		13	選手	福島 明	男	大阪府	
63		14	選手	雪森文晃	男	東京都	
64	バスケットボール 女子	1	監督	岡野泰行	男	愛知県	
65		2	トレーナー	長神文野	男	愛知県	
66		3	選手	薄井美智子	女	東京都	

No.	競技名/No.	役職	氏名	性別	都道府県		
67		4	選手	大庭紀美	女	静岡県	
68		5	選手	河合素子	女	愛知県	
69		6	選手	佐々木由香	女	北海道	
70		7	選手	杉谷 香	女	兵庫県	
71		8	選手	富田 望	女	大阪府	
72		9	選手	福島彩子	女	大阪府	
73		10	選手	涌井香里	女	愛知県	
74		11	選手	渡辺亜紀	女	大阪府	
75		12	選手	平林裕子	女	千葉県	
76		卓 球	1	男子監督	旅川正人	男	埼玉
77			2	女子監督	堀 純雅	男	札幌市
78			3	トレーナー	高田和香子	女	静岡県
79	4		トレーナー	石森康弘	男	宮城	
80	5		選手	青山 修	男	千葉	
81	6		選手	上江州光彦	男	沖縄	
82	7		選手	国本雄一郎	男	千葉	
83	8		選手	渡辺 誠	男	神奈川	
84	9		選手	船越京子	女	大阪	
85	10		選手	寺田千寿子	女	大阪	
86	11		選手	今西直子	女	大阪	
87	12		選手	田中雅美	女	千葉	
88	バドミントン	1	監督	石井幹雄	男	北海道	
89		2	トレーナー	岡崎勇二	男	北海道	
90		3	選手	小堀知史	男	熊本県	
91		4	選手	秋山雅彦	男	東京都	
92		5	選手	中西 潤	男	群馬県	
93		6	選手	甲斐勝巳	男	福岡県	
94		7	選手	石井満里	女	北海道	
95		8	選手	羽賀照予	女	北海道	
96		9	選手	中井智子	女	北海道	
97		10	選手	樋渡美香	女	北海道	
98	ボウリング	1	監督	笹木光明	男	千葉県	
99		2	選手	藤岡宏明	男	広島県	
100		3	選手	新納義弘	男	広島県	
101		4	選手	数見 満	男	和歌山県	
102		5	選手	久保春夫	男	群馬県	
103		6	選手	池 洋	男	東京都	
104		7	選手	栗山美和子	女	埼玉県	
105		8	選手	数見順子	女	和歌山県	
106		9	選手	福田美幸	女	栃木県	

No.	競技名/No.	役職	氏名	性別	都道府県	
107		10	選手	松清俊子	女	愛知県
108		11	選手	石井美代子	女	東京都
109	テニス	1	監督	梶山勝也	男	東京都
110		2	トレーナー	梶野耕祐	男	大阪府
111		3	選手	松下哲也	男	大阪府
112		4	選手	小川正伸	男	東京都
113		5	選手	有川真理子	女	神奈川県
114		6	選手	阿部八千代	女	徳島県
115		水泳	1	監督	豊田 律	女
116	2		トレーナー	高岸清治	男	大阪府
117	3		選手	今村可奈	女	大阪府
118	4		選手	早川友二	男	神奈川県
119	5		選手	高岸里佳	女	大阪府
120	陸上	1	監督	飯村 聡	男	茨城県
121		2	トレーナー	東口紘也	男	大阪府
122		3	選手	金子誠一	男	山口県
123		4	選手	西川恵太	男	東京都
124		5	選手	泉 裕子	女	大阪府
125		6	選手	武内晴香	女	千葉県
126	オリエンテーリング	1	選手	野中好夫	男	東京都

## (6) 日本代表選手団出場種目一覧

競技名	男子				女子			
	氏名		出場種目		氏名		出場種目	
1. 陸上	西川恵太		800m、1,500m		泉 裕子		10,000m、マラソン	
	金子誠一		10,000m、マラソン		武内晴香		槍投げ	
2. 水泳	早川友二		自由形 50・100・400 バタフライ 50		今村可奈		自由形 50・100・200・ 400・800	
					高岸里佳		自由形 200 背泳ぎ 50・100・200	
3. バドミントン	小堀知史		シングルス ダブルス (男子・混合)		石井満里		シングルス ダブルス (女子・混合)	
	秋山雅彦		シングルス ダブルス (男子・混合)		羽賀照予		シングルス ダブルス (女子・混合)	
	中西 潤		シングルス ダブルス (男子・混合)		中井智子		シングルス ダブルス (女子・混合)	
	甲斐勝己		シングルス ダブルス (男子・混合)		樋渡美香		シングルス ダブルス (女子・混合)	
4. 卓球	青山 修		団体戦、シングルス ダブルス (男子・混合)		船越京子		団体戦、シングルス ダブルス (女子・混合)	
	上江州光彦		団体戦、シングルス ダブルス (男子・混合)		今西直子		団体戦、シングルス ダブルス (女子・混合)	
	国本雄一郎		団体戦、シングルス ダブルス (男子・混合)		寺田千寿子		団体戦、シングルス ダブルス (女子・混合)	
	渡辺 誠		団体戦、シングルス ダブルス (男子・混合)		田中雅美		団体戦、シングルス ダブルス (女子・混合)	
5. テニス	松下哲也		シングルス ダブルス (男子・混合)		阿部八千代		シングルス ダブルス (女子・混合)	
	小川正伸		シングルス ダブルス (男子・混合)		有川真理子		シングルス ダブルス (女子・混合)	
6. 射撃(アーチェリー)	野中好夫		短距離、長距離					
7. ボーリング	数見 満		団体戦、シングルス ダブルス、トリオ		数見順子		団体戦、シングルス ダブルス	
	久保春夫		団体戦、シングルス ダブルス、トリオ		松清俊子		団体戦、シングルス ダブルス	
	新納義弘		団体戦、シングルス ダブルス		栗山美和子		団体戦、シングルス ダブルス、トリオ	
	藤岡宏明		団体戦、シングルス ダブルス		石井美代子		団体戦、シングルス ダブルス、トリオ	
	池 洋		団体戦、シングルス ダブルス、トリオ		福田美幸		団体戦、シングルス トリオ	
8. バスケット ボール	中村典之	及川澄志	雪森文晃	手塚清貴	薄井美智子	大庭紀美	河合素子	涌井香里
	中山直樹	辻 朋大	澤口雅哉	日比野 隆	渡辺亜紀	富田 望	杉谷 香	佐々木由香
	中山明人	稲村広太	福島 明	須田将広	平林裕子	福島彩子		
9. バレーボ ール	若原正享	平田智哉	信田光宣	大川裕二	藤 裕子	仲宗根祥子	三平 薫	山崎 望
	藤井康生	小垣憲一	西村浩一	福本和巳	安積梨絵	平尾あゆみ	鈴木恵子	岡崎宏美
	梅本浩章	乾 文雄	猪野康隆	梅本隆久	大鶴直美	岡本かおり	西田節子	西田友子
10. サッカー	伊東高志	光野 誠	湯澤史就	羽木敬哲				
	四方 恒	川見浩一	古 隆喜	馬場博史				
	山地寿朋	松本紀彦	飯坂隆行	野呂 啓				
	船越弘幸	細見尚史	野間三夫	風間隆由				
	白木健太	阿部清志						

## (7) 日本代表選手団成績・記録

### ①国別メダル数一覧

順位	国名	金	銀	銅	合計
1	ウクライナ	21	17	14	52
2	ロシア	13	17	26	56
3	南アフリカ	13	4	2	19
4	アメリカ	9	12	12	33
5	台北	9	4	3	16
6	イラン	8	6	5	19
7	韓国	7	5	2	14
8	ドイツ	6	15	17	38
9	中国	5	8	4	17
10	イギリス	5	6	6	17
11	ベラルーシ	4	8	7	19
12	スウェーデン	4	6	7	17
13	オーストラリア	4	6	3	13
14	アイルランド	4	5	2	11
15	イタリア	4	4	7	15
16	キューバ	4	2	2	8
17	ポーランド	4	1	0	5
18	日本	3	7	1	11
19	リトアニア	3	1	4	8
20	インド	3	1	3	7
21	チェコ共和国	3	1	2	6
22	エストニア	3	0	2	5
23	トルコ	2	5	3	10
24	ケニヤ	1	1	3	5
25	フランス	1	1	1	3
26	セルビアモンテネグロ	1	0	1	2
	オランダ	1	0	1	2
28	ギリシャ	1	0	0	1
	ノルウェー	1	0	0	1
	ポルトガル	1	0	0	1
	クロアチア	1	0	0	1
	ベネズエラ	1	0	0	1
33	スイス	0	3	2	5
34	ハンガリー	0	1	0	1
	タイ	0	1	0	1
	スペイン	0	1	0	1
	スロベニア	0	1	0	1
38	マレーシア	0	0	2	2
39	ルーマニア	0	0	1	1
	ラトビア	0	0	1	1
	カナダ	0	0	1	1
	ベルギー	0	0	1	1
	モンゴル	0	0	1	1
	カザフスタン	0	0	1	1
合計		150	150	150	450

②メダル獲得者一覧

No.	競技／種目		氏名	メダル
1	陸上	女子マラソン	泉 裕子	銀メダル
2		女子やり投げ	武内晴香	銀メダル
3	バドミントン	女子ダブルス	石井満里 樋渡美香	金メダル
4	水 泳	女子 200m 自由形	今村可奈	銀メダル
5		女子 400m 自由形		金メダル
6		女子 800m 自由形		金メダル
7	卓球	女子シングルス	船越京子	銀メダル
8		女子ダブルス	船越京子 今西直子	銀メダル
9		女子団体	船越京子 今西直子 寺田千寿子 田中雅美	銅メダル
10	テニス	女子ダブルス	阿部八千代 有川真理子	銀メダル
11	バレーボール	女子	平尾あゆみ 岡崎宏美 岡本かおり 西田節子 西田友子 山崎 望 鈴木恵子 仲宗根祥子 安積梨絵 大鶴直美 三平 薫 信田裕子	銀メダル

獲得メダル数	金メダル	3
	銀メダル	7
	銅メダル	1
	計	11

③入賞者一覧

No.	競技／種目		氏名	順位
1	陸上	女子 10,000m	泉 裕子	6位
2		男子 10,000m	金子誠一	7位
3		マラソン		5位
4	バドミントン	混合ダブルス	秋山雅彦 石井満里	4位
5	バスケットボール	女子	薄井美智子 大庭紀美 河合素子 佐々木由香 杉谷 香 富田 望 福島彩子 涌井香里 渡辺亜紀 平林裕子	8位
6	水 泳	女子 100m 自由形	今村可奈	5位
7		女子 50m 自由形	高岸里佳	6位
8		女子 200m 自由形		7位
9		男子 50m自由形	早川友二	5位
10		男子 100m自由形		8位
11		男子 50mバタフライ		4位
12	卓球	男子ダブルス	青山 修 上江洲光彦	4位
13		男子団体	青山 修 上江洲光彦 国本雄一郎 渡辺 誠	4位
14		混合ダブルス	青山 修 船越京子	4位
15	テニス	女子シングルス	阿部八千代	4位
16	ボウリング	男子ダブルス	久保春夫 新納義弘	5位
17		男子団体	久保春夫 新納義弘 数見 満 藤岡宏明 池 洋	5位
18		女子ダブルス	石井美代子 松清俊子	8位
19		女子トリオ	石井美代子 福田美幸 栗山美和子	8位
20		女子団体	石井美代子 松清俊子 福田美幸 栗山美和子 数見順子	6位
21	バレーボール	男子	信田光宣 猪野康隆 平田智哉 大川裕二 福本和巳 乾 文雄 藤井康生 小垣憲一 梅本浩章 西村浩一 若原正享 梅本隆久	7位

入賞数	4位	6
	5位	5
	6位	3
	7位	3
	8位	4
	計	21

## ④競技種目別記録

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

## 陸 上

No	出場選手	種目	参加数	プログラム	順位 (位/人)	記録/Rec.	優勝者			成績
							記録/Rec.	名 前	国名	
1	泉 裕子	10,000m	7	決 勝	6/7	39:37.53	37:49.0	Andreychuk, Irina	RUS	6 位
		マラソン	9	決 勝	2/5	3:11:08	2:57:53	Janemon, Ulrika	SWE	銀メダル
2	武内晴香	槍投げ	17	決 勝	2/16	41.40	43.04	Mills, Amy	AUS	銀メダル
3	金子誠一	10,000m	14	決 勝	7/12	34:26.36	31:33.9	Saeidi, Omid	IRI	7 位
		マラソン	19	決 勝	5/9	2:53:57	2:34:21	Kipchumba, Edwin	KEN	5 位
4	西川恵太	800m	8	予選 2 組	6/7	2:11.20	2:28.6	Kulikov, Roman	RUS	予選敗退
		1,500m	9	予選 1 組	7/7	4:42.40	3:58.61	Nowak, Rafal	POL	予選敗退

## 女子 10,000m

1	Andreychuk, Irina	ロシア	37:48.99
2	Golovko, Mariya	ウクライナ	37:50.86
3	Alder-Baerens, Nele	ドイツ	37:52.21
4	Lambert, Joanne	オーストラリア	38:15.05
5	Pankratovich, Ala	ベラルーシ	38:33.70
6	泉 裕子	日本	39:37.53
7	Oliveira, Dina	ポルトガル	44:35.15
	Janemon, Ulrika	スウェーデン	失格

## 男子 10,000m

1	Saeidi, Omid	イラン	31:33.90
2	Yakubovskiy, Vladislav	ロシア	31:39.28
3	Sougoniaev, Alexandre	ロシア	31:42.06
4	Mahlake, Issac	南アフリカ	32:16.88
5	Xue, Jianhua	中国	32:19.53
6	Homanlo, Saeid	イラン	33:10.49
7	金子誠一	日本	34:26.36
8	Leppanen, Markku	フィンランド	34:31.46
9	De Los Mozos, Alredo	スペイン	34:41.07
10	Karakulah, Onder	トルコ	34:54.33
11	Zangiwa, Busisa	南アフリカ	35:36.93
12	Lymperis, Ioannis	ギリシャ	41:34.31
	Kulakov, Mykola	ウクライナ	棄権
	Monteiro, Jose	ポーランド	棄権
	Hepner, Jonathan	アメリカ	失格
	Kerich, Raymond	ケニヤ	失格
	Suhendar, Oyi	インドネシア	失格
	Kiptum, Daniel	ケニヤ	失格
	Kipchirchir, Samuel	ケニヤ	失格

## 女子マラソン

1	Janemon, Ulrika	スウェーデン	2:57.53D
2	泉 裕子	日本	3:11.08
3	Shnigelskaya, Olga	ロシア	3:41.12
4	Pankratovich, Ala	ベラルーシ	3:42.36
5	Sloat, Sandy	アメリカ	4:14.13
	Tuitoek, Jeruto	ケニヤ	失格
	Kiptugen, Jelimo	ケニヤ	失格
	Andreychuk, Irina	ロシア	失格
	Golovko, Mariya	ウクライナ	失格

## 女子槍投げ

1	Mills, Amy	オーストラリア	43.04mD
2	竹内晴香	日本	41.40mD
3	Olenko, Kairit	エストニア	41.39mD
4	Ren, Chunxia	中国	40.72mD
5	Bednarek, Lidia	ドイツ	38.99m
6	Leinonen, Satu	フィンランド	38.16m
7	Kuzsma, Tunde	ルーマニア	38.09m
8	Lin, Hsiang-Tzu	台北	35.06m
9	Fernandez Abreu, Maria T	キューバ	33.82m
10	Romu, Heli	フィンランド	32.83m
11	Lin, Mei-Chun	台北	30.92m
12	Guha Roy, Swaswati	インド	25.90m
13	Dong, Wen	中国	24.74m
14	Kaczmarczyk, Joanna	ポーランド	24.57m
15	Bredenkamp, Lisa-Marie	南アフリカ	23.07m
16	Miriama, Makarita	フィジー	21.94m
	Friedrich, Katja	ドイツ	ファール

## 男子 800m 予選 1 組

1	Soto Rey, Javier	スペイン	2:00.50Q
2	Kulikov, Roman	ロシア	2:00.79Q
3	Hurkin, Siarhei	ベラルーシ	不通過
4	Gkanatsios, Nikolaos	ギリシャ	不通過
5	Gkanatsios, Nikolaos	ケニヤ	不通過
6	西川恵太	日本	不通過
	Gkanatsios, Nikolaos	クウェート	不通過
	Rathey, Doug		棄権

## 男子 1500m 予選 2 組

1	Butler, Matthew	イギリス	4:13.16Q
2	Nodaba, Karoo	南アフリカ	4:13.27Q
3	Skurikhin, Ivan	ロシア	4:13.33Q
4	Afshari, Hassan	イラン	4:13.46Q
5	Kharchenko, Dmytro	ウクライナ	4:13.50Q
6	Seker, Hasan	トルコ	4:18.90Q
7	西川恵太	日本	不通過
	Xue, Jianhua	中国	棄権
	Rathey, Doug	イギリス	棄権

## 男子マラソン

1	Kipchumba, Edwin	ケニヤ	2:34.21
2	Kerich, Raymond	ケニヤ	2:34.24
3	Mahlake, Issac	南アフリカ	2:38.24
4	Sougoniaev, Alexandre	ロシア	2:39.40
5	金子誠一	日本	2:53.57
6	Homanlo, Saeid	イラン	2:56.36
7	Ruff, Robert	ハンガリー	2:57.46
8	Hepner, Jonathan	アメリカ	3:13.01
9	Mkhize, Velaphi	南アフリカ	3:34.26
	Yakubovskiy, Vladislav	ロシア	棄権
	Kiptum, David	ケニヤ	棄権
	Kurgat, Timothy	ケニヤ	棄権
	Too, Joshua	ケニヤ	棄権
	Gubarev, Roman	ロシア	棄権
	Karakulah, Onder	トルコ	棄権
	De Los Mozo Calle, A	スペイン	棄権
	Leppanen, Markku	フィンランド	棄権
	Monteiro, Jose	ポーランド	棄権
	Kulakov, Mykola	ウクライナ	棄権

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

バドミントン  
シングル・ダブルス

シテニミルコト

No	出場選手	種目	参加数	プログラム	勝敗	対戦相手		Match	スコア			成績
						選手名	国名		Game 1	Game 2	Game 3	
1	石井満里	女子個人戦	52	予選リーグ	勝	BULA Sophie	SUI	2-0	11-4	11-3		ベスト8
					勝	PAVLOVA Alena	RUS	2-0	11-1	11-6		
				Rnd of 16	勝	BARAMOVA Gergana	BUL	2-0	11-3	11-1		
				準々決勝	敗	PARK Yeon	KOR	0-2	3-11	5-11		
2	樋渡美香	女子個人戦	52	予選リーグ	勝	CARROLL Fiona	AUS	2-0	11-0	11-0		ベスト8
					敗	WANG Meng	CHN	1-2	11-6	2-11	7-11	
				Rnd of 32	勝	WALKER Fiona	GBR	2-0	11-2	11-1		
				Rnd of 16	勝	YU Kyung	KOR	2-0	11-4	11-4		
				準々決勝	敗	DOVYDAITYTE Kristina	LIT	1-2	2-11	11-5	1-11	
3	羽賀照予	女子個人戦	52	予選リーグ	敗	JEONG Hwa	KOR	0-2	2-11	0-11		決勝トーナメント 1回戦敗退
					勝	LOU Lixia	CHN	2-0	11-0	11-1		
					勝	GEORGIEVA Boryana	BUL	2-0	11-0	11-0		
				Rnd of 32	敗	PARK Yeon	KOR	0-2	11-2	11-4		
4	中井智子	女子個人戦	52	予選リーグ	勝	CROSKERY Pamela	NZL	2-0	11-6	11-4		決勝トーナメント 2回戦敗退
					勝	GERSTNER Elke	GER	2-0	11-4	11-7		
				Rnd of 32	勝	TAYLOR Lisa	AUS	2-0	11-3	11-1		
				Rnd of 16	敗	BAK Jeong	KOR	0-2	5-11	4-11		
5	小堀知史	男子個人戦	64	予選リーグ	勝	FANG Yeo Kok	MAS	2-0	15-7	15-10		決勝トーナメント 2回戦敗退
					勝	XU Jun	CHN	2-0	15-3	15-9		
				Rnd of 32	勝	SOONG Koh Fook	MAS	2-0	15-8	15-11		
				Rnd of 16	敗	BAGGA Rajeev	IND	0-2	1-15	2-15		
6	秋山雅彦	男子個人戦	64	予選リーグ	敗	SIN Woo	KOR	0-2	3-15	1-15		予選リーグ敗退 (1勝2敗)
					勝	GETOV Lyudmill	BUL	2-0	15-4	15-4		
					敗	EFREMOV Mikhail	RUS	0-2	12-15	5-15		
7	甲斐勝巳	男子個人戦	64	予選リーグ	敗	WOO Soo	KOR	0-2	3-15	2-15		予選リーグ敗退 (3敗)
					敗	SIMONENKO Sergey	RUS	0-2	11-15	10-15		
					敗	SUNDQVIST Teddie	SWE	1-2	13-15	17-15	12-15	
8	中西 潤	男子個人戦	64	予選リーグ	敗	LEATHER Herman	NED	0-2	5-15	5-15		予選リーグ敗退 (2敗)
					敗	MUCHHAL Gaurav	IND	1-2	15-11	15-17	2-15	
9	石井満里 樋渡美香	女子ダブルス戦	25	Rnd of 16	勝	KLOPP S / FICHER S	GER	2-1	15-10	2-15	15-3	金メダル
				準々決勝	勝	BAK J / YU K	KOR	2-0	15-4	15-5		
				準決勝	勝	DOVYDAITYTE K / NOVIK J	LIT	2-1	13-15	15-9	15-9	
				決勝	勝	PARK Y / JEONG H	KOR	2-0	15-10	15-11		
10	羽賀照予 中井智子	女子ダブルス戦	25	Rnd of 16	敗	PAVLOVA I / PAVLOVA A	RUS	1-2	8-15	17-16	9-15	決勝トーナメント 2回戦敗退
11	中西 潤 甲斐勝巳	男子ダブルス戦	30	Rnd of 32	勝	DAULETAEV Z / URAZALIEV P	KAZ	2-0	17-16	15-9		ベスト8
				Rnd of 16	勝	GETOV L / ANTOV G	BUL	2-0	15-5	15-1		
				準々決勝	敗	BAGGA R / DHILLON S	IND	0-2	2-15	5-15		
12	小堀知史 秋山雅彦	男子ダブルス戦	30	Rnd of 32	勝	DOVYDAITIS T / JANKUS A	LIT	2-0	15-5	15-4		決勝トーナメント 2回戦敗退
				Rnd of 16	敗	LEE B / SIN W	KOR	0-2	4-15	12-15		
13	秋山雅彦 石井満里	混合ダブルス戦	48	Rnd of 32	勝	EFREMOV M / GURINA O	RUS	2-0	15-5	15-9		4位
				Rnd of 16	勝	CHOI W / BAK J	KOR	2-1	12-15	15-8	15-4	
				準々決勝	勝	GEBAUER R / KLOPP S	GER	2-0	15-5	15-4		
				準決勝	敗	SIN W / JEONG H	KOR	0-2	6-15	5-15		
				3位決定戦	敗	KARPOV A / PAVLOVA A	RUS	1-2	15-13	3-15	10-15	
14	小堀知史 樋渡美香	混合ダブルス戦	48	Rnd of 64	勝	KARCHEV D / KOLITSOVA G	BUL	2-0	15-1	15-1		決勝トーナメント 3回戦敗退
				Rnd of 32	勝	DHILLON S / PREM R	IND	2-0	15-3	15-2		
				Rnd of 16	敗	WITTE O / FISCHER S	GER	0-2	7-15	9-15		
15	中西 潤 羽賀照予	混合ダブルス戦	48	Rnd of 32	勝	THOMAS M / DIESSLIN H	GER	2-1	15-5	16-17	15-5	決勝トーナメント 3回戦敗退
				Rnd of 16	敗	BHAKER R / GHOSH P	IND	2-0	10-15	6-15		
16	甲斐勝巳 中井智子	混合ダブルス戦	48	Rnd of 32	敗	SADLER C / WALKER F	GBR	0-2	3-15	4-15		決勝トーナメント 2回戦敗退

団体戦

No	登録選手	種目	参加数	プログラム	対戦国	勝敗	Match	種目	出場選手	対戦選手	Match	スコア			成績	
												Game 1	Game 2	Game 3		
1	小堀知史 秋山雅彦 中西 潤 甲斐勝巳 石井満里 樋渡美香 羽賀照予 中井智子	団体戦	16		LIT	敗	2-3	男子シングルス	中西	DOVYDAITIS T	0-2	10-15	6-15		ベスト8	
								女子シングルス	樋渡	DOVYDAITYTE K	0-2	4-11	2-11			
								男子ダブルス	小堀・秋山	JANKUS A / DOVYDAITIS T	2-0	15-7	15-13			
								女子ダブルス	石井・羽賀	DOVYDAITYTE K / NOVIK J	0-2	8-15	5-15			
								混合ダブルス	小堀・石井	JANKUS A / NOVIK J	2-0	15-3	15-8			
					GHA	勝	3-0	不戦勝								
					AUS	勝	5-0	男子シングルス	小堀	O'DWYER J	2-0	15-1	15-1			
								女子シングルス	石井	CARROLL F	2-0	11-0	11-1			
								男子ダブルス	秋山・中西	(対戦選手失格により不戦勝)						
								女子ダブルス	樋渡・羽賀	TAYLOR L / FOGARTY M	2-0	15-6	15-2			
								混合ダブルス	甲斐・中井	O'DWYER J / HOLMAN D	2-0	15-1	15-5			
					準々決勝	KOR	敗	3-1	男子シングルス	秋山	SIN W	0-2	3-15	0-15		
									女子シングルス	石井	JEONG H	0-2	3-11	9-11		
									男子ダブルス	秋山・小堀	SIN W / LEE B	1-2	15-10	8-15		5-15
									女子ダブルス	石井・樋渡	JEONG H / PARK Y	2-1	6-15	15-11		15-2
混合ダブルス	小堀・樋渡	LEE B / PARK Y	2-0	15-4					15-1							

総合順位

メダル	ランク	チーム	
金	1	KOR	韓国
銀	2	GER	ドイツ
銅	3	IND	インド
	4	LTU	リトアニア

ソートメント

【団体戦記録】

<予選リーグ戦>

Aグループ

	韓国	ロシア	中国	南アフリカ	勝	負	ポイント	順位
韓国		4-1	1-0	5-0	10	1	9	1位
ロシア	1-4		5-0	5-0	11	4	7	2位
中国	0-1	0-5		5-0	5	6	-1	3位
南アフリカ	0-5	0-5	0-5		0	15	-15	4位

Bグループ

	ドイツ	ニューゼaland	インドネシア	インド	勝	負	ポイント	順位
ドイツ		5-0	0-0	2-3	7	3	4	2位
ニューゼaland	0-5		0-0	1-4	1	9	-8	4位
インドネシア	0-0	0-0		0-0	0	0	0	3位
インド	3-2	4-1	0-0		7	1	6	1位

Cグループ

	イギリス	フランス	ブルガリア	スイス	勝	負	ポイント	順位
イギリス		0-0	3-2	2-3	5	5	0	2位
フランス	0-0		0-0	0-0	0	0	0	2位
ブルガリア	2-3	0-0		2-3	4	6	-2	4位
スイス	3-2	0-0	3-2		6	4	2	1位

Dグループ

	日本	リトアニア	ガーナ	オーストラリア	勝	負	ポイント	順位
日本		2-3	0-0	5-0	7	3	4	2位
リトアニア	3-2		0-0	5-0	8	2	6	1位
ガーナ	0-0	0-0		0-0	0	0	0	3位
オーストラリア	0-5	0-5	0-0		0	10	-10	4位

<決勝戦>

韓国 3-2 ドイツ

<順位決定戦>

3~4位決定戦 インド 3-2 リトアニア

ベスト8 日本・イギリス・スイス・ロシア

【個人戦順位】

男子シングルス

順位	選手名	国名
1	Rajeev Bagga	インド
2	Nattachai Unsomsri	タイ
3	Rohit Bhaker	インド
4	Woo Choi	韓国
2回戦敗	小堀知史	日本
予選落ち	秋山雅彦	日本
予選落ち	甲斐勝巳	日本
予選落ち	中西 潤	日本

女子シングルス

順位	選手名	国名
1	Kristina Dovydaityte	リトアニア
2	Hwa Jeong	韓国
3	Yeon Park	韓国
4	Olga Gurina	ロシア
ベスト8	石井満里	日本
ベスト8	樋渡美香	日本
1回戦敗	羽賀照予	日本
2回戦敗	中井智子	日本

男子ダブルス

順位	選手名	国名
1	Rajeev Bagga/ Sandeep Dhillon	インド
2	Bong Lee/ Woo Sin	韓国
3	Artemy Karpov/ Mikhail Efremov	ロシア
4	Yeo Kok Fang/ Koh Fook Soong	マレーシア
ベスト8	中西 潤/甲斐勝巳	日本
2回戦敗	小堀知史/秋山雅彦	日本

女子ダブルス

順位	選手名	国名
1	石井満里/ 樋渡美香	日本
2	Yeon Park/ Hwa Jeong	韓国
3	Kristina Dovydaityte/ Jevgenija Novik	リトアニア
4	Irina Pavlova/ Alena Pavlova	ロシア
2回戦敗	羽賀照予/中井智子	日本

混合ダブルス

順位	選手名	国名
1	Woo Sin/ Hwa Jeong	韓国
2	Tomas Dovydaitis/ Kristina Dovydaityte	リトアニア
3	Artemy Karpov/ Alena Pavlova	ロシア
4	秋山雅彦/石井満里	日本
3回戦敗	小堀知史/樋渡美香	日本
3回戦敗	中西 潤/羽賀照予	日本
2回戦敗	甲斐勝巳/中井智子	日本

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

バスケットボール (男子)

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	Q1	Q2	Q3	Q4	成績
予選リーグ	対 ロシア (RUS)	敗	JPN 51 - 120 RUS	17-29	9-25	13-35	12-31	1勝4敗
	対 ニュージーランド (NZL)	勝	JPN 101 - 44 NZL	29-13	28-12	22-10	22-9	
	対 スロベニア(SLO)	敗	JPN 102 - 63 SLO	10-29	17-30	17-20	19-23	
	対 オーストラリア (AUS)	敗	JPN 84- 95 AUS	17-23	17-34	21-20	29-18	
	対 中国 (CHN)	敗	JPN 85 - 118 CHN	18-32	15-24	22-22	30-40	
9/10 位決定戦	対 イタリア (ITA)	敗	JPN 66 - 91 ITA	20-23	10-19	22-21	14-28	10 位

予選リーグ

Group A								
	SLO	AUS	RUS	CHN	日本	NZL	勝敗	順位
SLO		079-54	0100-81	0111-74	0102-63	0112-20	5-0	1 位
AUS	x54-79		080-77	0108-70	095-84	0144-40	4-1	2 位
RUS	x81-100	x77-80		0124-77	0120-51	0131-32	2-3	3 位
CHN	x74-111	x70-108	x77-124		0118-85	0111-36	2-3	4 位
日本	x63-102	x84-95	x51-120	x85-118		0101-44	1-4	5 位
NZL	x20-112	x40-144	x32-131	x36-111	x44-101		1-4	6 位

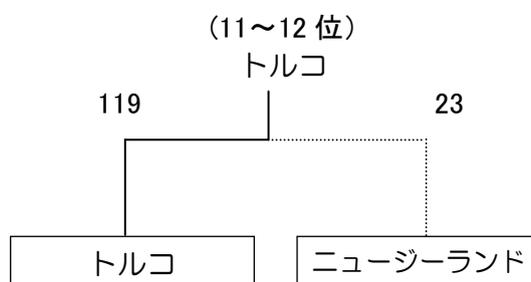
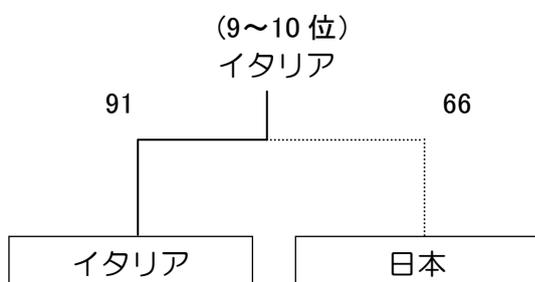
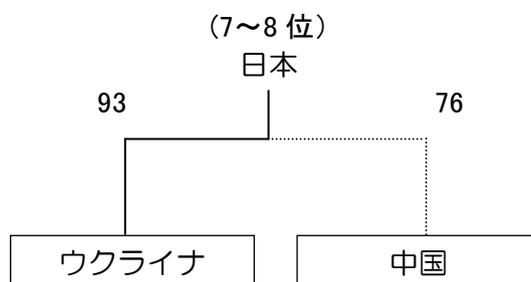
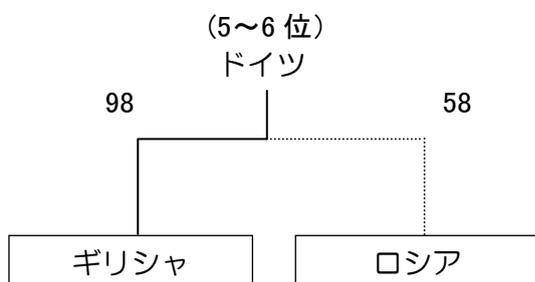
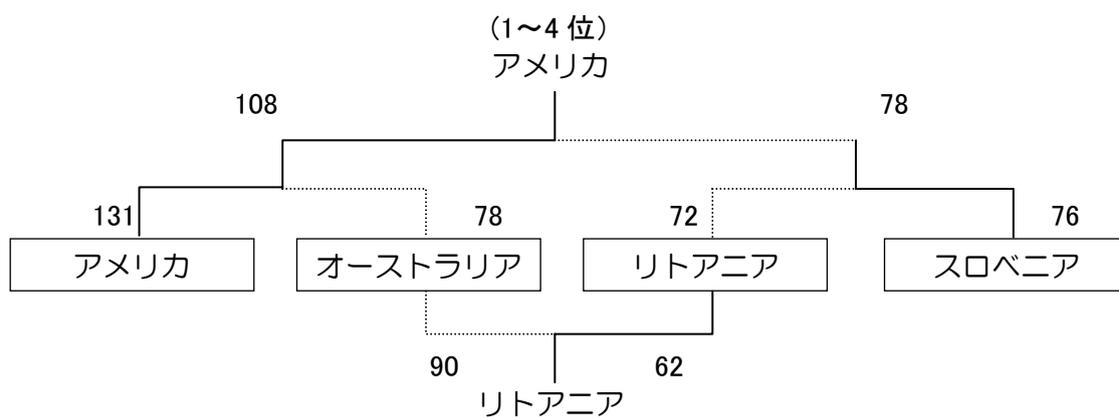
Group B								
	USA	LTU	GRE	UKR	ITA	TUR	勝敗	順位
USA		x66-82	071-49	054-46	073-50	085-27	4-1	1 位
LTU	082-66		x52-63	076-47	083-51	095-34	4-1	2 位
GRE	x49-71	063-52		079-58	067-53	0101-39	4-1	3 位
UKR	x46-54	x47-76	x58-79		079-57	073-32	2-3	4 位
ITA	x50-73	x51-83	x53-67	x57-79		081-33	1-4	5 位
TUR	x27-85	x34-95	x39-101	x32-73	x33-81		0-5	6 位

総合順位

メダル	ランク	チーム		ランク	チーム	
金	1	USA	アメリカ	7	UKR	ウクライナ
銀	2	SLO	スロベニア	8	CHN	中国
銅	3	LTU	リトアニア	9	ITA	イタリア
	4	AUS	オーストラリア	10	JPN	日本
	5	GRE	ギリシア	11	TUR	トルコ
	6	RUS	ロシア	12	NZL	ニュージーランド

バスケットボール

【決勝トーナメント記録】



MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

バスケットボール (女子)

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	Q1	Q2	Q3	Q4	成績
予選リーグ	対 リトアニア(LTU)	敗	JPN 44 - 101 LTU	11-35	7-25	11-24	11-25	1勝4敗
	対 ニュージーランド (NZL)	敗	JPN 49 - 85 NZL	14-27	14-15	10-27	11-16	
	対 アメリカ(USA)	敗	JPN 41 - 98 USA	7-24	12-19	14-26	8-29	
9位決定戦	対 中国(CHN)	勝	JPN 55 - 39 CHN	18-4	14-12	13-8	10-15	8位
5-8位 決定トーナメント	対 ギリシャ (GRE)	敗	JPN 49 - 68 GRE	12-20	15-21	11-19	11-8	
7-8位決定戦	対 ニュージーランド (NZL)	敗	JPN 42 - 79 NZL	9-20	8-22	17-14	8-23	

予選リーグ

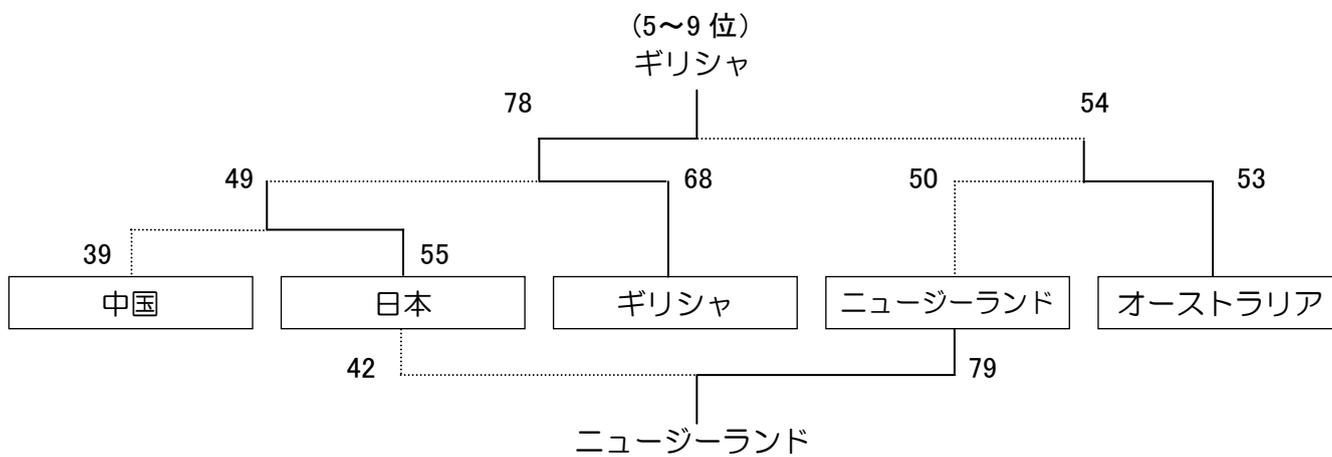
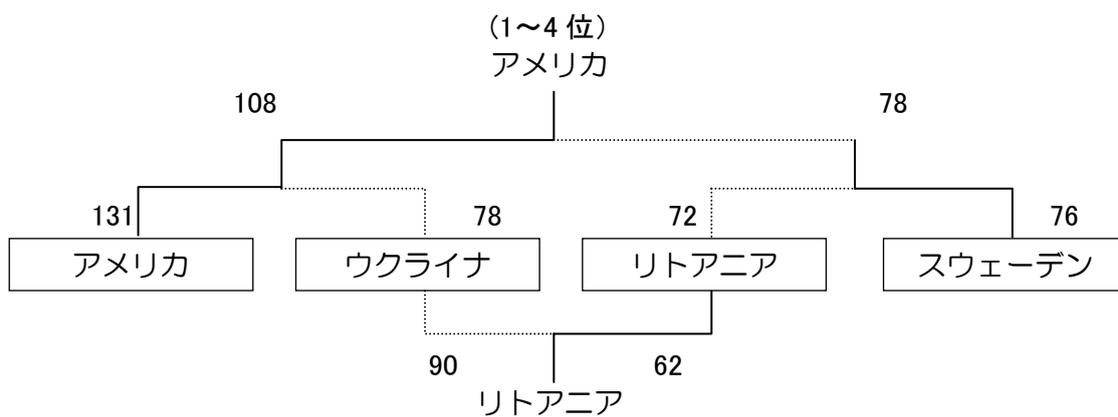
Group A							
	SWE	UKR	GRE	AUS	CHN	勝敗	順位
SWE		073-44	087-35	096-36	0115-25	4-0	1位
UKR	x44-73		088-42	061-49	0107-17	3-1	2位
GRE	x35-87	x42-88		077-59	077-32	2-2	3位
AUS	x36-96	x49-69	x49-69		020-0	1-3	4位
CHN	x25-115	x17-107	x32-77	x0-20		0-4	5位

Group B						
	USA	LTU	NZL	日本	勝敗	順位
USA		x92-61	099-34	098-41	2-1	1位
LTU	061-92		x52-63	085-47	2-1	2位
NZL	x36-99	047-85		085-49	2-1	3位
日本	x41-98	x40-109	x49-85		0-3	4位

総合順位

メダル	ランク	チーム		ランク	チーム	
金	1	USA	アメリカ	7	NZL	ニュージーランド
銀	2	SWE	スウェーデン	8	JPN	日本
銅	3	LTU	リトアニア	9	CHN	中国
	4	UKR	ウクライナ			
	5	GRE	ギリシア			
	6	AUS	オーストラリア			

【決勝トーナメント記録】



MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

サッカー

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	PK	成績
予選リーグ	対 アルゼンチン (ARG)	勝	不戦勝		1勝1敗1分
	対 ロシア (RUS)	引	JPN 2 - 2 RUS		
	対 オランダ (NED)	敗	JAP 0 - 9 NED		
9-12位決定 トーナメント	対 チェコ (CZE)	敗	JPN 2 - 2 CZE	5-6	12位
11/12位決定戦	対 ギリシャ (GRE)	敗	JPN 0 - 1 GRE		

予選リーグ

Group A						
	NED	RUS	日本	ARG	勝敗	順位
NED		△2-2	○9-0	○3-0	2勝1分	1位
RUS	△2-2		△2-2	○3-0	1勝2分	2位
日本	×0-9	△2-2		○3-0	1勝1負1分	3位
ARG	×0-3	×0-3	×0-3		0-3	4位

Group B						
	ITA	TUR	USA	GHA	勝敗	順位
ITA		△1-1	○4-1	○8-0	2勝1分	1位
TUR	△1-1		○2-1	○2-0	2勝1分	2位
USA	×1-4	×1-2		○3-0	1-2	3位
GHA	×0-8	×0-2	×0-3		0-3	4位

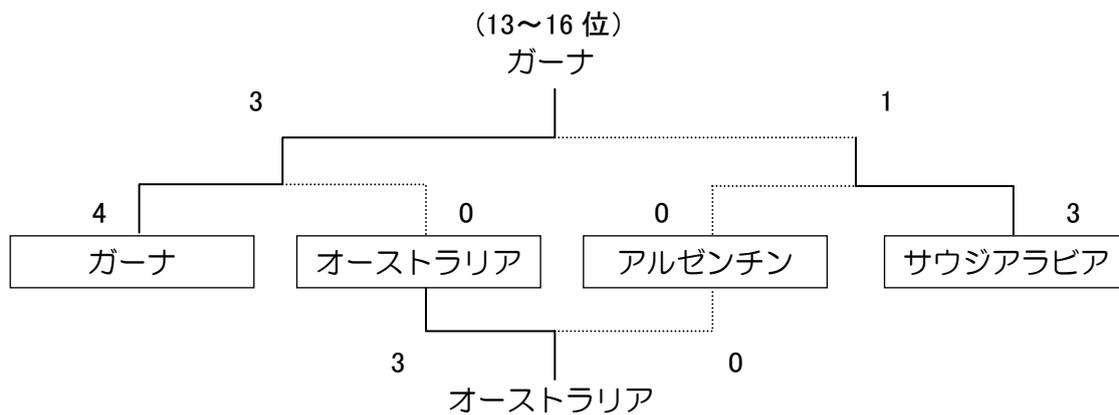
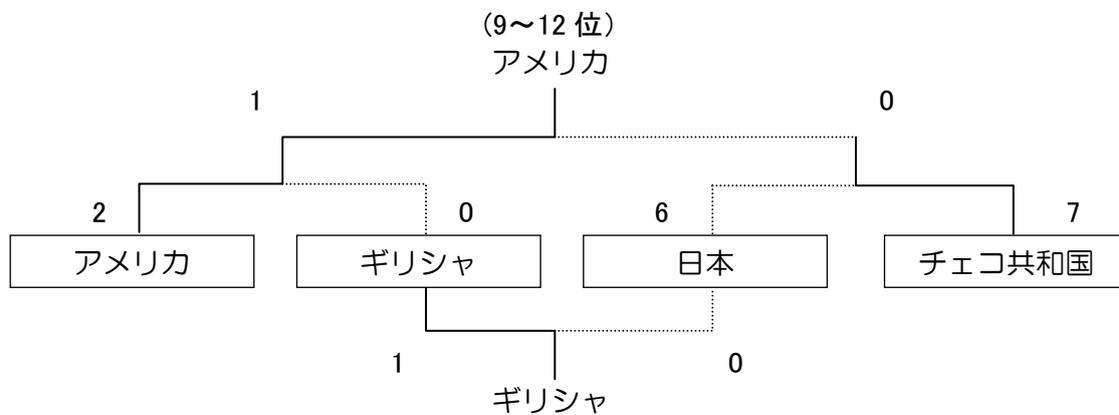
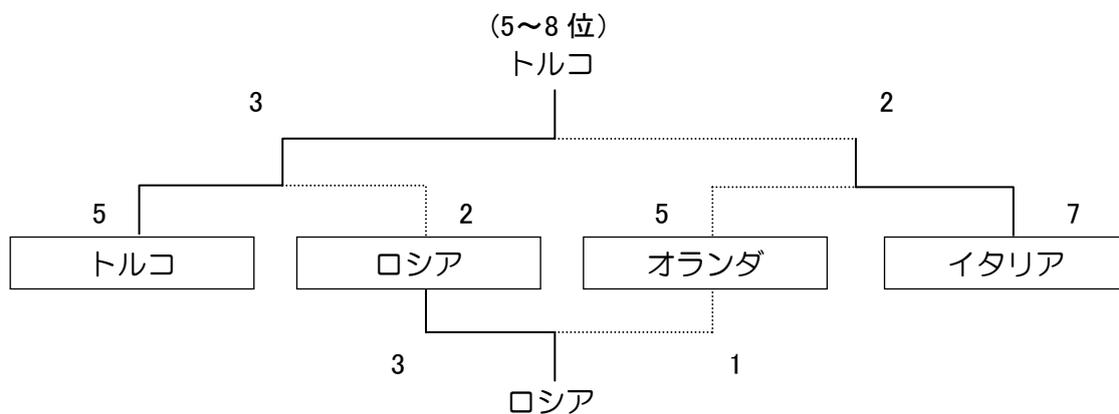
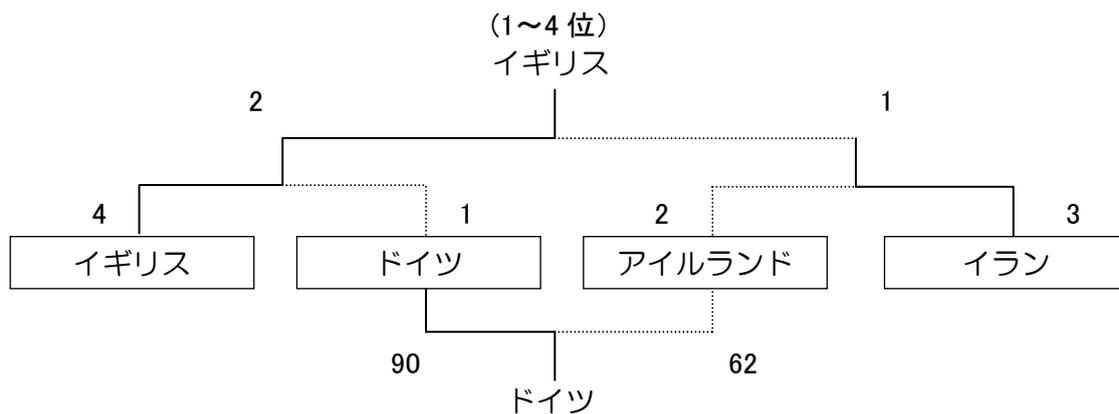
Group C						
	GER	IRI	CZE	KSA	勝敗	順位
GER		△1-1	○2-0	○3-1	2勝1分	1位
IRI	△1-1		△1-1	○5-3	1勝2分	2位
CZN	×0-2	△1-1		○2-1	1勝1負1分	3位
KSA	×1-3	×3-5	×1-2		0-3	4位

Group D						
	GBR	IRL	GRE	AUS	勝敗	順位
GBR		○2-0	○2-0	○5-1	3-0	1位
IRL	×0-2		○3-1	○11-0	2-1	2位
GRE	×0-2	×1-3		○3-1	1-2	3位
AUS	×1-5	×0-11	×1-3		0-3	4位

総合順位

メダル	ランク	チ ャ ー ム		ランク	チ ャ ー ム	
金	1	GBR	イギリス	9	USA	アメリカ
銀	2	IRI	イラン	10	CZE	チェコ共和国
銅	3	GER	ドイツ	11	GRE	ギリシャ
	4	IRL	アイルランド	12	JPN	日本
	5	TUR	トルコ	13	GHA	ガーナ
	6	ITA	イタリア	14	KSA	サウジアラビア
	7	RUS	ロシア	15	AUS	オーストラリア
	8	NED	オランダ	16	ARG	アルゼンチン

【決勝トーナメント記録】



MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

# オリエンテーリング

短距離

順位	選手名	国名	タイム	1位との時間差
1	Kuzminskis, Tomas	リトアニア	24:50:00	0:00
2	Matter, Christian	スイス	27:15:00	2:25
3	Krams, Andis	ラトビア	28:40:00	3:50
4	Dinges, Victor	ロシア	29:11:00	4:21
5	Svenningsson, Torborn	スウェーデン	29:44:00	4:54
6	Ruff, Robert	ハンガリー	30:12:00	5:22
7	Lavryk, Oleg	ウクライナ	30:28:00	5:38
8	Kubaitis, Arunas	リトアニア	30:34:00	5:44
9	Ljungberg, Curt	スウェーデン	31:19:00	6:29
10	Sankin, Oleksandr	ウクライナ	31:54:00	7:04
11	Hagstedt, Lars	スウェーデン	32:17:00	7:27
12	Farkhutdinov, Ravil	ロシア	32:38:00	7:48
13	Songinas, Vytautas	リトアニア	33:36:00	8:46
14	Mihalyi, Ferenc	ハンガリー	33:49:00	8:59
15	Znamenshchikov, Dmitry	ロシア	33:56:00	9:06
16	Lehtonen, Marko	フィンランド	36:31:00	11:41
17	Szebeli, Istvan	ハンガリー	37:22:00	12:32
18	Katsman, Eduard	イスラエル	38:19:00	13:29
19	Valimaki, Jukka	フィンランド	38:58:00	14:08
20	Schelbert, Othmar	スイス	42:18:00	17:28
21	野中好夫	日本	46:15:00	21:25
22	Welshe, Andrew	オーストラリア	53:46:00	28:56
23	Batten, Caine	オーストラリア	57:26:00	32:36
失格	Malinen, Sami	フィンランド		
失格	Hilfiker, Christian	スイス		
失格	Melashenko, Dmytro	ウクライナ		

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

長距離

順位	選手名	国名	タイム	1位との時間差
1	Kuzminskis, Tomas	リトアニア	66:18:00	0:00
2	Dinges, Victor	ロシア	71:15:00	4:57
3	Svenningsson, Torborn	スウェーデン	72:25:00	6:07
4	Sankin, Oleksandr	ウクライナ	75:02:00	8:44
5	Znamenshchikov, Dmitry	ロシア	76:27:00	10:09
6	Yuryk, Oleksandr	ウクライナ	77:38:00	11:20
7	Krams, Andis	ラトビア	81:41:00	15:23
8	Lavryk, Oleg	ウクライナ	85:21:00	19:03
9	Kubaitis, Arunas	リトアニア	88:36:00	22:18
10	Mihalyi, Ferenc	ハンガリー	88:49:00	22:31
11	Songinas, Vytautas	リトアニア	90:16:00	23:58
12	Ruff, Robert	ハンガリー	91:45:00	25:27
13	Lehtonen, Marko	フィンランド	94:19:00	28:01
14	Katsman, Eduard	イスラエル	97:55:00	31:37
15	Valimaki, Jukka	フィンランド	97:57:00	31:39
16	Szebeli, Istvan	ハンガリー	101:26:00	35:08
17	Hilfiker, Christian	スイス	101:50:00	35:32
18	Schelbert, Othmar	スイス	101:54:00	35:36
19	Matter, Christian	スイス	102:04:00	35:46
20	Farkhutdinov, Ravil	ロシア	107:36:00	41:18
21	Ljungberg, Curt	スウェーデン	108:33:00	42:15
22	野中 好夫	日本	168:21:00	102:03
失格	Toom, Esa	フィンランド	Mispunched	
失格	Welshe, Andrew	オーストラリア	Mispunched	
失格	Batten, Caine	オーストラリア	Mispunched	
失格	Hagstedt, Lars	スウェーデン	Mispunched	

【個人戦順位】

男子 長距離

順位	選手名	国名
1	Kuzminskis, Tomas	リトアニア
2	Dinges, Victor	ロシア
3	Svenningsson, Torborn	スウェーデン
4	Sakin, Oleksandr	ウクライナ
22位	野中 好夫	日本

女子 長距離

順位	選手名	国名
1	Lavryk, Tetyana	ウクライナ
2	Chekhunova, Maryna	ウクライナ
3	Dula, Olga	ロシア
4	Filippova, Elena	ロシア
日本人選手は出場していません		

男子 短距離

順位	選手名	国名
1	Kuzminskis, Tomas	リトアニア
2	Matter, Christian	スイス
3	Krams, Andis	ラトビア
4	Dinges, Victor	ロシア
21位	野中 好夫	日本

女子 短距離

順位	選手名	国名
1	Chekhunova, Maryna	ウクライナ
2	Melnyk, Iana	ウクライナ
3	Dula, Olga	ロシア
4	Malykhina, Natalya	ウクライナ
日本人選手は出場していません		

【団体戦順位】

男子 リレー

順位	選手名	国名
1	Yuryk, Oleksandr / Lavryk, Oleg / Sankin, Oleksandr	ウクライナ
2	Ljungberg, Curt / Hagstedt, Lars / Svenningsson, Torborn	スウェーデン
3	Dinges, Victor / Farkhutdinov, Ravil / Znamenshchikov, Dmitry	ロシア
4	Ruff, Robert / Szebeli, Istvan / Mihalyi, Ferenc	ハンガリー
日本人選手は出場していません		

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

水 泳

No.	出場選手	種目	参加数	予選 決勝	順位 (位/人)	記録/Rec.	優勝者			成績
							記録/Rec.	名 前	国名	
1	今村可奈	50m自由形	40	予 選	13/40	29.96	27.39	Lytvynenko, Ganna	UKR	13 位
				B 決勝	5/8	29.52				
		100m 自由形	36	予 選	7/36	1:03.37	59.29	Lytvynenko, Ganna	UKR	5 位
				決 勝	5/8	1:02.60				
		200m自由形	26	予 選	4/26	2:17.28	2:11.73	Lytvynenko, Ganna	UKR	銀メダル
				決 勝	2/8	2:14.13				
		400m自由形	19	予 選	1/19	4:43.20	4:39.86	今村可奈	JPN	金メダル
				決 勝	1/8	4:39.86				
		800m自由形	11	予 選	1/9	9:46.95	9:35.28	今村可奈	JPN	金メダル
				決 勝	1/8	9:35.28				
2	高岸里佳	200m自由形	26	予 選	15/26	2:26.45	2:11.73	Lytvynenko, Ganna	UKR	12 位
				B 決勝	4/8	2:24.27				
		50m 背泳ぎ	32	予 選	6/32	34.68	32.31	Tseng, Shu-Ning	TPE	6 位
				決 勝	6/8	34.70				
		100m 背泳ぎ	31	予 選	12/31	1:15.93	1:10.62	Rudzko, Maryia	BLR	10 位
				B 決勝	2/8	1:14.49				
		200m背泳ぎ	23	予 選	7/23	2:40.57	2:34.14	Rudzko, Maryia	BLR	7 位
				決 勝	7/8	2:40.88				
3	早川友二	50m 自由形	38	予 選	6/38	25.67	24.76	Dontas, Georgios	GRE	5 位
				決 勝	5/8	25.24				
		100m自由形	42	予 選	7/42	55.67	52.47	Parkin, Terence	RSA	8 位
				決 勝	8/8	55.35				
		400m 自由形	25	予 選	13/25	4:31.46	4:07.46	Parkin, Terence	RSA	11 位
				B 決勝	3/8	4:26.41				
		50m <sup>1)</sup> 自由形	32	予 選	6/32	27.63	26.34	McIlroy, David	IRL	4 位
				決 勝	4/8	26.77				

## 日本選手の記録

### 女子 50m 自由形 予選

1	Statkevich, Olga	ロシア	27.54
2	Lytvynenko, Ganna	ウクライナ	27.71
3	Zarn, Victoria	ドイツ	28.52
4	Petrushenka, Aksana	ベラルーシ	28.72
5	He, Yueyue	中国	28.9
6	Kile, Pernilla	スウェーデン	29.08
7	Schliwa, Katrin	ドイツ	29.32
7	Jarych, Jessica	ベルギー	29.32
9	Ozdemir, Seda	アメリカ	29.42
10	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	29.72
11	Filipchik, Anastasi	ベラルーシ	29.75
12	Marushkina, Luiza	ロシア	29.79
13	今村 可奈	日本	29.96
14	McCrea, Sarah	イギリス	30.03

・・・以下 40 位まであり

### 女子 50m 自由形 B 決勝

9	McCrea, Sarah	イギリス	29.17
10	Marushkina, Luiza	ロシア	29.25
11	Ozdemir, Seda	アメリカ	29.28
12	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	29.37
13	今村 可奈	日本	29.52
14	Yeramtsova, Katsiar	ベラルーシ	29.55
15	Roslyng, Anne	デンマーク	29.77
16	Filipchik, Anastasi	ベラルーシ	29.88

### 女子 100m 自由形 予選

1	Statkevich, Olga	ロシア	1:00.22
2	Lytvynenko, Ganna	ウクライナ	1:00.52
3	Petrushenka, Aksana	ベラルーシ	1:00.81
4	Kile, Pernilla	スウェーデン	1:02.68
5	Marushkina, Luiza	ロシア	1:03.19
6	Gus'Kova, Veronika	ロシア	1:03.36
7	今村 可奈	日本	1:03.37
8	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	1:03.47

・・・以下 36 位まで有り。

### 女子 100m 自由形 決勝

1	Lytvynenko, Ganna	ウクライナ	59.29
2	Petrushenka, Aksana	ベラルーシ	1:00.29
3	Statkevich, Olga	ロシア	1:00.33
4	Kile, Pernilla	スウェーデン	1:00.91
5	今村 可奈	日本	1:02.60
6	Marushkina, Luiza	ロシア	1:03.14
7	Jarych, Jessica	ベルギー	1:03.30
8	Resl, Patricia	オーストラリア	1:04.42

### 女子 200m 自由形 予選

1	Lytvynenko, Ganna	ウクライナ	2:16.03
2	Statkevich, Olga	ロシア	2:16.09
3	Petrushenka, Aksana	ベラルーシ	2:16.44
4	今村 可奈		2:17.28
5	Morgan, Caitlin	アメリカ	2:18.51
6	Savchencko, Ekateri	ロシア	2:18.99
7	Danner, Stephanie	アメリカ	2:19.16
8	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	2:20.47
9	Ozdemir, Seda	アメリカ	2:22.50
10	Schliwa, Katrin	ドイツ	2:22.65
11	Filipchik, Anastasi	ベラルーシ	2:25.06
12	Lerwill, Harriet	イギリス	2:25.22
13	Guba, Alla	ロシア	2:25.65
14	Westerlund, Ellinor	スウェーデン	2:26.34
15	高岸 里佳	日本	2:26.45
16	Yet Foy, Aleshia	オーストラリア	2:26.49

・・・以下、26 位まで有り。

### 女子 200m 自由形 決勝

1	Lytvynenko, Ganna	ウクライナ	2:11.73
2	今村 可奈	日本	2:14.13
3	Petrushenka, Aksana	ベラルーシ	2:14.86
4	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	2:15.62
5	Danner, Stephanie	アメリカ	2:16.29
6	Morgan, Caitlin	アメリカ	2:16.57
7	Savchencko, Ekateri	ロシア	2:18.41
8	Statkevich, Olga	ロシア	2:19.57

女子 200m 自由形 B 決勝

9	Westerlund, Ellinor	スウェーデン	2:22.38
10	Lerwill, Harriet	イギリス	2:22.81
11	Yet Foy, Aleshia	オーストラリア	2:23.15
12	高岸 里佳	日本	2:24.27
13	Guba, Alla	ロシア	2:24.42
14	Filipchuk, Anastasi	ベラルーシ	2:24.84
15	Michaelsen, Camilla	デンマーク	2:26.18
16	Xu, Zhiying	中国	2:28.15

女子 400m 自由形 予選

1	今村 可奈	日本	4:43.20
2	Jin, Dingding	中国	4:49.38
3	Danner, Stephanie	アメリカ	4:50.22
4	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	4:50.46
5	Marushkina, Luiza	ロシア	4:51.83
6	Savchencko, Ekateri	ロシア	4:54.62
7	Robinson, Carly	アメリカ	4:54.85
8	Jarych, Jessica	ベルギー	4:55.86

・・・以下 19 位まで有り

女子 400m 自由形 決勝

1	今村 可奈	日本	4:39.86
2	Jin, Dingding	中国	4:41.37
3	Danner, Stephanie	アメリカ	4:44.89
4	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	4:44.99
5	Marushkina, Luiza	ロシア	4:48.48
6	Savchencko, Ekateri	ロシア	4:49.91
7	Jarych, Jessica	ベルギー	4:55.12
8	Robinson, Carly	アメリカ	4:59.56

女子 800m 自由形 予選

1	今村 可奈	日本	9:46.95
2	Fedorova, Olga	ロシア	9:50.13
3	Jin, Dingding	中国	9:52.42
4	Danner, Stephanie	アメリカ	10:02.86
5	Marushkina, Luiza	ロシア	10:05.07
6	Robinson, Carly	アメリカ	10:06.95
7	Ates, Kristin	アメリカ	10:24.59
8	Westerlund, Ellinor	スウェーデン	10:32.17
9	Zarn, Victoria	ドイツ	10:32.77
10	Hsieh, Wan-Cheng	中国	11:05.72
	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	DQ

女子 800m 自由形 決勝

1	今村 可奈	日本	9:35.28
2	Jin, Dingding	中国	9:39.52
3	Fedorova, Olga	ロシア	9:42.50
4	Danner, Stephanie	アメリカ	9:49.41
5	Marushkina, Luiza	ロシア	10:05.31
6	Robinson, Carly	アメリカ	10:15.21
7	Ates, Kristin	アメリカ	10:17.00
8	Westerlund, Ellinor	スウェーデン	10:27.31

女子 50m 背泳ぎ 予選

1	Rudzko, Maryia	ベラルーシ	33.12
2	Tseng, Shu-Ning	台北	33.31
3	McCrea, Sarah	イギリス	33.76
4	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	33.80
5	Statkevich, Olga	ロシア	34.32
6	高岸 里佳	日本	34.68
7	Mauritzson, Jessica	スウェーデン	34.70
8	Roslyng, Anne	デンマーク	34.89

・・・以下 32 位まで有り。

女子 50m 背泳ぎ 決勝

1	Tseng, Shu-Ning	台北	32.31
2	McCrea, Sarah	イギリス	32.46
3	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	32.64
4	Rudzko, Maryia	ベラルーシ	32.88
5	Statkevich, Olga	ロシア	34.23
6	高岸 里佳	日本	34.70
7	Roslyng, Anne	デンマーク	34.79
8	Mauritzson, Jessica	スウェーデン	35.22

女子 200m 背泳ぎ 予選

1	Rudzko, Maryia	ベラルーシ	2:35.81
2	Schliwa, Katrin	ドイツ	2:36.82
3	Danner, Stephanie	アメリカ	2:38.46
4	Tseng, Shu-Ning	台北	2:38.58
5	Gus'Kova, Veronika	ロシア	2:38.98
6	Roslyng, Anne	デンマーク	2:40.48
7	高岸 里佳	日本	2:40.57
8	McCrea, Sarah	イギリス	2:40.70

・・・以下 23 位まで有り。

女子 100m 背泳ぎ 予選

1	Rudzko, Maryia	ベラルーシ	1:11.44
2	Tseng, Shu-Ning	台北	1:11.97
3	Polivanchuk, Anna	スウェーデン	1:12.07
4	Schliwa, Katrin	ドイツ	1:13.17
5	Gus'Kova, Veronika	ロシア	1:14.12
6	McCrea, Sarah	イギリス	1:14.17
7	Danner, Stephanie	アメリカ	1:14.47
8	Roslyng, Anne	デンマーク	1:14.77
9	He, Yueyue	中国	1:15.13
10	Statkevich, Olga	ロシア	1:15.66
11	Resl, Patricia	オーストリア	1:15.90
12	高岸 里佳	日本	1:15.93
13	Robinson, Carly	アメリカ	1:15.97

・・・以下 32 位まで有り。

女子 200m 背泳ぎ 決勝

1	Rudzko, Maryia	ベラルーシ	2:34.14
2	Danner, Stephanie	アメリカ	2:34.73
3	Gus'Kova, Veronika	ロシア	2:35.85
4	Schliwa, Katrin	ドイツ	2:37.23
5	McCrea, Sarah	イギリス	2:38.00
6	Tseng, Shu-Ning	台北	2:39.27
7	高岸 里佳	日本	2:40.88
8	Roslyng, Anne	デンマーク	2:42.63

男子 50m 自由形 予選

1	Dontas, Georgios	ギリシャ	24.97
2	Kealy, John	アイルランド	25.23
3	Lessing, Greg	南アフリカ	25.37
4	Grigoryev, Dmitry	ロシア	25.59
5	Parker, Dale	アメリカ	25.60
6	McIlroy, David	アイルランド	25.65
7	早川 友二	日本	25.67
8	Nolan, Eoin	アイルランド	25.77

・・・以下 37 位、棄権 1 名まで有り。

女子 100m 背泳ぎ B 決勝

9	He, Yueyue	中国	1:13.90
10	高岸 里佳	日本	1:14.49
11	Bennett, Kathleen	イギリス	1:15.95
12	Resl, Patricia	オーストリア	1:16.27
13	Lerwill, Harriet	イギリス	1:16.40
14	Robinson, Carly	アメリカ	1:18.41
15	Houghton, Teneale	オーストラリア	1:19.57

男子 50m 自由形 決勝

1	Dontas, Georgios	ギリシャ	24.76
2	Kealy, John	アイルランド	25.03
2	Lessing, Greg	南アフリカ	25.03
4	Nolan, Eoin	アイルランド	25.20
5	早川 友二	日本	25.24
6	Mclroy, David	アイルランド	25.27
7	Grigoryev, Dmitry	ロシア	25.34
8	Parker, Dale	アメリカ	25.38

男子 100m 自由形 予選

1	Parkin, Terence	南アフリカ	54.65
2	Dontas, Georgios	ギリシャ	54.84
3	Nolan, Eoin	アイルランド	55.05
4	Lessing, Greg	南アフリカ	55.20
5	Kealy, John	アイルランド	55.33
6	Grigoryev, Dmitry	ロシア	55.44
7	早川 友二	日本	55.67
8	Prosser, Scott	オーストラリア	56.08

・・・以下 42 位まで有り。

男子 100m 自由形 決勝

1	Parkin, Terence	南アフリカ	52.47
2	Kealy, John	アイルランド	53.66
3	Grigoryev, Dmitry	ロシア	53.74
4	Lessing, Greg	南アフリカ	54.23
5	Nolan, Eoin	アイルランド	54.46
6	Prosser, Scott	オーストラリア	54.87
7	Dontas, Georgios	ギリシャ	54.90
8	早川 友二	日本	55.35

男子 50m バタフライ 決勝

1	Mclroy, David	アイルランド	26.34
2	Kealy, John	アイルランド	26.46
3	Grigoryev, Dmitry	ロシア	26.68
4	早川 友二	日本	26.77
5	Dontas, Georgios	ギリシャ	27.01
6	Taranau, Andrei	ベラルーシ	27.07
7	Prosser, Scott	オーストラリア	27.18
8	Parker, Dale	アメリカ	27.42

男子 400m 自由形 予選

1	Parkin, Terence	南アフリカ	4:15.69
2	Tikhonoff, Jonathan	アメリカ	4:16.60
3	Lessing, Nick	南アフリカ	4:16.96
4	Lange, Nicky	ドイツ	4:18.50
5	Prosser, Scott	オーストラリア	4:19.36
6	Natalchuk, Volodymy	ウクライナ	4:21.96
7	Shing, Anthony	オーストラリア	4:26.55
8	Grigaitis, Marius	リトアニア	4:27.83
9	Sawyer, Brian	カナダ	4:30.13
10	Clark, Raymond	アメリカ	4:30.14
11	Vysotskyy, Oleksiy	ウクライナ	4:30.93
12	Fidrych, Jonathan	アメリカ	4:31.30
13	早川 友二	日本	4:31.46
14	Weinhagen, Alexande	スウェーデン	4:32.52

・・・以下 25 位まで有り。

男子 400m 自由形 B 決勝

9	Fidrych, Jonathan	アメリカ	4:26.13
10	Weinhagen, Alexande	スウェーデン	4:26.23
11	早川 友二	日本	4:26.41
12	Sawyer, Brian	カナダ	4:27.76
13	Clark, Raymond	アメリカ	4:29.10
14	Nesbitt, Niall	イギリス	4:34.18
15	Vegeļ, Rok	スロベニア	4:36.57
16	Hernandez, Kevin	ベネズエラ	4:40.23

男子 50m バタフライ 予選

1	Mclroy, David	アイルランド	26.65
2	Taranau, Andrei	ベラルーシ	27.04
3	Grigoryev, Dmitry	ロシア	27.14
4	Kealy, John	アイルランド	27.29
5	Dontas, Georgios	ギリシャ	27.38
6	早川 友二	日本	27.63
7	Parker, Dale	アメリカ	27.74
8	Prosser, Scott	オーストラリア	27.78

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

卓球  
シングルス・ダブルス

No	出場選手	種目	参加数	プログラム	勝敗	対戦相手		Match	スコア							成績
						選手名	国名		Game1	Game2	Game3	Game4	Game5	Game6	Game7	
1	船越京子	女子個人戦	39	予選リーグ	敗	SHI Ce	CHN	0-3	5-11	5-11	6-11					銀メダル
					勝	KISYOVA Ivanka	BUL	3-0	11-5	11-5	11-3					
					勝	MO Yun Sol	KOR	3-0	11-5	11-1	11-6					
					勝	USPANOVA Ayman	KAZ	3-1	11-5	13-11	9-11	13-11				
					Rnd of 16	勝	SHAGIEVA Elena	RUS	4-0	11-5	11-5	11-8	11-6			
					準々決勝	勝	SERGIYENKO Nataliya	UKR	4-0	11-6	11-6	11-6	11-10			
					準決勝	勝	WANG Dongmei	CHN	4-2	11-8	10-12	11-13	12-10	11-3	11-9	
決勝	敗	SHI Ce	CHN	2-4	9-11	11-6	13-11	6-11	6-11	5-11						
2	今西直子	女子個人戦	39	予選リーグ	敗	MIRONOVA Tatiana	RUS	0-3	8-11	3-11	7-11				決勝トーナメント 1回戦敗退	
					勝	NOONAN Leslie	AUS	3-0	11-3	11-3	11-2					
					勝	SRIVASTAVA Amita	IND	3-0	11-6	11-9	12-10					
					勝	BAYRAK Tetyana	UKR	3-0	11-9	11-8	11-6					
					Rnd of 32	敗	BOZHKO Nataliya	UKR	3-4	11-6	10-12	3-11	11-9	11-5		2-11
3	田中雅美	女子個人戦	39	予選リーグ	勝	KVASHNINA Olga	RUS	3-1	11-7	6-11	11-8	11-1			決勝トーナメント 2回戦敗退	
					勝	BALTOVA Lidiya	BUL	3-0	11-2	11-2	11-6					
					勝	RUTENBERG Katharina	GER	3-0	11-4	11-3	11-6					
					Rnd of 16	敗	VASYLYEVA Mariya	UKR	0-4	7-11	4-11	8-11	9-11			
4	寺田千寿子	女子個人戦	39	予選リーグ	勝	SAHA Poli	IND	3-1	12-10	11-3	11-13	11-5			予選リーグ敗退 (1勝2敗)	
					敗	REIDER Ilona	HUN	2-3	14-12	8-11	11-9	6-11	8-11			
					敗	SHAGIEVA Elena	RUS	2-3	11-7	7-11	7-11	11-9	5-11			
5	青山 修	男子個人戦	60	予選リーグ	敗	GNATYUK Andriy	UKR	1-3	10-12	11-4	7-11	13-15			決勝トーナメント 1回戦敗退	
					勝	BOYLE Trevor	AUS	3-0	11-6	11-6	11-2					
					勝	MISHRA Shreyansha	IND	3-0	11-2	11-0	11-3					
					勝	VIG Gyula	HUN	3-0	11-9	11-5	11-3			8-11		
					Rnd of 32	敗	LI Yunnan	CHN	0-4	6-11	6-11	5-11	6-11			
6	上江洲光彦	男子個人戦	60	予選リーグ	勝	BEZDENEZHNYI Sergey	RUS	3-2	6-11	13-15	11-7	11-8	11-8		決勝トーナメント 1回戦敗退	
					勝	HASAN Halit	BUL	3-2	5-11	11-9	5-11	11-9	12-10			
					勝	MERCAN Hasan	TUR	3-0	11-6	11-5	11-7					
					勝	STRUMSKIS Gediminas	LTU	3-0	11-9	11-2	11-3					
Rnd of 32	敗	YANG Jung-Tsung	TPE	0-4	6-11	1-11	9-11	9-11								
7	国本雄一郎	男子個人戦	60	予選リーグ	敗	BARASHKIN Vladimir	RUS	2-3	13-11	8-11	11-9	7-11	8-11		決勝トーナメント 1回戦敗退	
					勝	DAI Jin	CHN	3-1	11-9	11-13	11-5	11-5				
					勝	CHERNYAK Ihor	UKR	3-1	3-11	11-6	11-5	11-7				
					勝	AYGUN Burcin	TUR	3-1	11-7	9-11	17-15	11-5				
					Rnd of 32	敗	GNATYUK Andriy	UKR	0-4	6-11	11-13	3-11	5-11			
8	渡辺 誠	男子個人戦	60	予選リーグ	敗	RUPCIC Ivan	GER	2-3	11-8	11-7	5-11	6-11	9-11		予選リーグ敗退 (1勝2敗)	
					勝	RUTOWSKI Marek	POL	3-2	11-9	11-7	7-11	7-11	11-7			
					敗	HEGEDUS Bela	GBR	0-3	8-11	7-11	7-11					
9	船越京子 今西直子	女子ダブルス戦	17	準々決勝	勝	NOONAN L / MACDOUGAL M	AUS	4-0	11-1	11-6	11-1	11-5			銀メダル	
					勝	BOZHKO N / SERGIYENKO N	UKR	4-3	9-11	11-13	4-11	11-5	11-8	11-9		11-6
					準決勝	勝	LAZANE-BREGOCS E / REIDER I	HUN	4-2	11-7	4-11	11-2	11-7	9-11		11-6
					決勝	敗	WANG D / SHI C	CHN	2-4	12-10	6-11	2-11	11-7	9-11		2-11
10	田中雅美 寺田千寿子	女子ダブルス戦	17	準決勝	敗	TUROCYZ E / SZECSI K	HUN	3-4	9-11	11-3	13-11	7-11	10-12	11-7	11-13	決勝トーナメント 2回戦敗退
					Rnd of 16	勝	HASAN H / KOLEV P	BUL	4-1	6-11	11-8	13-11	11-1	11-9		
					準々決勝	勝	HSIA J / CHANG T	TPE	4-1	11-7	8-11	11-7	11-1	11-9		
					準決勝	敗	BAHER T / MECHAU M	GER	0-4	7-11	5-11	5-11	7-11			
11	青山 修 上江洲光彦	男子ダブルス戦	28	3位決定戦	敗	RUPCIC I / BARON J	GER	1-4	8-11	8-11	14-12	9-11	8-11		4位	
					Rnd of 16	勝	HASAN H / KOLEV P	BUL	4-1	6-11	11-8	13-11	11-1	11-9		
					準々決勝	勝	HSIA J / CHANG T	TPE	4-1	11-7	8-11	11-7	11-1	11-9		
					準決勝	敗	BAHER T / MECHAU M	GER	0-4	7-11	5-11	5-11	7-11			
12	国本雄一郎 渡辺 誠	男子ダブルス戦	28	準決勝	敗	RUPCIC I / BARON J	GER	1-4	8-11	8-11	14-12	9-11	8-11		決勝トーナメント 2回戦敗退	
					Rnd of 16	敗	RUPCIC I / BARON J	GER	1-4	5-11	11-7	8-11	7-11	7-11		
					2回戦	勝	JAIN G / SAHA P	IND	4-0	11-5	11-5	12-10	11-5			
					3回戦	勝	LEE K / MO Y	KOR	4-2	8-11	6-11	12-10	11-9	11-2		11-5
					準々決勝	勝	LI C / WANG D	CHN	4-3	9-11	11-5	6-11	9-11	11-5		11-9
13	青山 修 船越京子	混合ダブルス戦	38	準決勝	敗	ZAKLADNYI G / VASYLYEVA M	UKR	3-4	6-11	5-11	11-8	11-8	2-11	11-9	7-11	4位
					3位決定戦	敗	DAI J / LIN H	CHN	2-4	7-11	11-13	9-11	11-4	11-8	10-12	
					2回戦	敗	GAVRILENKO V / MIRONOVA T	RUS	2-4	11-13	6-11	11-2	12-10	10-12	9-11	
					3回戦	勝	HONG S / SHIN S	KOR	4-0	11-8	11-9	11-1	11-6			
14	上江洲光彦 今西直子	混合ダブルス戦	38	2回戦	敗	GAVRILENKO V / MIRONOVA T	RUS	2-4	11-13	6-11	11-2	12-10	10-12	9-11	決勝トーナメント 2回戦敗退	
					3回戦	敗	LI Y / SHI C	CHN	0-4	6-11	4-11	7-11	9-11			
15	国本雄一郎 田中雅美	混合ダブルス戦	38	2回戦	勝	HONG S / SHIN S	KOR	4-0	11-8	11-9	11-1	11-6			決勝トーナメント 3回戦敗退	
					3回戦	敗	LI Y / SHI C	CHN	0-4	6-11	4-11	7-11	9-11			
16	渡辺 誠 寺田千寿子	混合ダブルス戦	38	2回戦	勝	BARASHKIN V / KVASHNINA O	RUS	4-3	11-7	8-11	11-7	11-9	8-11	5-11	11-8	決勝トーナメント 3回戦敗退
					3回戦	敗	MERCAU M / HEIN A	GER	3-4	2-11	4-11	14-12	11-6	7-11	11-9	

卓球

団体戦

No	登録選手	種目	参加数	プログラム	対戦国	勝敗	Match	出場選手	対戦選手	Match	スコア					成績		
											Game1	Game2	Game3	Game4	Game5			
1	船越京子 今西直子 寺田千寿子 田中雅美	女子団体戦	11	予選リーグ	BUL	勝	3-0	船越	ZHELEVA Gergana	3-0	11-2	11-8	11-2			銅メダル		
								田中	KISYOVA Ivanka	3-0	11-4	11-3	11-3					
								寺田	BALTOVA Lidiya	3-0	11-5	11-1	11-1					
					KOR	勝	3-1	船越	MO Yun Sol	3-0	11-3	11-3	13-11					
								田中	LEE Ji Yeun	0-3	9-11	8-11	3-11					
								寺田	SHIN Sun Ah	3-0	11-4	11-5	11-8					
					IND	勝	3-1	船越	LEE Ji Yeun	3-2	11-8	4-11	11-8	10-12	11-8			
								田中	SAHA Poli	2-3	8-11	11-2	7-11	11-9	6-11			
								今西	SRIVASTAVA Amita	3-0	11-9	11-8	11-1					
					準々決勝	HUN	勝	3-1	船越	TUROCZY Erika	3-1	11-8	11-9	7-11	11-8			
									寺田	LAZANE-BREGOCS Eva	2-3	4-11	11-8	11-7	6-11		5-11	
									今西	REIDER Ilona	3-2	10-12	11-6	11-7	13-15		11-8	
				船越					LAZANE-BREGOCS Eva	3-0	11-5	11-4	11-1					
				準決勝	CHN	敗	1-3	今西	SHI Ce	0-3	8-11	4-11	5-11					
								船越	LIN Huan	3-0	11-9	11-9	13-11					
								寺田	WANG Dongmei	0-3	11-3	11-3	11-5					
								船越	SHI Ce	2-3	3-11	4-11	11-8	11-9	8-11			
				3位決定戦	RUS	勝	3-1	船越	SHAGIEVA Elena	3-0	11-5	11-0	11-7					
								寺田	MIRONOVA Tatiana	0-3	6-11	9-11	5-11					
								田中	KVASHNINA Olga	3-0	11-8	11-7	11-6					
船越	MIRONOVA Tatiana	3-1	8-11					11-7	12-10	11-6								
2	青山 修 上江洲光彦 国本雄一郎 渡辺 誠	男子団体戦	15	予選リーグ	AUS	勝	3-0	上江洲	LOUEY Michael	3-0	11-9	11-6	11-8			4位		
								青山	BOYLE Trevor	3-0	11-4	11-2	11-1					
								国本	MORRIS Des	3-0	11-6	11-3	11-6					
					POL	勝	3-2	青山	RUTOWSKI Marek	3-0	11-5	20-18	11-7					
								上江洲	PIETA Pawet	2-3	11-9	3-11	6-11	11-9	9-11			
								渡辺	KLUCZYNSKI Radosean	2-3	7-11	11-8	11-13	11-8	3-11			
					上江洲	RUTOWSKI Marek	3-1	11-6	7-11	11-8	11-5							
				準々決勝	RUS	勝	3-1	青山	BEZDENEZHNYI Sergey	3-1	12-10	8-11	11-6	11-9				
								上江洲	BARASHKIN Vladimir	1-3	11-9	11-13	2-11	10-12				
								国本	GAVRILENKO Vladimir	3-2	7-11	5-11	12-10	11-9	11-7			
								青山	BARASHKIN Vladimir	3-2	11-5	12-10	8-11	8-11	11-8			
				準決勝	TPE	敗	1-3	青山	YANG Jung-Tsung	1-3	9-11	10-12	11-9	9-11				
								上江洲	WEN Chih-Hsuan	0-3	2-11	3-11	10-12					
								国本	HSIA Jaw-Hua	3-1	12-10	11-9	11-8					
								青山	WEN Chih-Hsuan	0-3	7-11	5-11	9-11					
3位決定戦	UKR	敗	1-3	青山	GNATYUK Andriy	3-0	11-9	11-7	11-4									
				上江洲	ZAKLADNYI Gennadiy	0-3	5-11	10-12	10-12									
				国本	ZAKLADNYI Mykola	0-3	7-11	2-11	9-11									
				青山	ZAKLADNYI Gennadiy	0-3	4-11	4-11	6-11									

卓球

【競技記録】

男子団体戦

<順位>

- |         |          |         |           |
|---------|----------|---------|-----------|
| ① 台湾    | ② ドイツ    | ③ ウクライナ | ④ 日本      |
| ⑤ ロシア   | ⑥ ベルギー   | ⑦ 中国    | ⑧ ポーランド   |
| ⑨ ブルガリア | ⑩ 韓国     | ⑪ トルコ   | ⑫ オーストラリア |
| ⑬ ハンガリー | ⑭ カザフスタン | ⑮ インド   |           |

<予選リーグ戦記録>

◆1組

	ポーランド	日本	オーストラリア	クウェート	モンゴル	順位
ポーランド		2-3		0-0	0-0	2位
日本	3-2		3-0	0-0	0-0	1位
オーストラリア	0-3	0-3		0-0	0-0	3位
クウェート	0-0	0-0	0-0		0-0	4位
モンゴル	0-0	0-0	0-0	0-0		5位

<日本チームの予選リーグ戦記録>

★第3試合

日本	3対0	オーストラリア
国本 3	11-6 11-3 11-6	Des Morris 0
青山 3	11-4 11-2 11-1	Trevor Boyle 0
上江洲 3	11-9 11-6 11-8	Michael Louey 0

★第4試合

日本	3対2	ポーランド
青山 3	11-2 11-7 11-6	Pawet Pieta 0
上江洲 3	11-6 7-11 11-8 11-5	Marek Rutowski 1
上江洲 2	11-9 3-11 6-11 11-9 9-11	Pawet Pieta 3
渡辺 2	7-11 11-8 11-13 11-8 3-11	Radosean Kluczynski 3
青山 3	11-5 20-18 11-7	Marek Rutowski 0

◆2組

	台湾	ドイツ	ブルガリア	カザフスタン	順位
台湾		2-3	3-0	3-0	2位
ドイツ	3-2		3-0	3-0	1位
ブルガリア	3-0	0-3		3-0	3位
カザフスタン	0-3	0-3	0-3		4位

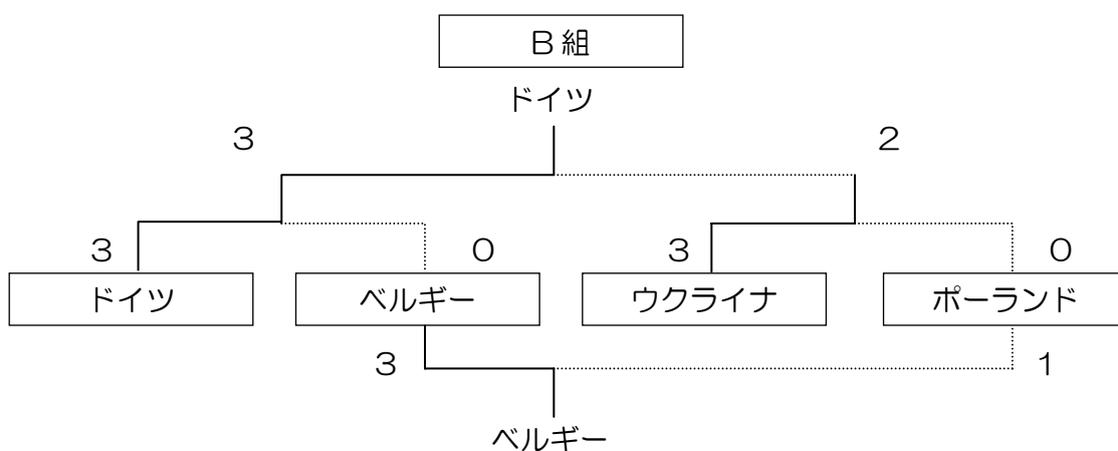
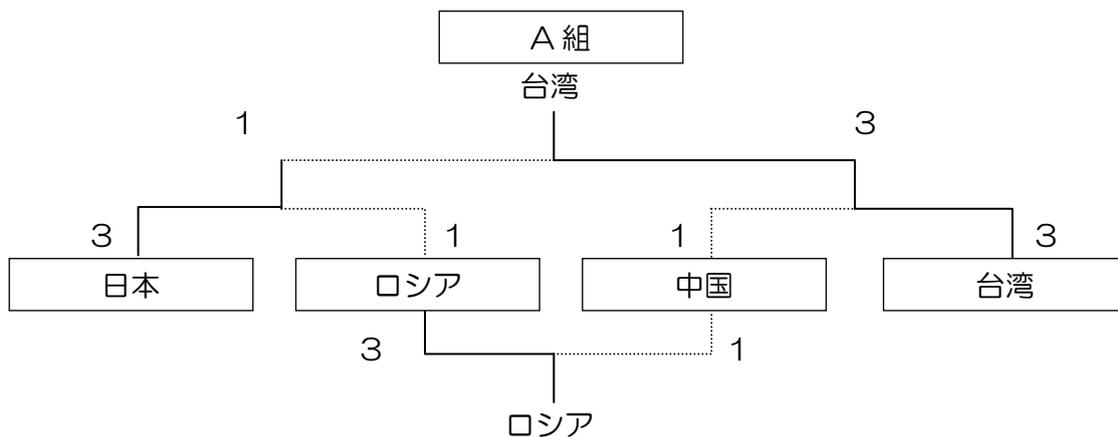
◆3組

	中国	韓国	ベルギー	ハンガリー	順位
中国		3-1	3-1	3-0	1位
韓国	1-3		2-3	3-0	3位
ベルギー	1-3	3-2		3-1	2位
ハンガリー	0-3	0-3	1-3		4位

◆4組

	ウクライナ	トルコ	インド	ロシア	インドネシア	順位
ウクライナ		3-0	3-0	3-2	0-0	1位
トルコ	0-3		3-1	0-3	0-0	3位
インド	0-3	1-3		0-3	0-0	4位
ロシア	2-3	3-0	3-0		0-0	2位
インドネシア	0-0	0-0	0-0	0-0		5位

【準決勝トーナメント記録】



【決勝戦】

台湾 3-1 ドイツ

【順位決定戦】

- \*3~4位決定戦 日本 1-3 ウクライナ
- \*5~6位決定戦 ロシア 3-1 ベルギー
- \*7~8位決定戦 中国 3-2 ポーランド
- \*9~10位決定戦 ブルガリア 3-2 韓国
- \*11~12位決定戦 トルコ 2-3 オーストラリア

	ハンガリー	インド	カザフスタン	順位
ハンガリー		3-0	0-0	13位
インド	0-3		1-3	15位
カザフスタン	0-0	3-1		14位

女子団体戦

<順位>

- |         |         |           |       |
|---------|---------|-----------|-------|
| ① ウクライナ | ② 中国    | ③ 日本      | ④ ロシア |
| ⑤ ハンガリー | ⑥ 韓国    | ⑦ ドイツ     | ⑧ トルコ |
| ⑨ インド   | ⑩ ブルガリア | ⑪ オーストラリア |       |

<予選リーグ戦記録>

◆1組「※ウクライナ・トルコ棄権。よって韓国は2組での予選リーグに加わる。」

	韓国	ウクライナ	トルコ	順位
韓国				
ウクライナ	棄権		棄権	
トルコ	棄権	棄権		

◆2組

	日本	ブルガリア	インド	韓国	順位
日本		3-0	3-1	3-1	1位
ブルガリア	0-3		0-3	0-3	3位
インド	1-3	3-0		0-0	2位
韓国	1-3	3-0	0-0		2位

◆3組

	中国	ドイツ	カザフスタン	順位
中国		3-1	0-0	1位
ドイツ	1-3		0-0	2位
カザフスタン	0-0	0-0		3位

◆4組

	ロシア	ハンガリー	オーストラリア	モンゴル	順位
ロシア		3-2	3-0	0-0	1位
ハンガリー	2-3		3-0	0-0	2位
オーストラリア	0-3	0-3		0-0	3位
モンゴル	0-0	0-0	0-0		4位

<日本チームの予選リーグ戦記録>

★第1試合

日本	3対0	ブルガリア
寺田	11-5	Lidiya Baltova
3	11-1 11-1	0
田中	11-4	Ivanka Kisyova
3	11-3 11-3	0
船越	11-2	Gergana Zheleva
3	11-8 11-2	0

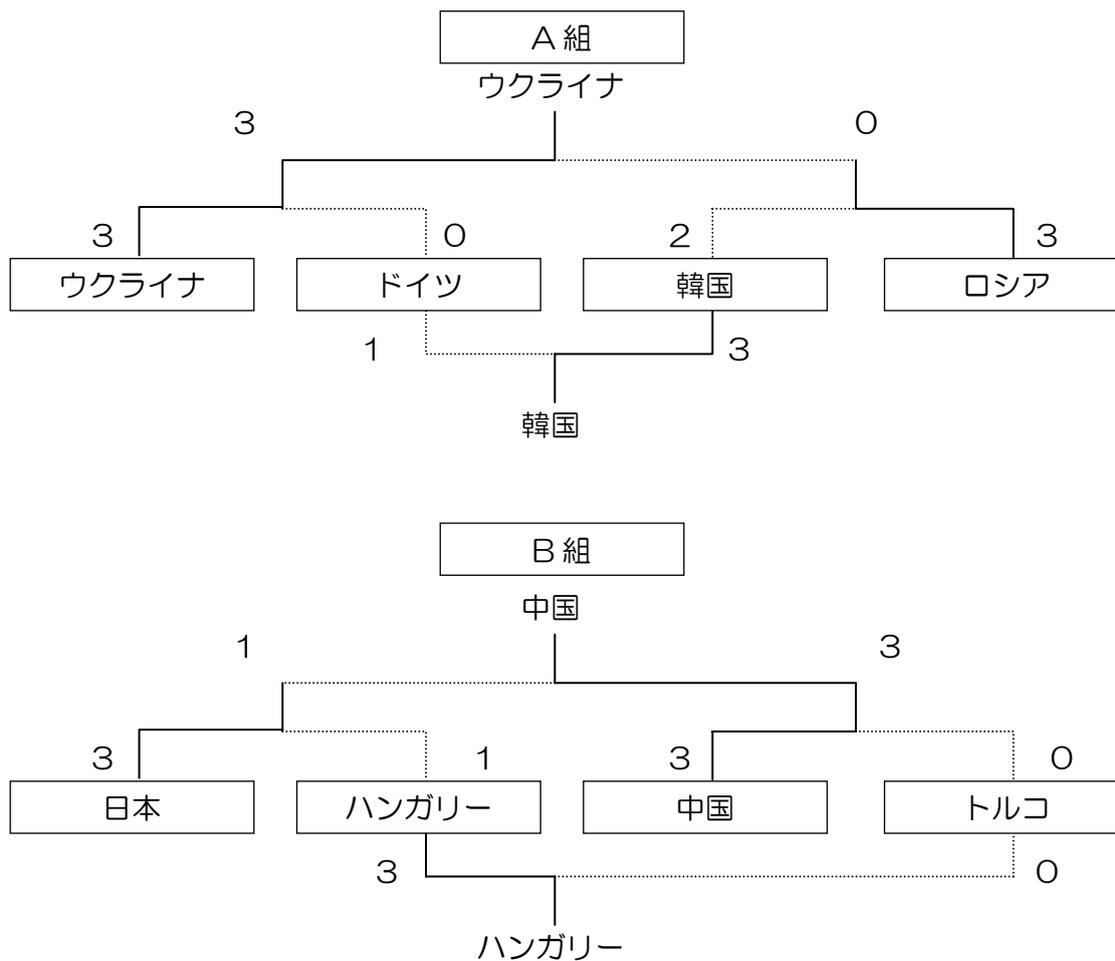
★第2試合

日本	3対1	韓国
寺田	11-4	Sun Ah Shin
3	11-5 11-8	0
船越	11-8	Ji Yeun Lee
3	4-11 11-8	2
田中	9-11	Ji Yeun Lee
0	8-11 3-11	3
船越	11-3	Yun Sol Mo
3	11-3 13-11	0

★第3試合

日本	3対1	インド
船越	11-4	Poli Saha
3	11-6 10-12	2
今西	8-11	Amita Srivastava
3	11-4 11-9	0
田中	11-8	Poli Saha
2	11-2 7-11 11-9 6-11	3
船越	11-3	Soma Kundu
3	11-0 11-8	0

【準決勝トーナメント記録】



【決勝戦】

ウクライナ 3-2 中国

【順位決定戦】

\*3~4位決定戦 日本 3-1 ロシア

\*5~6位決定戦 ハンガリー 3-2 韓国

\*7~8位決定戦 ドイツ 3-2 トルコ

\*9~11位決定戦

	インド	オーストラリア	ブルガリア	順位
インド		3-0	3-0	9位
オーストラリア	0-3		0-3	11位
ブルガリア	0-3	3-0		10位

【個人成績表】

男子シングルス

順位	選手名	国名
1	Gennadiy Zakladnyy	ウクライナ
2	Yunnan Li	中国
3	Chih-Hsuan Wen	台湾
4	Ivan Rupcic	ドイツ
1回戦敗	青山 修	日本
1回戦敗	上江洲光彦	日本
1回戦敗	国本雄一郎	日本
予選リーグ敗	渡辺 誠	日本

女子シングルス

順位	選手名	国名
1	Ce Shi	中国
2	船越京子	日本
3	Dongmei Wang	中国
4	Nataliya Bozhko	ウクライナ
1回戦敗	今西直子	日本
2回戦敗	田中雅美	日本
予選リーグ敗	寺田千寿子	日本

男子ダブルス

順位	選手名	国名
1	Y Yang / C Wen	台湾
2	T Baehr / M Mechau	ドイツ
3	J Baron / I Rupcic	ドイツ
4	青山 修 / 上江洲光彦	ドイツ
2回戦敗	国本雄一郎 / 渡辺 誠	日本

女子ダブルス

順位	選手名	国名
1	D Wang / C Shi	中国
2	今西直子 / 船越京子	日本
3	E Shagieva / T Mironova	ロシア
4	E Lazane-Bregocs / I Reider	ハンガリー
2回戦敗	田中雅美 / 寺田千寿子	日本

混合ダブルス

順位	選手名	国名
1	Li / Shi	中国
2	Zakladnyy, G / Vasy I eva	ウクライナ
3	Dai / Lin	中国
4	青山 修 / 船越京子	日本
2回戦敗	上江洲光彦 / 今西直子	日本
3回戦敗	国本雄一郎 / 田中雅美	日本
3回戦敗	渡辺 誠 / 寺田千寿子	日本

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

テニス

No	出場選手	種目	参加数	プログラム	勝敗	対戦相手		Match	スコア			成績
						選手名	国名		Game 1	Game 2	Game 3	
1	阿部八千代	女子シングルス戦	20	Rnd of 16	勝	READ Jane	AUS	2-0	6-0	6-0	4位	
				準々決勝	勝	GRAHAM Catherine	GBR	2-0	6-2	6-2		
				準決勝	敗	ODDONE Barbara	ITA	0-2	3-6	4-6		
				3位決定戦	敗	GALBUSERA Michela	ITA	0-2	4-6	6-7		
2	有川真理子	女子シングルス戦	20	Rnd of 16	敗	GALBUSERA Michela	ITA	0-2	1-6	0-6	2回戦敗退	
3	松下哲也	男子シングルス戦	36	Rnd of 64	勝	PRESENZA Patrizio	AUS	2-0	6-0	6-1	2回戦敗退	
				Rnd of 32	敗	LUI John	AUS	0-2	1-6	1-6		
4	小川正伸	男子シングルス戦	36	Rnd of 32	敗	SINCLAIR Anthony	GBR	0-2	1-6	0-6	2回戦敗退	
5	阿部八千代 有川真理子	女子ダブルス戦	9	準々決勝	勝	BULKLEY A / GARDNER D	USA	2-0	6-3	7-5	銀メダル	
				準決勝	勝	GRAHAM C / TEMPLEMAN S	GBR	2-0	6-3	6-4		
				決勝	敗	ODDONE B / GALBUSERA M	ITA	0-2	1-6	1-6		
6	小川正伸 松下哲也	男子ダブルス戦	16	Rnd of 16	敗	TUNSTALL D / WILCOX P	GBR	0-2	2-6	4-6	1回戦敗退	
7	松下哲也 阿部八千代	混合ダブルス戦	19	Rnd of 16	勝	SILVA J / KONOSKI C	USA	2-0	6-0	6-0	ベスト8	
				準々決勝	敗	TUNSTALL D / SIMMONS A	GBR	1-2	5-7	7-6		6-8
8	小川正伸 有川真理子	混合ダブルス戦	19	Rnd of 16	敗	LUI J / BLANCH T	AUS	0-2	3-6	1-6	2回戦敗退	

## 【個人戦順位】

### 男子シングルス

順位	選手名	国名
1	Ronald-Oliver Krieg	ドイツ
2	Anthony Sinclair	イギリス
3	Zengbao Yang	中国
4	Peter Wilcox	イギリス
2回戦敗	松下哲也	日本
2回戦敗	小川正伸	日本

### 女子シングルス

順位	選手名	国名
1	Barbara Oddone	イタリア
2	Klarika Heimann	スイス
3	Michela Galbusera	イタリア
4	阿部八千代	日本
2回戦敗	有川真理子	日本

### 男子ダブルス

順位	選手名	国名
1	Gunnar Kett / Ronald-Oliver Krieg	ドイツ
2	Hans Toedter / Torsten Vonthein	ドイツ
3	Darren O'Donnell / Anthony Sinclair	イギリス
4	Eric Brugman / Martin Brugman	オランダ
1回戦敗	小川正伸/ 松下哲也	日本

### 女子ダブルス

順位	選手名	国名
1	Michela Galbusera / Barbara Oddone	イタリア
2	阿部八千代/ 有川真理子	日本
3	Catherine Graham / Sharon Templeman	イギリス
4	Sally Clark/ Alex Simmons	イギリス

### 混合ダブルス

順位	選手名	国名
1	Barbara Oddone / Giampaolo Damiani	イタリア
2	Heike Albrecht / Ronald-Oliver Krieg	ドイツ
3	Alex Simmons / Daniel Tunstall	イギリス
4	Catherine Graham/ Anthony Sinclair	イギリス
ベスト8	松下哲也/ 阿部八千代	日本
2回戦敗	小川正伸/ 有川真理子	日本

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

## ボウリング

### 男子全種目合計成績

順位	名前	国名	Gms	Teams	Singles	Doubles	Trios	Total	High Game	Ave
1	Li-Hsiao Chang	台湾	24	1270	1260	1252	1446	5228	279	218
2	Ray Lay	イギリス	24	1225	1180	1166	1248	4819	244	201
3	Joost Duivenvoorden	オランダ	24	1179	1214	1171	1241	4805	244	200
上位16名がマスターズ戦へ出場										
⋮										
22	藤岡宏明	日本	24	1231	1125	1069	1189	4614	232	192
28	数見 満	日本	24	1130	1021	1196	1217	4564	224	190
29	新納義弘	日本	24	1089	1108	1144	1214	4555	235	190
30	久保春夫	日本	24	1092	1069	1210	1179	4550	244	190
59	池 洋	日本	24	1117	1086	1136	1034	4373	233	182
⋮										
134	Vladislav Antipov	ロシア	12	0	770	710	0	1480	167	123

### 男子シングルス

順位	名前	国名	Ave	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	Gms	High Game
1	Kjell Danielsen	ノルウェー	212.2	207	191	177	221	268	209	1273	6	268
2	Li-Hsiao Chang	台湾	210	207	186	215	213	213	226	1260	6	226
3	George Halas	カナダ	209	240	159	216	222	181	236	1254	6	240
⋮												
36	藤岡宏明	日本	187.5	185	208	143	192	165	232	1125	6	232
43	新納義弘	日本	184.7	167	167	183	156	235	200	1108	6	235
54	池 洋	日本	181	210	136	160	169	212	199	1086	6	212
65	久保春夫	日本	178.2	171	149	174	203	198	174	1069	6	203
88	数見 満	日本	170.2	177	204	168	157	162	153	1021	6	204
⋮												
134	Almood Saad	サウジアラビア	120.7	129	115	97	106	152	125	724	6	152

### 男子ダブルス

順位	チーム	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	Gms	Ave	High Game	
1	オランダ							2487				
	Frank Braan	162	203	194	193	214	179	1145	6	191	214	
	Martin Visser	257	241	213	207	213	211	1342	6	224	257	
		419	444	407	400	427	390	2487	6	207	257	
2	台湾							2467				
	Ching-Ling Chiu	215	194	225	215	168	198	1215	6	203	225	
	Li-Hsiao Chang	213	196	182	224	211	226	1252	6	209	226	
		428	390	407	439	379	424	2467	6	206	226	
3	アメリカ							2371				
	Joe Thompson	178	238	195	178	186	165	1140	6	190	238	
	Darrell Stogryn	182	203	183	243	216	204	1231	6	205	243	
		360	441	378	421	402	369	2371	6	198	243	
		327	418	401	371	380	471	2368	6	197	245	
⋮												
5	日本							2354				
	久保春夫	157	157	192	244	180	194	243	1210	6	202	244
	新納義弘	182	182	190	193	214	182	183	1144	6	191	214
		339	339	382	437	394	376	426	2354	6	196	244
16	日本							2265				
	数見 満	212	212	224	187	188	188	197	1196	6	199	224
	藤岡宏明	193	193	205	181	156	157	177	1069	6	178	205
		405	405	429	368	344	345	374	2265	6	189	224
⋮												
62	サウジアラビア							1512				
	Almood Saad	138	138	109	103	129	116	100	695	6	116	138
	Nawaf Hariri	150	150	179	113	117	142	116	817	6	136	179
		288	288	288	216	246	258	216	1512	6	126	179

男子トリオ

順位	チーム	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	Gms	Ave	High Game
1	台湾							3839			
	Ching-Ling Chiu	202	200	188	214	221	178	1203	6	200.5	221
	Chung-Chin Cheng	237	198	189	179	203	184	1190	6	198.3	237
	Li-Hsiao Chang	258	235	223	279	195	256	1446	6	241	279
		697	633	600	672	619	618	3839	6	213.3	279
2	スウェーデン							3704			
	Ulf Andersson	196	226	221	215	145	290	1293	6	215.5	290
	Anders Nordell	255	228	182	192	182	236	1275	6	212.5	255
	Kent Johansson	188	155	200	213	185	195	1136	6	189.3	213
		639	609	603	620	512	721	3704	6	205.8	290
3	イタリア							3556			
	Paolo Monterosso	222	179	245	173	192	169	1180	6	196.7	245
	Stefano Quaranta	189	201	202	195	215	157	1159	6	193.2	215
	Lorenzo Salamone	237	205	223	177	164	211	1217	6	202.8	237
		648	585	670	545	571	537	3556	6	197.6	245
9	日本							3430			
	数見 満	203	200	222	198	193	201	1217	6	202.8	222
	久保春夫	183	196	216	178	182	224	1179	6	196.5	224
	池 洋	177	201	141	141	171	203	1034	6	172.3	203
		563	597	579	517	546	628	3430	6	190.6	224
39	サウジアラビア							2561			
	Almood Saad	101	113	87	130	120	142	693	6	115.5	142
	Abdullah Malki	176	161	138	147	141	162	925	6	154.2	176
	Nawaf Hariri	136	133	137	210	167	160	943	6	157.2	210
		413	407	362	487	428	464	2561	6	142.3	210

男子団体戦

順位	チーム	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	Gms	Ave	High Game
1	台湾							5892			
	Ching-Ling Chiu	158	178	207	192	178	211	1124	6	187.3	211
	Chung-Chin Cheng	188	158	204	186	216	176	1128	6	188	216
	Wei-Chien Wang	206	187	173	167	200	237	1170	6	195	237
	Li-Hsiao Chang	195	214	202	194	222	243	1270	6	211.7	243
	Sheng-Fu Hsieh	163	203	242	145	202	245	1200	6	200	245
		910	940	1028	884	1018	1112	5892	6	982	245
2	韓国							5824			
	Young Chun Seo	199	185	198	224	184	163	1153	6	192.2	224
	Sung Hwan Kim	259	177	263	161	175	256	1291	6	215.2	263
	Young Bum Jo	189	178	201	190	193	167	1118	6	186.3	201
	Ki Beom Hong	179	163	166	156	177	190	1031	6	171.8	190
	Jae Bang Han	210	240	168	215	227	171	1231	6	205.2	240
		1036	943	996	946	956	947	5824	6	970.7	263
3	イタリア							5712			
	Paolo Monterosso	205	179	225	183	138	169	1099	6	183.2	225
	Stefano Quaranta	184	231	208	199	177	213	1212	6	202	231
	Francesco Fodera	190	168	189	231	178	200	1156	6	192.7	231
	Lorenzo Salamone	214	223	193	142	215	207	1194	6	199	223
	Enrico Salvati	146	189	194	137	195	190	1051	6	175.2	195
		939	990	1009	892	903	979	5712	6	952	231
5	日本							5659			
	数見 満	201	214	197	216	159	143	1130	6	188.3	216
	久保春夫	166	182	204	179	171	190	1092	6	182	204
	新納義弘	146	191	180	201	178	193	1089	6	181.5	201
	藤岡宏明	222	222	195	189	190	213	1231	6	205.2	222
	池 洋	132	233	193	208	176	175	1117	6	186.2	233
		867	1042	969	993	874	914	5659	6	943.2	233
19	ニュージーランド							4631			
	William Griffiths	148	101	145	133	147	182	856	6	142.7	182
	Thomas Still	158	153	144	124	163	148	890	6	148.3	163
	Jonathan Page	160	161	138	133	149	156	897	6	149.5	161
	Stephen Jourdain	168	187	184	162	204	160	1065	6	177.5	204
	Pao Paul	167	136	166	146	149	159	923	6	153.8	167
		801	738	777	698	812	805	4631	6	771.8	204

ボウリング

女子全種目合計成績

順位	名前	国名	Gms	Teams	Singles	Doubles	Trios	Total	High Game	Ave
1	Lindy Decker	アメリカ	24	1175	1185	1188	1070	4618	254	192.4
2	Sharon Rutherford	アメリカ	24	1110	1117	1198	1141	4566	244	190.3
3	Shu-Min Huang	台湾	24	1202	1100	1092	1100	4494	240	187.3
上位16名がマスターズ戦に出場										
⋮										
18	石井 美代子	日本	24	1055	961	1062	1036	4114	192	171.4
26	松清 俊子	日本	24	988	981	1010	1031	4010	208	167.1
34	数見 順子	日本	24	956	1006	975	981	3918	207	163.3
35	栗山 美和子	日本	24	988	981	970	976	3915	192	163.1
37	福田 美幸	日本	24	957	958	1021	957	3893	189	162.2
⋮										
63	Carla Jesus	Portugal	6	0	871	0	0	871	160	145.2

女子シングルス

順位	名前	国名	Ave	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	Gms	High Game
1	Lindy Decker	アメリカ	197.5	190	214	183	209	210	179	1185	6	214
2	Benedetta Fodera	イタリア	188	231	188	164	198	158	189	1128	6	231
3	Young Sook Cho	韓国	187.7	162	154	196	182	158	274	1126	6	274
⋮												
25	数見 順子	日本	167.7	182	172	173	170	166	143	1006	6	182
32	松清 俊子	日本	163.5	175	154	170	170	154	158	981	6	175
32	栗山 美和子	日本	163.5	190	136	178	141	189	147	981	6	190
38	石井 美代子	日本	160.2	188	143	147	130	183	170	961	6	188
39	福田 美幸	日本	159.7	153	164	166	147	156	172	958	6	172
⋮												
63	Manuela Matteucci	イタリア	125.3	113	123	117	113	129	157	752	6	157

女子ダブルス

順位	チーム	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	Gms	Ave	High Game
1	アメリカ							2308			
	Patty Brothag	176	192	226	181	188	147	1110	6	185	226
	Sharon Rutherford	244	200	170	224	178	182	1198	6	200	244
		420	392	396	405	366	329	2308	6	192	244
2	台湾							2231			
	Wen-Ni Chen	165	189	237	132	156	173	1052	6	175	237
	Cheng-Mei Hu	210	194	165	212	203	195	1179	6	197	212
		375	383	402	344	359	368	2231	6	186	237
3	オーストラリア							2187			
	Wendy Devlin	220	188	209	135	171	205	1128	6	188	220
	Jina Chapman	213	130	158	199	185	174	1059	6	177	213
		433	318	367	334	356	379	2187	6	182	220
⋮											
8	日本							2072			
	石井美代子	161	174	161	184	192	190	1062	6	177	192
	松清俊子	148	208	156	165	161	172	1010	6	168	208
		309	382	317	349	353	362	2072	6	173	208
14	日本							1945			
	数見順子	179	151	184	143	159	159	975	6	163	184
	栗山美和子	192	132	154	170	149	173	970	6	162	192
		371	283	338	313	308	332	1945	6	162	192
⋮											
28	イタリア							1597			
	Manuela Matteucci	95	94	105	128	102	126	650	6	108	128
	Anna Maiale	135	159	160	163	167	163	947	6	158	167
		230	253	265	291	269	289	1597	6	133	167

女子トリオ

順位	チーム	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	Gms	Ave	High Game
1	スウェーデン							3369			
	Ann-Charlotte Dahlberg	205	198	125	237	215	204	1184	6	197	237
	Eva Ulfsparre	161	180	170	202	159	204	1076	6	179	204
	Annelie Karlsson	182	188	176	169	210	184	1109	6	185	210
		548	566	471	608	584	592	3369	6	187	237
2	アメリカ							3336			
	Patty Brothag	189	166	175	175	157	263	1125	6	188	263
	Lindy Decker	160	165	173	205	166	201	1070	6	178	205
	Sharon Rutherford	199	193	224	183	181	161	1141	6	190	224
		548	524	572	563	504	625	3336	6	185	263
3	アメリカ							3221			
	Debbie White	151	168	184	179	166	141	989	6	165	184
	Cheyenne Rogers	255	206	217	159	227	158	1222	6	204	255
	Jerilyn Keller	157	182	181	162	175	153	1010	6	168	182
		563	556	582	500	568	452	3221	6	179	255
8	日本							2969			
	石井 美代子	170	185	165	168	181	167	1036	6	173	185
	福田 美幸	139	189	153	164	148	164	957	6	160	189
	栗山 美和子	148	181	163	178	180	126	976	6	163	181
		457	555	481	510	509	457	2969	6	165	189
18	ギリシャ							2472			
	Evgenia Fermani	132	111	147	125	170	114	799	6	133	170
	Christina Ioannidi	148	149	127	129	148	168	869	6	145	168
	Evangelia Mitsika	150	90	165	111	128	160	804	6	134	165
		430	350	439	365	446	442	2472	6	137	170

女子団体戦

順位	チーム	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	Gms	Ave	High
1	台湾							5334			
	Shu-Min Huang	223	240	240	178	188	133	1202	6	200	240
	Pik-Yee Hwang	166	151	162	186	125	202	992	6	165	202
	Yao-Chien Chang	143	169	161	154	154	197	978	6	163	197
	Wen-Ni Chen	178	159	168	208	167	165	1045	6	174	208
	Cheng-Mei Hu	197	152	206	192	167	203	1117	6	186	206
		907	871	937	918	801	900	5334	6	889	240
2	アメリカ							5265			
	Patty Brothag	179	146	173	142	188	136	964	6	161	188
	Debbie White				145	179	188	512	3	171	188
	Lindy Decker	174	225	180	194	193	209	1175	6	196	225
	Cheyenne Rogers	189	183	144	146	147	184	993	6	166	189
	Sharon Rutherford	155	159	189	203	171	233	1110	6	185	233
	Jerilyn Keller	170	163	178				511	3	170	178
		867	876	864	830	878	950	5265	6	878	233
3	スウェーデン							5245			
	Vera Strang	175	178	155	158	228	153	1047	6	175	228
	Ann-Charlotte Dahlberg	170	214	178	174	190	182	1108	6	185	214
	Eva Ulfsparre	172	187	161	167	184	187	1058	6	176	187
	Annelie Karlsson	149	184	170	210	189	136	1038	6	173	210
	Marie Eriksson	164	144	164	154	192	176	994	6	166	192
		830	907	828	863	983	834	5245	6	874	228
6	日本							4944			
	石井美代子	172	179	151	190	186	177	1055	6	176	190
	数見順子	178	130	156	118	167	207	956	6	159	207
	福田美幸	152	179	169	140	172	145	957	6	160	179
	松清俊子	180	149	170	148	162	179	988	6	165	180
	栗山美和子	154	190	159	158	159	168	988	6	165	190
		836	827	805	754	846	876	4944	6	824	207
10	ニュージーランド							4481			
	Joan Davidsen	133	132	114	175	121	154	829	6	138	175
	Susan Penman	144	140	154	154	121	161	874	6	146	161
	Teresa Littleton	190	168	141	157	145	177	978	6	163	190
	Marilyn Welham	147	135	176	175	124	145	902	6	150	176
	Ruth Jessep	157	149	166	165	124	137	898	6	150	166
		771	724	751	826	635	774	4481	6	747	190

ボウリング

<全種目合計成績>

全てのゲーム記録合計成績の上位 16 位までがマスターズ戦へ出場。日本は出場ならず。

	名前	Gms	Teams	Singles	Doubles	Trios	Total	High Game	Ave	順位
男子	藤岡宏明	24	1231	1125	1069	1189	4614	232	192	22
	数見 満	24	1130	1021	1196	1217	4564	224	190	28
	新納義弘	24	1089	1108	1144	1214	4555	235	190	29
	久保春夫	24	1092	1069	1210	1179	4550	2445	190	30
	池 洋	24	1117	1086	1136	1034	4373	233	182	59
女子	石井美代子	24	1055	961	1062	1036	4114	192	171.4	18
	松清俊子	24	988	981	1010	1031	4010	208	167.1	26
	数見順子	24	956	1006	975	981	3918	207	163.3	34
	栗山美和子	24	988	981	970	976	3915	192	163.1	35
	福田美幸	24	957	958	1021	957	3893	189	162.2	37

<種目別成績>

種目	選手名	1	2	3	4	5	6	TOTAL	順位
男子 シングルス	藤岡宏明	185	208	143	192	165	232	1125	36
	新納義弘	167	167	183	156	235	200	1108	43
	池 洋	210	136	160	169	212	199	1086	54
	久保春夫	171	149	174	203	198	174	1069	65
	数見 満	177	204	168	157	162	153	1021	88
男子 ダブルス	久保春夫	157	192	244	180	194	243	1210	5
	新納義弘	182	190	193	214	182	183	1144	
	数見 満	212	224	187	188	188	197	1196	16
	藤岡宏明	193	205	181	156	157	177	1069	
男子 トリオ	数見 満	203	200	222	198	193	201	1217	9
	久保春夫	183	196	216	178	182	224	1179	
	池 洋	177	201	141	141	171	203	1034	
男子団体	数見 満	201	214	197	216	159	143	1130	5
	久保春夫	166	182	204	179	171	190	1092	
	新納義弘	146	191	180	201	178	193	1089	
	藤岡宏明	222	222	195	189	190	213	1231	
	池 洋	132	233	193	208	176	175	1117	
女子 シングル	数見順子	182	172	173	170	166	143	1006	25
	松清俊子	175	154	170	170	154	158	981	32
	栗山美和子	190	136	178	141	189	147	981	32
	石井美代子	188	143	147	130	183	170	961	38
	福田美幸	153	164	166	147	156	172	958	39
女子 ダブルス	数見順子	179	151	184	143	159	159	975	14
	栗山美和子	192	132	154	170	149	173	970	
女子 トリオ	石井美代子	170	185	165	168	181	167	1036	8
	福田美幸	139	189	153	164	148	164	957	
	栗山美和子	148	181	163	178	180	126	976	
女子団体	石井美代子	172	179	151	190	186	177	1055	6
	数見順子	178	130	156	118	167	207	956	
	福田美幸	152	179	169	140	172	145	957	
	松清俊子	180	149	170	148	162	179	988	
	栗山美和子	154	190	159	158	159	168	988	

ボウリング

MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

バレーボール (男子)

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	1	2	3	4	5	成績
予選リーグ	対 イラン (IRI)	敗	JPN 0 - 3 IRI	17-25	24-26	20-25			2勝3敗
	対 オーストラリア (AUS)	勝	JPN 3 - 0 AUS	25-12	25-9	25-9			
	対 トルコ (TUR)	勝	JPN 3 - 0 TUR	25-21	25-12	25-18			
	対 ウクライナ (UKR)	敗	JPN 0 - 3 UKR	15-25	15-25	16-25			
	対 フィンランド (FIN)	敗	JPN 2 - 3 FIN	25-21	23-25	25-18	22-25	13-15	
7/8位決定戦	対 アメリカ (USA)	勝	JPN 3 - 0 USA	25-19	25-22	25-22			7位

予選リーグ

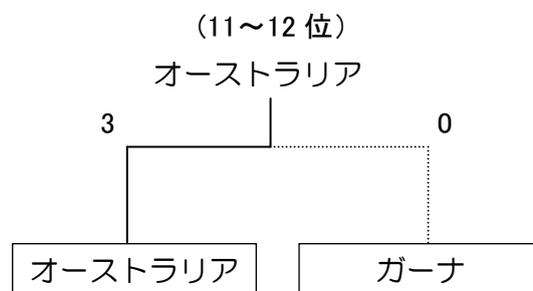
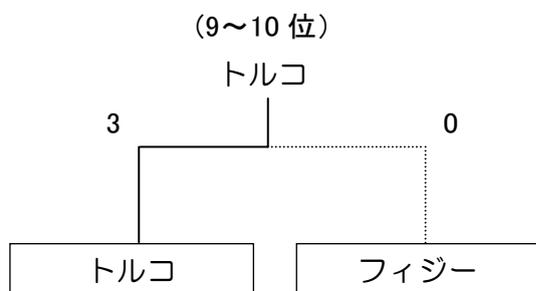
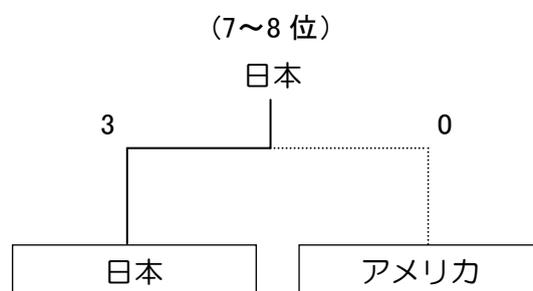
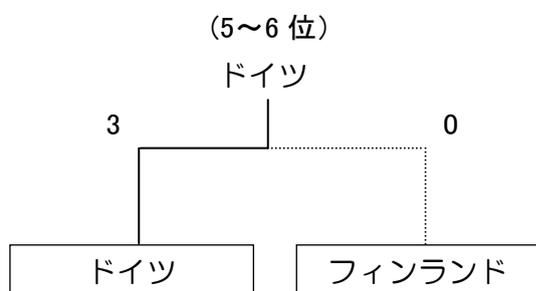
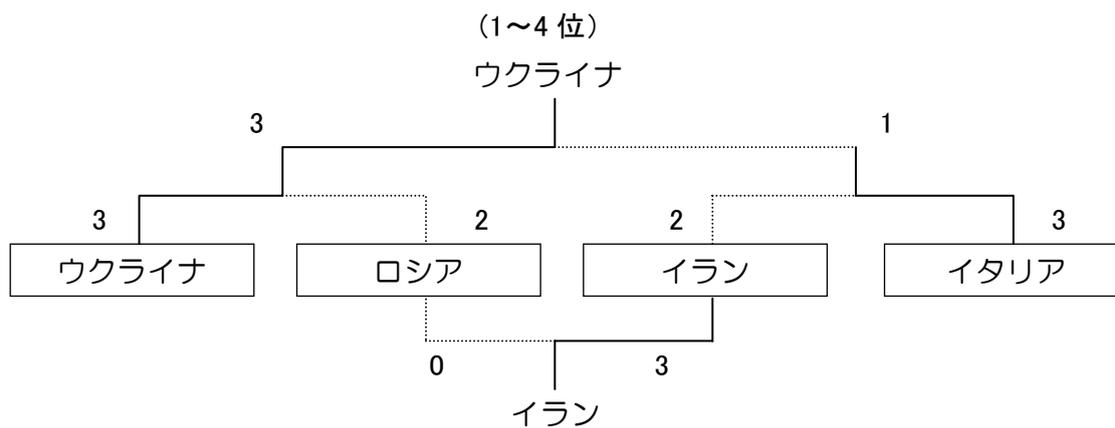
Group A								
	UKR	IRI	FIN	日本	TUR	AUS	勝敗	順位
UKR		03-1	03-0	03-0	03-0	03-0	5-0	1位
IRI	×1-3		03-0	03-0	03-0	03-0	4-1	2位
FIN	×0-3	×0-3		03-2	03-2	03-0	3-2	3位
日本	×0-3	×0-3	×2-3		03-0	03-0	2-3	4位
TUR	×0-3	×0-3	×2-3	×0-3		03-0	1-4	5位
AUS	×0-3	×0-3	×0-3	×0-3	×0-3		0-5	6位

Group B								
	ITA	RUS	GER	USA	FIJ	GHA	勝敗	順位
ITA		03-1	03-0	03-0	03-0	03-0	5-0	1位
RUS	×1-3		03-0	03-1	03-0	03-0	4-1	2位
GER	×0-3	×0-3		03-0	03-0	03-0	3-2	3位
USA	×0-3	×1-3	×0-3		03-0	03-0	2-3	4位
FIJ	×0-3	×0-3	×0-3	×0-3		03-0	1-4	5位
GHA	×0-3	×0-3	×0-3	×0-3	×3-0		0-5	6位

総合順位

メダル	ランク	チーム		ランク	チーム	
金	1	UKR	ウクライナ	7	JPN	日本
銀	2	ITA	イタリア	8	USA	アメリカ
銅	3	IRI	イラン	9	TUR	トルコ
	4	RUS	ロシア	10	FIJ	フィジー
	5	GER	ドイツ	11	AUS	オーストラリア
	6	FIN	フィンランド	12	GHA	ガーナ

【決勝トーナメント記録】



MELBOURNE 2005 DEAFLYMPIC GAMES  
Games Results

バレーボール (女子)

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	1	2	3	4	5	成績
予選リーグ	対 ウズベキスタン(UZB)	勝	JPN 3 - 0 UZB	不戦勝					4勝1敗
	対 イタリア (ITA)	勝	JPN 3 - 0 ITA	25-22	25-4	25-10			
	対 ロシア (RUS)	勝	JPN 3 - 0 RUS	25-11	25-14	30-28			
	対 ウクライナ (UKR)	敗	JPN 1 - 3 UKR	25-20	20-25	19-25	19-25		
	対 アメリカ (USA)	勝	JPN 3 - 1 USA	25-19	17-25	25-13	25-19		
準決勝	対 アメリカ (USA)	勝	JPN 3 - 1 USA	25-18	19-25	25-21	25-18		銀メダル
決勝	対 ウクライナ (UKR)	敗	JPN 0 -3 UKR	19-25	10-25	20-25			

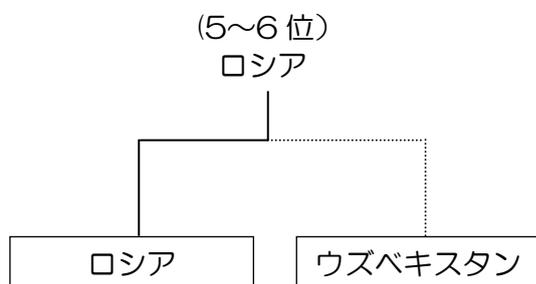
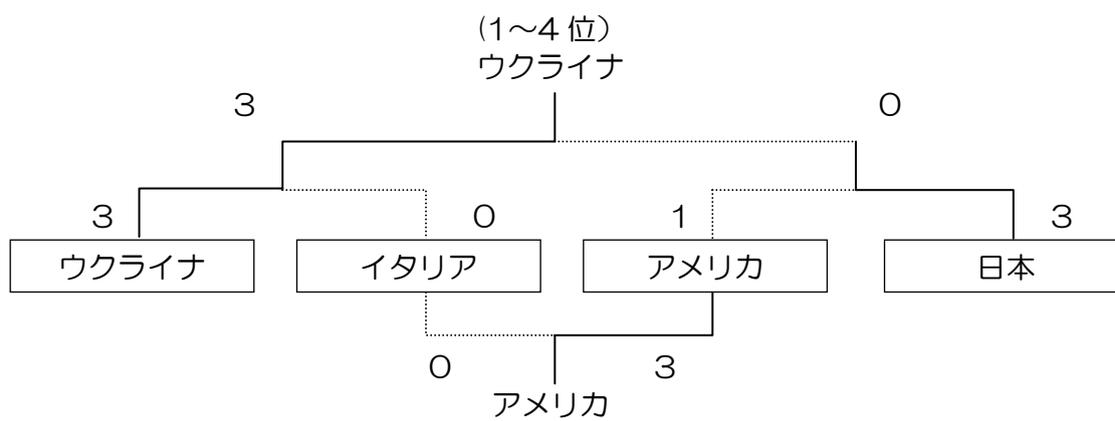
予選リーグ

Group A								
	UKR	日本	USA	ITA	RUS	UZB	勝敗	順位
UKR		03-1	03-1	03-0	03-0	03-0	5-0	1位
日本	×1-3		03-1	03-0	03-0	03-0	4-1	2位
USA	×1-3	×1-3		03-0	03-0	03-0	3-2	3位
ITA	×0-3	×0-3	×0-3		03-1	03-0	2-3	4位
RUS	×0-3	×0-3	×0-3	×1-3		03-0	1-4	5位
UZB	×0-3	×0-3	×0-3	×0-3	×0-3		0-5	6位

総合順位

メダル	ランク	チ ー ム	
金	1	UKR	ウクライナ
銀	2	JPN	日本
銅	3	USA	アメリカ
	4	ITA	イタリア
	5	RUS	ロシア
	6	UZB	ウズベキスタン

【決勝トーナメント記録】



## 2. 日本選手団総括報告

### (1) 団長

日本ろう者スポーツ協会  
会長 田口博人

2005年1月、オーストラリアのメルボルンにおいて世界のろう者のスポーツ祭典である第20回デフリンピック夏季大会が開催されました。オーストラリアは日本とは逆の季節であり、1月と言えど夏真っ盛りの地に世界各国から66ヵ国・約3,500人が集い、17日間に亘って全16競技で熱戦が繰り広げられました。

日本からも史上最多数の日本選手団135名が派遣され、16競技のうち10競技に出場し、金3個・銀7個・銅1個のメダルを獲得しました。

前回のローマ大会で獲得したメダル20個を下回る結果になりましたが、これは他国選手の技術やパワーがこれまでと比べて著しく飛躍した結果によるもので、各競技の試合を見てもそれは推し量ることができました。これは各国が選手育成に真剣に取り組み始めた結果であり、デフリンピックの競技レベルが例年になく著しく高まったことを象徴する大会となりました。これは国際的にデフリンピックの知名度およびろう者スポーツに対する理解が広まったことを裏付けるものであり、喜ばしい反面、国内の選手強化と若手育成へ更に精力的に取り組まなければなりません。

尚、今回の派遣にあたっては、派遣費用の工面で大きな問題に直面しました。前大会と同様に日本障害者スポーツ協会を通して日本自転車振興会へ派遣費助成を申請しましたが、財政状況が苦しく助成を受けられない「ゼロ回答」になりました。これは、アテネパラリンピックへの派遣選手団に対しても助成が大幅にカットされたことからわかるように、日本経済の不景気状況がスポーツ分野にも大きく影を及ぼした結果と思われる。

この事態を受けた全日本ろうあ連盟は迅速に対応すべく、2004年4月にデフリンピック派遣委員会を立ち上げ、日本障害者スポーツ協会、厚生労働省と話し合いを重ねた結果、独立行政法人福祉医療機構からの助成金による支援を受けられることになりました。また、助成金のほかに、企業などへ寄付を募るなど、全日本ろうあ連盟、日本ろう者スポーツ協会の役員一同が一丸となって精力的に取り組みました。何よりもありがたかったのは、全日本ろうあ連盟加盟団体の地域団体が、応援Tシャツを活用して募金活動に精力的に取り組んでくださったことです。選手が加入している地域団体が選手のために一丸となって応援してくださったことが、選手にとっても、また私たちにとっても大いに励みとなりました。こうして皆様の善意と尽力により、日本代表団選手たちに渡航費および滞在費など負担を強いることなく、競技に集中できる環境を整えることができました。改めて、関係者の皆様に御礼を申し上げます。

また、これまでデフリンピックの知名度は低いものでしたが、2004年11月に秋篠宮同妃両殿下とのご接見で励ましのお言葉をいただいたことをきっかけに、マスコミやメディアからも注目されるようになりました。多数の報道にデフリンピックや日本代表選手を取り上げて頂いただけでなく、現地でもNHKからの取材を受ける等、デフリンピックの知名度が前大会と比べて高くなったことは間違いありません。秋篠宮同妃両殿下のありがたいご厚意にただ感謝申し上げるばかりです。デフリンピックの知名度が上がればそれだけ、ろう者スポーツに対する理解が広まり、ひいてはろう者の社会的地位の向上につながるものと信じております。

今後、今回の取り組みの教訓を生かし、各競技団体を中心とした関係団体との信頼関係をさらに深めていくとともに、ろう者スポーツの発展と技術の向上を図ってまいりますので、引き続き、皆様のご協力をお願い申し上げます。

## (2) 総監督

日本ろう者スポーツ協会  
事務局長 大竹浩司

2003年2月の第15回冬季デフリンピックに続いて、今回の夏季大会へは総監督として参加しました。日本は10競技に出場しましたが、メダルは目標31個に対し11個という残念な数に終わりました。しかし、選手たちは強化合宿で鍛錬した実力を出し切って戦いました。また、競技役員やコーチ、トレーナー、そして事務局スタッフも精力的に選手を支えることができたように思います。

前回出場した競技に、今回は男子サッカーと男子オリエンテーリングが加わりました。特に男子サッカーは2004年5月のアジア予選を勝ち抜き、メルボルン大会の切符を手に入れました。一方、オリエンテーリングは日本のろう者の間では普及していないため、全国に呼びかけたところ、男子1名の応募がありました。結果として、選手団は135名（10競技、選手102名、競技役員33名）となりました。

選手のトレーニングについては、前回のローマ大会以降、日本パラリンピック委員会を通しての助成を受けて強化合宿が実施されました。これまで選手は自己負担を大きく強いられていましたので、この助成は大きな励みとなりました。また各競技のろうスポーツ団体がローマ大会の後に次々と結成されるなど、この4年間の強化事業は成果をあげたように思います。

メダル目標数は競技ごとに目標を集約し、合計30個の目標数を決定しました。結果、日本は金3個・銀7個・銅1個・計11個のメダルを獲得しました。この背景には、多くの要因がありますが、その中でも、デフリンピック大会の参加国数の増加や技術レベルの向上が挙げられます。

夏季デフリンピックでは競技にエントリーする国の数が増大の傾向にあります。これは、東西冷戦後の東欧諸国独立、またいわゆる途上発展国の生活向上などがろう選手にゆとりのある生活をもたらし、競技に専念できるようになった背景があります。また、それだけでなく、スポーツは様々な国の政情を超えて人々の交流を深めるのが目的ですが、スポーツ施策に力を入れて国の力を誇示する傾向がないとは言い切れない面もあります。

先進国に分類される日本は、これまでのデフリンピックでは強豪国と互角に戦ってきました。ところが今回は、異なる有様でした。卓球では中国や台湾などで若い選手の台頭が目立ち、バレーボールでも東欧のウクライナが男女ともに優勝をさらっています。陸上もアフリカ勢がパワーをつけてきました。日本選手の国際経験の少なさと選手の高齢化による影響が初めて表れ、日本は世界から取り残される結果となりました。

しかし、卓球、女子バレー、バドミントン等では、ベテラン選手が大きなプレッシャーに負けずに新人の力を引き出しながら、メダルをとる健闘がありました。予想以上の活躍があったのは女子の陸上と競泳が挙げられます。競泳は15歳、19歳のティーンエイジコンビが大活躍し、見事に金メダル2個のほか入賞も果たしました。尚、今回のメダリストは偶然にも全員女性でしたが、これはジャパンウーマンパワーの爆発ともいうべきでしょう。

これからの課題としては、若い選手の発掘そして長期育成が急がれます。そのためには、まず、国内においてスポーツの楽しさをろう者に広く知ってもらわなければなりません。各ろうスポーツ団体と協力し合いながら共に取り組んでいきたいと思えます。これはウィンタースポーツも同様です。また、技術レベルアップのためにも、国際試合の経験を積む必要があります。各国選手の力量を把握し、強化計画に反映させる必要があります。これらを目標に、引き続いて4年間の強化に力を入れたいと思えます。

### (3) 医師・医療報告

医師 大井直往

大きなケガや病気などが期間中におこらず、無事大会を終えることができました。しかし期間中の小さいケガや故障とはいっても、選手の中で十分なパフォーマンスを発揮できない人がいたのはとても残念でした。小さな故障で、今回思う存分活躍できなかった人でも、小さなケガならばまた次の機会をねらえるので、そのときを目指して欲しいと思います。

また試合中のケガで退場させるか、そのままプレーを続けさせるか、判断をゆだねられる場面がありました。その場合、選手たちの今までに行ってきたであろう激しい練習や、外国でのプレーを思う気持ちを考えた上で、プレーを続けさせることが多かったです。しかし、大会後3ヶ月くらいたった今、その時の痛手が残っている人がいないかどうか甚だ心配です。続けられるか、続けられないか、その判断を私にゆだねられるのはかなりの重荷でした。

ドーピング薬剤（ステロイド軟膏）の治療用使用申請（TUE）を大会中に2件ほど行いました。ドーピングオフィサーの部屋がVIPの区域にあるため出入りできず、連絡が簡単にとれなくて困りましたが、Faxでのやりとりが可能になってからは楽になりました。結果として、日本選手のドーピングチェックは1件もありませんでした。

選手から要求されて困ったのは、本当の薬ではないものを要求されることでした。たとえば鼻を洗うスプレーとか、目の乾きをおさえる目薬とか、肌の乾燥を抑えるローションやクリームなどです。これらは必ず自分で用意して欲しいと思います。またテーピング用のテープやクーリング用のバッグなどは、最小限はこちらで持って行きましたが、これはあくまでも非常用であるので、自分たちで十分に用意して欲しいと思います。

運営面でも、サッカーは特別にケガが多いので、是非ともチームドクターを専任でつけるようにしていただきたいと思います。今回はサッカー競技がメルボルン市内より遠く離れた会場で行われたので、特に痛感しました。

チームドクターで大切な点は、どんな場所でもフットワークよく、一人で動き回れることと違ってやったつもりでしたが、力不足の点はたくさんあったと思います。それでも、今回の大会で多くの選手や役員の方とコミュニケーションがとれたのは、私にとってとても幸せなことであったと思います。

#### 【今回の活動】

呼吸器疾患	19件	消化器疾患	4件	神経系疾患	2件	運動器疾患	40件
皮膚科疾患	5件	眼疾患	3件	耳疾患	1件	脱水症	1件
TUE申請	2件						

### 3. 各競技報告

#### (1) 陸上

監督 飯村 聡

##### 1. 選手選考について

参加標準記録は、メダル獲得可能性のある記録を設けていた。この記録を達成した選手は8名いて日本聴覚障害者陸上競技協会としては8名全員派遣してほしかったが、派遣選手の枠(4名)が限られており、厳選の結果、金メダルに近い選手を4名選考した。



##### 2. 成績と評価

金子誠一選手は 10,000m、マラソンの2種目に出場した。10,000mは 34 分 26 秒 36 で7位入賞し、自己ベストの記録はならなかったが、ペースの乱れはなく順調な走りであった。マラソンは 2 時間 53 分 57 秒で5位入賞した。マラソン経験は豊富でメダルの期待はかかったが、暑さを耐えて完走することが出来た。

西川恵太選手は 800mと 1,500mの2種目に出場し 800mは 2 分 11 秒 20、1,500mは 4 分 42 秒 40 で共に予選通過はならなかった。昨年の3月は大学を卒業し、4月からは社会人として環境が変わり十分な練習が出来ず、記録が思うように走ることは出来なかった。

泉裕子選手は 10,000m、マラソンの2種目に出場した。10,000mは 39 分 37 秒 53 で6位入賞した。10,000mの公式出場の経験は少ないが自分のペース通りに走ることが出来た。

マラソンは 3 時間 11 分 08 秒で銀メダルを獲得することが出来た。本来の競技種目はマラソンで、C I S S公認記録保持者であり金メダル有力候補であったが、夏のマラソン経験は初めてであり、3時間を切ることは出来なかった。残り3kmで脚のふらつきがありゴールまで完走出来たものの、軽い脱水症を起こし病院に運ばれ、約3時間点滴をして快復した。

武内晴香選手はやり投げに出場した。41m 40 で銀メダルを獲得することが出来た。昨年の夏までに膝の靭帯損傷で約6ヶ月間のブランクがあり、練習開始が多少遅れていたことがあった。最後の6投目で 40mを超え一時はトップに立ったが、最後の選手に逆転を許し、2位になったが、41m40はデフリンピック新記録であり立派な記録であった。



### 3. 競技運営など

オーストラリアのビクトリア州陸上競技団体が中心に運営していた。

1月3日のチーム代表者によるテクニカル・ミーティング終了後に出された競技日程表によると競技時刻が全部変わっていた。平均1時間前後変わっているが、一部は日が変わるものもあった。テクニカル・ミーティングに出席しなかった国が約4割あり、コール時限により棄権となるが多かったのはその理由によると思う。また競技前日になって午前実施する男子ハンマー投げを夜に変更するなど前日の突然変更が多かった。



施設、設備関係の運営面は全く問題がないが、競技時刻に関する問題が多く棄権した競技者が多かった。

マラソン競技はメルボルン市から約90km離れたバラット市で行われた。事前に配布されたコース図で2ヶ所の給水場が実際と違う位置に設置したこと、事前に説明された最終回の進路方向がスタート直前での説明が違っていること、スタート時刻が10分遅れたことなど運営上の疑問点があった。

### 4. 大会参加までの準備状況

合宿については6月(山梨)、10月(茨城)、12月(沖縄)を3回実施した。選手の勤務都合上、3回とも全選手がまとまって合宿参加することは出来なかった。合宿以外は、自主に練習、地元での積極的な競技会参加を指示した。

監督は合宿の企画、選手の状況の把握、デフリンピック関連の情報伝達、トレーナーはドーピング関連の指導、情報収集を実施した。



### 5. 反省・まとめなど

男子選手はメダルの期待がかかったが、惜しくも取ることは出来なかった。入賞出来なかった西川選手は、選考決定からデフリンピック参加までの間は、季節の変わり目であり、社会人になってからは環境の変化により、勤務の残業が多いなど、十分な練習をすることが出来なかったのが原因である。マラソンの金子選手、泉選手は自己ベスト記録に近い状態ではなかったが、冬場のマラソン競技の経験は豊富であっても、デフリンピックは夏場であり、暑さ対策として、夏場で最低は30kmロードを中心に走り込んでいかなければならなかったと思う。

また1月3日のテクニカル・ミーティング終了後に配布された競技日程表に女子やり投げの予選追加があったことを見逃してしまい、予選のコールが出来なかったため、主催者は予選追加の大きな変更は事前に公文書で通知すべきと武内選手の棄権取り消しを求めることで異議申立書を提出し、我々の主張が認められた(結局、予選は中止になり決勝のみ実施された)。その件については、我々も競技日程時刻等の再チェックの励行をすべきと反省している。

その他デフリンピックの共通手話である国際手話では長い文章は半分以上読み取れず、事前にもっと勉強しなければならなかったと思う。

陸上チームは役員、トレーナーを含め、初参加であり、前回のデフリンピックについて情報を得てはいたが、充分ではなかった。前回の監督にもっと情報を得てほしかったと思う。前回までは選手のほかに監督一人だけが派遣されていたが、今回は新たにトレーナーが派遣されたことは大いに感謝している。選手のコンディション状況把握、マッサージなどとても役立つことであった。



選手選考からデフリンピックまで11ヶ月の間は長く、選考決定からデフリンピック参加までに選手のコンディションが変わることと事故があった場合の対応が難しいことなどを考え、選考からデフリンピックまではせめて6ヶ月程短くしたいと思う。

陸上競技は種目が多いことと出場日時に合わせるために選手コンディションがまちまちであるため、専門種目のコーチの帯同が必要である。

今回の反省、問題点などは今後のための材料にしたいと思う。

## (2) バドミントン

監督 石井 幹雄

### 1. コーチの内容

私達デフリンピックバドミントンチームは、この度のメルボルン大会に向けて、日本国内で様々な練習メニューをこなし、個人の技術的レベルアップやチームとしてコミュニケーション作りなどを行ってきました。選手一人一人が競技者の自覚を持ち、また、監督を中心にチームワークで競技に臨むことの大切さを話し合い、参加しました。



海外で行なわれる大会の場合、大会の規模や競技についての情報がなかなか掴

めないことが多いので、現地での迅速な対応が必要になります。また、日本では普通のこと海外では普通に行なわれないなどハプニングもよく起こります。

私達バドミントンチームは1月2日、日本選手団と共に、午後8時20分発シドニー経由で翌日の3日、午後12時にメルボルンへ到着しました。日本を出発直前に現地でテクニカル・ミーティングが午後2時からの開催と連絡を受けており、入国審査や飛行機の遅れなどがあれば、万事休すという状況もありました。しかし、この度の会議について、担当会社である近畿日本ツーリストの方々や日本選手団事務局が現地で迅速に対応していただき、テクニカルミーティングに間に合うことができました。

この先、色々なことがおこる可能性があることを心に留め、現地初日を終えました。

翌日、4日は予定されていた公式練習日。日本チームは午前中の2時間の持ち時間でしたが、練習におくれた国があったため3時間半の練習ができました。この練習は、各国が参加国のメンバーや注目選手、初参加選手の技量などを確認するものでもありました。私達もやはり注目の参加国であったようです。

日本では年末にかかり十分な練習が出来ていないにもかかわらず、この短い割り当て時間の中で、選手達はよく調整していたと思います。練習内容は、基礎打ちと試合形式のローテーションをシンプルにしたもので、本番のペアが判りづらい内容で行ないました。5日についても、4日同様の公式練習で技術的な内容より精神的内容を重視し、選手に練習内容を一任し、予定された練習を終了、午後からの開会式に備えました。

翌6日、競技開始。団体戦から行なわれ、私達は昨夜のミーティングを行ないメンバーを決めました。この団体戦ではメダルを獲得し、個人戦にもはずみをつけることで試合に臨みました。

団体戦は、A～Dグループで4チーム総当りで行ないます。日本は、Dグループでリトアニア、ガーナ、オーストラリアで予選を行ない、緒戦はリトアニア戦。男子ダブルス小堀・秋山組、混合

ダブルス小堀・石井組が快勝しましたが、男子シングルス、女子シングルス、女子ダブルスが惜敗し2対3で1敗となりました。日本チームは、海外選手中で体格も小さくパワーをカバーするために、技術的テクニックで勝負したかったのですが、シングルスは特にパワーと速さがかなりのウエイトをしめるものだと改めて痛感しました。

2戦目はガーナと対戦する予定でしたが、参加取り止めとの連絡を受け、ラッキーな不戦勝となり1勝1敗となり、予選最終戦、地元オーストラリア戦を5-0で快勝し、2勝1敗の2位で決勝トーナメントへ進出しました。選手へは久しぶりの海外試合、または初参加であるため、息を合わせることをアドバイスしました。

団体戦の決勝トーナメント緒戦は、Aグループ1位の強敵、韓国との対戦となり、我々日本チームは、考えられる最強のチーム編成で臨むことにしました。選手へは自分の力を100パーセント出すにはリラックスすること。ダブルス戦には2人対1人で試合を優位に進めることだけをアドバイスしました。しかし、韓国戦では練習回数や実践練習での差があり勝利することはできませんでした。

団体戦については、韓国、ドイツ、リトアニア、ロシアについて、16カ国中、日本は5位という結果になりました。

団体での各国選手のレベルを踏まえ、気持ちを切り替え9日からの個人戦にチーム一丸となって戦うことを誓い合うチームミーティングを行ないました。



個人戦、男女シングルスがあり、4人総当りの予選からBグループ1位通過の小堀選手、女子Aグループ2位通過の羽賀選手、Eグループ1位通過の中井選手、Jグループ1位通過の石井選手、Kグループ2位通過の樋渡選手の5人が決勝トーナメント進出を決めました。

決勝トーナメントへは各国それぞれの思惑の中、熾烈な争いとなり、また、日本選手へのアクシデントなどにも見まわれながらの試合で、選手には辛いものがありました。しかし、メダル獲得の執念により気持ちを切り替えていくことで、選手への意志確認ができましたので続行の運びとなりました。

結果、女子・石井選手、樋渡選手がベスト8で惜敗の結果となりました。

選手へのアドバイスは返球の距離感覚の調整、返球コースの選択を指示しましたが、やはり海外選手のパワーに半歩近づくことができませんでした。しかし、技術面は日本が勝っていますから、今後、パワーを身に付けることにより日本がトップリーダーとなれることが確認できました。

12日からは、男女ダブルスは決勝トーナメントで男子ダブルス中西・甲斐組がブルガリアに勝ち、準々決勝で優勝したインド組に0-2で敗れベスト8でした。男子はやはりパワーとミスの少ない正確な返球やコースなどが求められ、根競べによる試合でした。

女子ダブルスは石井・樋渡組が一回戦ガーナの不参加による不戦勝。二回戦はドイツ組に2-1で勝ち、準々決勝で韓国、準決勝でリトアニア組に快勝し、決勝は第1シードの強豪韓国に決まり15日の最終日での決戦となりました。翌13日は混合ダブルス戦が行われ中西・羽賀組がドイツ組に勝ち、小堀・樋渡組がインド組に勝ち共に準々決勝へ進出しました。準々決勝では中西・羽賀

組がインド組に負け、小堀・樋渡組もドイツに負けベスト16となりました。

秋山・石井組はドイツ組に勝ち準決勝に進出しました。勝ち進むにつれ、厳しい試合内容になり、疲労もありましたが、自分たちのミスを極力減らし、攻撃している時間を相手より長く持つことだけを指示しました。

翌14日は混合ダブルス戦の準決勝だけが行われました。秋山・石井組はシード2位の強豪韓国組との対戦となりました。秋山・石井組は韓国組のコンビネーション



の良さによく対応し、攻撃、守備にも反応していましたがささいなミスの差で惜敗してしまいました。連日の試合による疲労もあり、コンディションを作りきれなかったのが敗因かもしれません。

翌15日最終日。他の競技がすべて終了し、バドミントン競技のみとなり、沢山の応援を受けながら試合に臨みました。まずは、混合ダブルス戦の3位決定戦、秋山・石井組がシード6位の強豪ロシア組と対戦になりました。秋山・石井組は持ち前の攻撃力を活かして、攻めの姿勢を存分に出し、男子のレシーブ力のあるロシア組に互角に試合を進め、1対1となりファイナルゲームまで纏れる展開となりました。やはりこの時も自分からの攻撃、返球のミスを極力減らし、つなげていくことを指示しました。

その後も競り合いながら、マッチポイントになるまでわからない展開の中、ロシア組のコンビネーションの良さなどに差が出て惜敗となりましたが、4位入賞というすばらしい成績を残すことができました。

優勝は韓国組、2位はリトアニアとなりました。

混合ダブルスについては、各国とも女性が前方、男性が後方のトップ・アンド・バックの型を取り、男性のパワーと女性とのコンビネーションが重要であることを再確認することができました。器用でテクニックのある日本選手も、パワーをつけることにより勝機はあることが確認できました。

続いて、女子ダブルス決勝はシード1位の強豪韓国との対戦となりました。

混合ダブルスをフルセット戦ったばかりの石井と樋渡組でしたが、ここまで来たら勝つことだけ、自分を信じて戦うしかありません。日本チームメンバーで円陣を組んで二人を送り出しました。

試合はなかなか波に乗れない石井・樋渡組でしたが、持ち前のレシーブ力でのぞき、攻撃につなげた石井選手のプレーと樋渡選手との信頼関係により、強豪韓国組に2-0で快勝し、金メダルを獲得しました。

韓国組も体格では日本選手と変わらないのですが、基本をマスターし応用力やラケットワーク、フットワーク等のレベルが高いのが印象に残りました。石井、樋渡組も苦しい場面が多々ありましたが、攻撃されている時の返球ミスと距離の調整だけを指示しました。後は絶対勝つという気持ちが今回の金メダルにつながったのだと思います。

## 2. 反省・まとめ

このデフリンピックのバドミントン競技に参加し、日本選手が世界レベルのどの位置ににあるのか、また、各参加国のレベルや特徴について知ることができました。

日本ではビデオなども見て研究もしましたが、やはり実際に見てみないと分かりません。

今回エントリーしながら不参加となっている強豪インドネシアなどのレベルも気になるところです。

今後の課題は、各国に対抗できるパワーとテクニックを今以上に付けることや聴覚障害者へのバドミントン競技に関係する情報の提供。

また、新しい選手の開拓や強化および強化育成スタッフの確保などが必要だと考えます。

### 【今後の課題】

- ① 国際大会の有無に関係なく毎年ナショナルチーム（強化指定選手）を認定し、国際大会出場最優先選手として認定制度の確立。  
（男子 10 人、女子 10 人程度）※大会成績などで毎年入れ替わる。
- ② 国内強化合宿実施回数の充実および強化スタッフの確保（登録）。
- ③ 選手個人の基礎体力の評価、技術的評価、改善項目（筋力、持久力、フットワーク、ラケットワークなど）などを評価表にまとめ、強化していく。  
※選手は地元練習でも改善項目を中心に練習し合宿での評価を受ける。
- ④ 新しい選手の開拓をする。
- ⑤ 一般競技大会に積極的に参加する（年間規定回数を決める）。

以上。今後の日本バドミントンチームに期待致します。日本代表選手団の役員の方々お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



### (3) 男子バスケットボール

監督 林 彩根

まず、事前に行われましたテクニカルミーティング（代表者会議）で当初予定しておりましたブロック（アメリカ、ガーナ、日本）の組み合わせが、ガーナ、イスラエル両チームの不参加により大きく変わるという事態で、我々が作ったスケジュールもまったく意味をなさないものになってしまい、選手らの体調管理や、ゲームプランが水の泡となったことにショックを受けました。

結局、会議で参加チーム 12 チームを2つのブロックに分け、総当りのリーグ戦をすることになりました。ゲームが増えることは選手らの経験が増すという意味では良いでしょう。しかし、連日のゲームを続けるという経験はなく、日増しに疲れ、自分たちのプレーができなければ何の意味もありません。ただの消化試合になってしまうからです。

対戦チームはロシア（ユーロ5位）、スロベニア（ユーロ1位）、オーストラリア（開催国）、ニュージーランド（初参加）、中国（初参加）です。いずれも強豪ばかりで、事前の情報もないチームとの対戦は不安ばかりが募りました。

大会プログラムにも選手名等が入っているものの身長や体重などの記述はなく、会場に足を運びはじめて相手チームを見るといってお粗末な状況をまねいたことは今後の反省課題と致します。

1月6日は対ロシア、上記に書きました通り、センターは210cm を超え、年齢も20歳前後と将来的にも有望な選手と思われます。他の選手も190cm 前後のチーム、日本国内のチームで健常の日本リーグクラス以外にこんなチームは殆どありません。

ゲーム前のミーティングで、「勝つ事は難しいかもしれないけど、自分たちのバスケットをすれば決して大差はつかない」「いつも通り早い展開と攻守の切り替えを早くして離されないようにしよう！」と選手らに伝えました。

最初は確かに五分五分の展開でゲームが始まり、緒戦の硬さはあるものの自分たちのバスケットが出来ていました。しかしながらロシアもリズムを掴み、少しずつインサイドにボールが入りだすともう手が付けられません。身長差からリバウンドをことごとく取られてイージーシュートにもっていかれる。相手ディフェンスには小さなゾーンを張られ、外からのシュートは打ってもインサイドには入れず、オフェンスパターンを読まれて楽にシュートをさせて貰えず、シュートミスが目立ち始める。最終的に単発でシュートは入っても自分たちのリズムでゲームのイニシアチブを持つことが出来ず、大差のゲームになってしまいました。



7日はニュージーランド戦。前日にスカウティングが出来たので、希望が持てゲームに臨めました。初参加であること、オーストラリア（近隣）であることを理由にした、急拵えのチームというのが火を見るより明らかでした。失礼な言い方かもしれませんが、技術的にも、個々の身体能力も日本チームが上であるのは事実でした。選手らにはいつも通りすること、リーグ内における得失点の事も含めて、積極的にゲームを進めるように指示しました。内容的には相手のミスを得点に結び付け、余裕を持ってゲーム運びが出来ました。前回の大会以来の初勝利という嬉しい結果にもなりました。余談にはなりますが、その前回から参加した選手の中にはこれまでの勝てなかった悔しさがあったのか、帰りのバスで嬉し涙を流す選手もいました。

8日、日本チームはゲームがなく、この日は午後からの練習のみ。午前中はスタッフでもう一つのブロックのゲームを観戦、これから対戦予定の中国、イタリア、強豪チームのアメリカ、リトアニアなどのスカウティングを行いました。

9日は対スロベニア戦。前年度のユーロ選手権1位のチームでした。このチームも2mの選手はいないものの、190cm台の選手らが殆ど、そして幅もあり、ヨーロッパで勝ち上がるにはこれだけの身体能力がないと勝てないのだろうということを実感させられました。ゲームが始まるとやはり、日本チームのオフェンスをさせて貰えず、終始相手のペースでゲームが展開され、成すすべもありませんでした。相手チームは後半から経験の少ない若手選手らを起用しだし、その間に多少なりとも自分たちのプレーをし、加点はするものの大差の敗戦となりました。



10日はゲームはなく、公式練習や女子チームの応援、スカウティング等を行いました。

翌11日は対オーストラリア。当初の予定では対戦がなかったので、是非、親善ゲームをと前年からメールでやりとりをしておりました。

会場、審判すべてお願いし日時まで決まり、我々は着いた当日に連絡をすることまで決まっていたのですが、代表者会議の当日にキャンセルを申し渡され、いささか残念ではありました。しかし、オーストラリアチームがキャンセルした理由がこのゲームにありました。確かにヨーロッパ並みの身体能力はあるものの（2m台の選手もいる）、スピードや技術的には頑張れば決して負けるゲームではありませんでした。ゲームは終始互角に進み、自分たちのプレーが出来ておりました。ただ、敗因としてはリズムを掴みかけるところで審判の判定に不満の残るものがあり、なかなか追いつけず我慢の連続でした。

後半に入り、オーストラリアチームのスターティングメンバーがファールアウト（5ファール）したところで1桁台まで点差が縮まりましたが、当方の司令塔、稲村君のファールアウトもあり逆転することが出来ませんでした。しかしながら、このゲームで自分たちのプレーを信じ、終始ディフェンスも頑張っていた日本チームは今までの中で一番良いゲームをしてくれました。負けはしましたが、将来の日本代表に自信と希望を与えてくれたゲームでした。最初にも述べましたが、親善

ゲームが出来ていたらきっと勝っていたゲームだと思いました。

12日はリーグ最終戦の中国でした。このチームも初参加で当初、参加の予定もなくドイツの不参加などで参加するというものでした。

スカウティングも前日までに出来ており、決して負ける相手ではないという自信もありましたが、逆にこの自信が裏目に出てしまい、心のスキを作った次第です。自分自身反省しなくてはいけないゲームでもありました。中国もご多分にもれず、平均185~190cmはあり、体格も大きく、身体能力もかなりのものでした。しかし、年齢的には20才代前半の若者たちで、経験年数も決して多くないようなチームでした。ゲーム開始当初は勝てると予想し、じっくり観戦しようと思い坂本コーチに任せました。日本チームのスピードあるバスケットを嫌った中国は小さくゾーンディフェンスをし、スローペースで終始し、オフェンスも身長差を有利に利用し、インサイドでのプレーが中心でした。その中国の戦術にまんまと嵌り、自分たちのプレーを忘れ、同じように攻撃をする日本チームに勝ち目はありません。第2ピリオドが始まり、慌てて指示を出し、選手らに最後のゲームだから頑張れと喝を入れ、やる気を出させましたが、時すでに遅く、調子に乗った中国の選手らを止めることは出来ませんでした。これからこの選手らが成長し経験を重ねるとアジアでの地位を確保するものと思われます。それまでに日本チームも身体能力と経験豊富な選手の発掘が必要になると実感したゲームでもありました。

13日は翌日からの決勝トーナメントや順位決定戦を控え完全オフ日でした。唯一のオフということで気分を変えリフレッシュしようと男女代表とスタッフとで近畿日本ツーリストさんをお願いし、オプショナルツアーに行きました。

14日、日本チームは結局1勝4敗で9~10位決定戦に進み、イタリアと対戦することになりました。健常のバスケットの中でヨーロッパで一番のバスケット人気と実力を誇るイタリアですが、そのイタリアチームは、事情は存じませんが、前年のユーロ選手権に参加しておりません。近隣(スロベニア)で開催されているにも関わらず、参加していないのはそれなりの理由があると察し、このゲームも頑張れば決して負ける相手ではないとスカウティングをして思いました。身体的にも大きくなく、日本チームとほぼ互角の身長、体格でした。選手の中には年齢的にも高い者もあり、経験豊富なチームとされました。日本チームとよく似たチームでメンバーが何処からでも加点出来るチームでした。いつもと同じ指示をし、ゲームに臨みましたが、連戦の疲れからか選手らにキレがなく、ミスも多かったように見え、途中若手にスイッチしたりしましたが、詰めも甘くなかなか追い付けず、結局、チームの要である中村、及川がファールアウトをした時点で勝機を逸したゲームでした。しかし、もう少しメンタル面で欲を出せていたら勝っていたゲームでもありました。今後の強化の方向付けが見えたゲームでした。

#### [競技運営など]

今回初めてデフリンピックに参加させて頂きました。あくまでも個人的見解として感じたことを列記させていただきます。'91 アジア選手権(神戸)、'01 東アジア大会(大阪)等で国際大会の競技役員として参加し、大会運営等を手伝わせてもらいました。そんな過去の経験から今回、一番感じたことが、代表者会議での組み合わせ変更という信じられない事態でした。健常の大会ならブロック内で棄権、不参加などは不戦勝で処理され、当該ゲームのみ考慮されるのが通常ですが、組み合わせもスケジュールも全て変更する大会は初めてでした。それだけまだ、チーム数が少ないこと、組織自体が脆弱で若いことが理由として挙げられると思います。良い表現として、出来るだけゲー

ムをし、交流を深めようという主旨のもとであるのかもしれませんが。会議では強い（上位を狙う）チームが強行に当初の方法で進めようとしたのに対し、ニュージーランドなどの新規参入チームなどが後者の方法（今回の組み合わせ）をして欲しいと意見が割れる中、多数決で後者の方法で大会が進められることになりました。この中で強く感じたのが、やはり国際手話、ならびにASLなどの手話に長けていること、健聴者（私など）の役員は最低でも英語が雄弁でなければならないことが要求されました。会議で積極的に意見を述べなければならないし、会議で途中の休憩でも、国と国とでロビー外交が交わされ、会議の方向性を模索することも出来なければ、国際的にも取り残されることが危惧されます。国際的なセンスを持つ役員をも育てなくてはならないでしょう。



また、私は健常の審判員として長年務めていましたので、今回の審判にかなり興味を持って参加させてもらいました。大会のHPによりますと、FIBA（国際バスケットボール連盟）公認の審判、及びそれが認めた審判とあったので、ゲームに安心して集中できるものと思っておりました。しかし、どのゲームも満足できるものではなく残念に思っております。特に、従来あってはならない当該ゲーム（日本 VS オーストラリア）に自国の審判を割り当てるということも後になって分かり、これには憤慨しております。そうでなければ勝っていたと自分では思っております。また、女子の対ニュージーランド戦では接線が予想され、充分勝てる要素もあるゲームにも関わらず、判定の不平等動作、一貫性のなさは目に余るものがあり、残念でなりませんでした。

また、私は健常の審判員として長年務めていましたので、今回の審判にかなり興味を持って参加させてもらいました。大会のHPによりますと、FIBA（国際バスケットボール連盟）公認の審判、及びそれが認めた審判とあったので、ゲームに安心して集中できるものと思っておりました。しかし、どのゲームも満足できるものではなく残念に思っております。特に、従来あってはならない当該ゲーム（日本 VS オーストラリア）に自国の審判を割り当てるということも後になって分かり、これには憤慨しております。そうでなければ勝っていたと自分では思っております。また、女子の対ニュージーランド戦では接線が予想され、充分勝てる要素もあるゲームにも関わらず、判定の不平等動作、一貫性のなさは目に余るものがあり、残念でなりませんでした。

諸事情はあると思いますが、女性審判、高齢の審判、デフの審判と、明らかにゲームのレベルに対応が出来ていない審判員が多く、どの国のコーチらも不平、不満があったのではないかと思います。特に男子の決勝戦（アメリカ VS スロベニア）では、ゲーム途中で警備員が審判を保護する事態まで発生し、中断したことなどは典型的にゲームに対応出来ていないからです。個人的には障害者の大会であるが、決して健常者のそれとひけをとらないゲームが多々あったことから、国際公認審判員の派遣をお願いしたいと思います。日本対スロベニア戦の時は中国の女性審判（かなりの上級審判でプレーヤーの経験がある）が副審を務めましたが、彼女は日本チームを目の前でスカウティング出来、それを自国のコーチなどに報告も出来ていると思います。そういう点からも健常であれ、デフであれ、日本からの審判員の派遣もこれから必要になるでしょう。バスケット協会も前出の役員、審判員の養成等も視野に入れた人材養成の必要が急務になってくるでしょう。

また、公式スコアシート以外にアメリカのソフトウェアですが、個人記録や分析が出来る集計リストなども頂き、とても参考になりました。最後に、全体的にオフィシャルや記録員、補助員のボランティアの方々が多くいたこと、行き届いたサービスをして頂いたことなど、将来的に日本でこの大会ができるようになるにはどうするかを伝えなくてはならないと思います。

[大会参加までの準備状況]

今年度は多岐に亘る援助と応援を受け、代表選手たちが成長したと思います。可能な限り、選手の経験を増やすこと、世界大会を想定した身体的優位なチームと対戦することで、今大会に少しでも良い成績を残すべく努力してまいりました。今年度の特筆すべき点は一つの“チーム”に築き上げるといふこと、普段、練習時間もままならない代表選手らをいかに“日本代表”としての誇りを持ち、普段からバスケットボールを意識し、自ら発奮させ練習に取り組むことに努力する、そういうメンタル面の強化。また、前年度において、おおよその私の考えるバスケットフィロソフィーを理解してくれましたが、それをより浸透させるべくコミュニケーションを主体とする細部に亘る指導、この2点です。

[反省・まとめ]

反省点として一番に挙げられるところは情報不足だったということ。前回の世界大会のビデオの数も少なく、2年前のイタリアで行われていた世界選手権にも財源不足を理由に参加出来ず、どの程度のレベル、技術、身体能力があるのかが充分把握出来ずに大会に参加したこと。同じ理由になるかもしれませんが、限られた資金の中での対外試合も少なく、選手らにもう少しゲーム経験を増やしておくことで競り合った時に勝機が掴めたと思われます。

ほかにも連日のゲームで身体的疲労、精神的なストレスが重なり、思うような試合運びが出来ませんでした。やはり、これも経験から学ぶものなので、将来の強化にとても参考になりました。もう一つは、アジアで No.1 を目標に参加しましたが、新規参入の中国に負けたことを残念に思っています。やはりアジアでの覇権を目標にこれからも強化に励んでいこうと思っています。

実質2年間の強化の中で多少なりとも強化費を出して頂きありがたく思っています。しかし、健常の日本代表チームとの境遇とはあまりにもかけ離れており、そのあたりの改善なくしてはいくら声を大にしても“日の丸”を背負って戦う意識は少ないと思われました。

今後、ろうスポーツ協会ならびにデフバスケットボール協会が恒久的な財源を確保しなくては、大きく発展するデフバスケット界では強化はおろか、現状維持も厳しくなると思います。今回、デフリンピックに参加させて頂き、世界の現状を垣間見た立場として、優秀な身体能力を持った選手の発掘、将来的に有望な若手選手らの育成に微力ながらもお手伝いしていく所存でございます。ありがとうございました。

## (4) 女子バスケットボール

監督 岡野 泰行

### 1. 選手の選考について

2003年12月まで6回合宿を実施し、「心」、「技」、「体」の3つの要素が代表にふさわしいかどうか、以下の項目を点数化し、合宿の参加状況を考慮した上で10名選考した。

心：「おはよう」「ありがとう」などの挨拶の基本をきちんと実行しているか？

チーム一員として、コミュニケーションを積極的に取っているか？

厳しい環境でも常にプラスイメージを持って取り組んでいるか？

技：基本技術を身につけているか？ また、身につけようと努力しているか？

コーチからの指導を受け、すぐ理解し、プレーできるか？

体：身体的能力を高めるために体カトレーニングを計画的に行っているか？

ただ、残念なのは、2003年12月候補合宿で、最後に残った選手は13名であったため、1名だけ落選というのは、あまりにも緊張感がない。それに、デフリンピック派遣補助金対象者が10名までであるため、最終的には12名ではなく10名選考した。候補選手をもっと広く集めるべきだったと思う。

※選考基準に関する反省・今後の提案については、6項「反省・まとめなど」に記載。

### 2. 全体的な評価

《試合について》

- ・親善試合（3日）でオーストラリアと対戦した。ディフェンスは、マンツーマンディフェンスで臨んだが、大事な局面において1対1で負けていたため、無理があった。
- ・相手のアウトサイドシュート成功率は思ったより低いので、ゴール下をしっかりと固めた2-1-2ゾーンディフェンスで本番に臨む方向で、練習時間を使って指導した。
- ・その結果、本番では予想通り、相手のアウトサイドシュートがほとんど外れており、またハンズアップをしっかりとできたお蔭で、24秒オーバーが数回出てきたのが良かった。選手の努力は評価できる。
- ・ただ、スクリーンアウトを意識できなかった。バスケットの下へ行ってからスクリーンアウトするのではなく、マークすべき相手へ向けてスクリーンアウトするべきだができなかったのは残念。
- ・オフェンス面は、合宿や国内大会を通して気にしているのが「シュート力」。勝利したときは55点だが、ほかは全て40点台。合宿で、2人1組シューティング、T字シューティングなどのシュート関連のメニューを必ず取り入れていたのだが、この練習が良い結果に結びつくような効果があまり出なかった。課題として残す形になってしまった。

- ・最後まで手を抜かずがんばってプレーして行ったので、大きな収穫だったと思う。これを次回へつなげていくことに期待したいと思う。

《選手の健康管理について》

- ・高熱を出した選手1人、気分が優れない選手1人発生した。
- ・高熱を出した選手は、現地についてから疲れがたまっただめだと思われる。医師の指示に従い、開会式に参加せず、安静とした。試合に間に合った。
- ・気分が優れない選手は、試合観戦中にひどくなっていた。疲れが原因だと思われる。現地の医師（デフリンピック側で用意された公認スタッフ）に診断してもらい、注射をしてもらった。そのあとは、気分が良くなった。
- ・昼休みなどにホテルで休養できるよう工夫する必要があると私は感じた。

### 3. コーチ体制とその内容

#### ア) 体制

役職	氏名	所属ろうあ協会	活動開始日
総務	日比野文美	兵庫	2002年12月
ヘッドコーチ	岡野泰行	愛知	2002年12月
アシスタントコーチ	竹内美濃	JDBA（東京）	2004年4月
トレーナー兼マネージャー	長神文野	愛知	2002年12月

#### イ) デフリンピック期間中での仕事分担について

《総務（日比野文美）》

- ・TD や監督会議に出席し、情報を把握し、スタッフ・選手たちへ報告する。
- ・スケジュールの管理、男子バスケットボール選手団との調整。

《ヘッドコーチ（岡野泰行）》

- ・女子選手団の取り纏め

《アシスタントコーチ（竹内美濃）》

- ・ヘッドコーチを補佐しつつ、選手へのコーチング、試合での指揮。
- ・業務範囲外であるが、英訳、手話通訳等選手たちのサポート。

《トレーナー兼マネージャー（長神文野）》

- ・選手の健康管理のチェック
- ・テーピングを始めとしたケガの予防や応急処置
- ・マッサージなど体のケア

《その他》

- ・選手の点呼は、主将である富田選手が実施。
- ・食べ物の買い出しや料理などは、日比野総務、竹内コーチ、長神トレーナーの指示に基づき、選手たちが実施。
- ・日本デフバスケットボール協会の公式サイトに速報などを岡野監督が更新した。

※コーチ体制に関する反省・今後の提案については、6項「反省・まとめなど」に記載。

#### 4. 競技運営など

##### ア) スケジュール

女子側は、スケジュールと試合会場に一部変更があったもの、順調に消化された。

(男子は、参加チームが12チームに減り、4グループによる予選リーグ戦ではなく、2グループによる予選リーグ戦を実施された。これに伴い、スケジュールが大きく変わったため、対応に追われた。)

##### イ) 会場

試合会場は、メルボルン・スポーツアクアティックセンター (Melbourne Sports And Aquatic Centre) のショーコート (2,000 席)、練習会場は、同じセンターのバスケットボールホールにて行われた。

ホテルからバスで30分程度と近くにあり、トイレ、販売店などが整備されており、前回大会 (前は男子役員として参加) より良い環境であった。

##### ウ) 練習について

試合期間中で、練習会場を利用するには事前にバスケットボール競技責任者のところで予約することにより練習が可能であることを1月5日 (開会式) に初めて知り、6日朝一番予約した。たまたまほとんど空いていたので、計画通り進めることができた。

ただ、このことを関係国へ周知しておらず、知らない外国チームがほとんどだった。そのうちコーチらしき人物に、半コート使いたいと懇願され、譲ったことがあった。

常に情報を収集することが大事であると痛感した。

##### エ) 試合結果の連絡について

試合結果は、全てメルボルンデフリンピック公式サイト内のバスケットボール競技用サイトに試合毎に掲載されていた。試合結果だけでなく、シュート数、アシスト数、リバウンド数など選手データも掲載されていた。

[http://www.sportingpulse.com.au/assoc\\_page.cgi?assoc=2811&plD=8](http://www.sportingpulse.com.au/assoc_page.cgi?assoc=2811&plD=8)

これを閲覧して、情報収集に努めた。

##### オ) ルールについて

国内 (日本) と国際 (デフリンピック) のルールに大きな違いはないが、血がユニフォームに付着した選手がいた場合、すぐ交代する (ユニフォームを変えるなどの処置のため) という国内にないルールがあった。選手はこのことを十分理解して試合に臨んでいたため、大きなトラブルはなかった。



#### 5. 大会参加までの準備状況

開閉会式のユニフォーム、競技用ユニフォームが自宅に着いたときは、もう最終合宿 (12月4日~5日) が終わった後であったため、マスコミへ宣伝広報することができなかった。

しかも、競技用ユニフォームは、男子用の寸法ではなく、女子用の寸法であったため、きついという苦情を出す選手が多数いた。あわてて代理店へ交換を申し込んだが断られたため、費用を払って追加注文することになった。結局ユニフォームを配布できたのは、出発日となったのは残念である。



## 6. 反省・まとめなど

### ア) スタッフ体制について

今回は、総務、ヘッドコーチ、アシスタントコーチ、マネージャー（トレーナー兼務）の4名で臨んでいたが、ハードスケジュールであり、ほとんどは夜遅くまでスタッフだけのミーティングをしたり、仕事をしたりしていたため、スタッフ数が足りないことが多かった。このせいで、ときどき連絡漏れや報告漏れなどミスが多く、選手たちが戸惑う一面があった。

今後の提案としては、専門知識を持つスタッフを多く揃える必要がある。具体的には、

- ・ Web サイト更新などの広報活動や取材・記録活動を主とする情報収集要員（2名）
- ・ 栄養管理や料理の指導を行う栄養士（1名）
- ・ 国際手話通訳者又は日英通訳者（1名）
- ・ トレーニング技術やテーピングなど専門知識を持つトレーナー（1名）

そして、総務、ヘッドコーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを含めて、仕事（責任）の分担及び指示系統を明確にし、行動していく必要がある。

### イ) 選考基準について

当初は自己負担での派遣を覚悟することを前提として募集していたため、良い選手が集まらなかった。今後の提案としては、募集するにあたって、選手の質を高めるために自己負担を軽減するような説明を明示する必要がある。そのためには、連盟（協会）側の財務基盤を強化しておく必要があると思う。

### ウ) 開閉会式、競技用ユニフォームについて

ユニフォームが届いたのは12月6日以降であった。最終合宿が既に終わり、マスコミへ披露することができなかった。ユニフォームは広報戦略に必要不可欠なアイテムであるので、3ヵ月前までに配布するなど、準備を早めにしたほうが良いと考える。

### エ) 体力強化について

他国の選手と比べると、跳躍力、瞬発力（爆発力）が弱い。平日（練習日以外の日）は筋トレで鍛えるよう指導してきたが、結果が出なかった。トレーニング計画内容が甘かったと反省している。今後の提案としては、専門知識を持つトレーナーを採用し、計画から指導・相談までトレーナーが主導して活動できる体制を作る。これにより、選手の育成の一環として貢献できると考える。



#### オ) バスケットボール技術について

地元チームで基本を指導できるコーチが少ない。このため、デフリンピックの結果につながっているのではないかと考える。基本がしっかりできれば上位へ食い込めると思う。バスケットボールは、基本を身に付けているかどうかで試合を左右すると言われている。従って、基本をきちんと指導するには、日本代表でなく、地元チームにて知識のあるコーチを招聘して、地元チームのレベルアップを図っていく必要があり、また、コーチ人口を増やしていく必要があると考える。

## (5) サッカー

監督 佐藤 彰

攻撃、守備ともにルックアップから素早い判断で組み立てるサッカーを理想とした時、ろう者サッカーに可能性を感じ指導に当たってきました。各国の選手はまさにそのレベルまで達し聞こえに関係なく個人の判断を周りが理解し、逆にサポートを含め個人を理解しあって組織が成り立つサッカーをこの大会で見ることが出来ました。

決勝線のイランのサッカーは素晴らしいものでした。個人技術力も優れ攻守において展開、組み立てに迷いが無い。そしてミスも少ない。チームコンセプトを最後まで貫く選手の姿勢が全員から窺える内容でした。日本ろう者サッカー代表はイランとアジア大会で引き分けています。互角？と言いたい所ですが、世界大会の内容で判断すると、先を越された気がします。

今回、ろう者サッカー日本代表が世界で結果が残せなかった理由の一つに“甘さ”がありました。色々な観点から選手たちはこの“甘さ”を露呈してしまったように思います。

戦う姿勢や勝利への高い意識というのはゲームの中だけではないということを学ばなければなりません。いざ、プレッシャーのかかったゲームの中で本来の力を発揮するには前もってそれなりの準備が必要であり、その準備がない状況の中大会を迎え、こんなはずじゃないという言葉を残し、終わってしまった気がします。

今後、ろう者サッカーの成長を考えた時、より高い選手意識と代表としての自覚を指導し、目標到達への気持ちが揺らがない精神力、マインドコントロールが必要です。

今まで、代表選手には、個が組織を活かすサッカーについて指導してきました。お互いのコミュニケーションから成り立つ信頼関係やそれぞれの選手が互いに信じ合う気持ちがアマチュアのサッカーにも必要と考えていたからです。グラウンドの中では味方を活かすプレーや又、逆に活かされるプレーを通して意志疎通が自然と出来る。そして良いリズムへとつながる仕組みを伝えてきたつもりでしたが、世界の選手を相手にして選手達は萎縮して硬くなりゲームの支配や組み立て、流れづくりなどゲームをこなしていく上でのセオリーを全く創り出す事が出来ませんでした。



その辺りを解決する為には経験を積み、自信をつける必要があると思います。今回の厳しい結果を選手共々、率直に受け止め新たな出発が必要だと思っています。



## (6) オリエンテーリング

選 手 野中 好夫

### 試合結果

15 カ国 参加人数男女計 55 人 (プログラムより)  
競技場所 メルボルンより 100km 郊外のバララット地域  
競技種目 ◆Sprint Distance Final (短距離)  
2005 年 1 月 9 日  
Map : Victoria Park  
Scale : 1:5,000  
Contour Interval : 5 m  
Length : 3.89 km  
Climb : 0 m  
Controls : 17 C

◆Long Distance Final (長距離)  
2005 年 1 月 12 日  
(高気温、強風の為 11 日から 24 時間延期)  
Map : Nerrina  
Scale : 1:10,000  
Contour Interval : 5 m  
Length : 10.3 km  
Controls : 28 C

◆Relay Final (団体戦) 2005 年 1 月 13 日  
(不出場)

成 績 ◆Sprint (短距離) 21/23 男子出走者 26 名  
◆Long (長距離) 22/22 男子出走者 26 名

### 自己評価

#### ◆Sprint

ベストコンディションのまま全力で走破した直後は中位かと思われたが、実際には下位の方だった。確かに欧州勢は強い。

また、オーストラリアのラフな O-MAP に悩まされた。11 番で 18 位から落ちている。しかし、欧州勢がうまくクリア出来ているのは技術の差であろう。



地図読み能力が優れても距離感や方位感をもっと鍛えていなくてはならないと痛感した。

#### ◆Long（長距離）

10 キロに及び長距離に加えコントロール数 28 もある、体力も精神力も強いられる年齢的に過酷なレースを完走するのが目標であった。それがクリア出来たのはよかった。しかし前上位者との差が1時間もあったのはまずい。

スタート早々、誘導ストリーマに気をとられて最終コントロールの方へ行きかけてしまうというミスをしてしまった。これはコースセッティングの問題だと私は思う。



最終コントロールからゴールへの誘導がスタートして間もないところにあるのは混乱をきたす。

更にここのヤブはトゲがあるから絶対通らないことと事前に忠言を頂いていたにもかかわらず、第一コントロールへ行く途中でちょっとなら大丈夫と思ってヤブに入って 10 分近くもロスタイムを作ってしまった。これが響いて全体的にタイムが落ちてしまった。しかし全てのコントロールを通過でき、今までの競技の中で一番体力消耗調整がうまくいったレースであった。

コンパスも Sprint での経験から、ピタッと方位を指す競技向けのコンパスに買い換えたのも正解だった（Sprint で使用した普及タイプは 45AUS\$, 競技用は 145AUS\$）。

全体的にまず、走力のアップが課題である。

そして若い選手を育成して次回に備えたい。

コンパスもプレートタイプより指につけるタイプの方が使いやすく、便利なものだと今回のレースで感じとれた。何故、長年やってきてもエリート選手が使っている指につけるタイプが便利と感じ取れなかったのかと思った。それはトレーニングの成果であろう。今後の国内における一般の大会で使ってみたい。

9	Arunas Kubilius	88:36
10	Ferenc Mihalyi	88:49
11	Vytautas Songinas	90:16
12	Robert Ruff	91:45
13	Marko Lehtonen	94:19
14	Eduard Katsman	97:35
15	Jukka Välimäki	97:57
16	Istvan Szebeli	101:26
17	Christian Hilfiker	101:30
18	Othmar Schelbert	101:54
19	Christian Matter	102:04
20	Ravil Farkhudinov	102:34
21	Curt Ljungberg	102:33
22	Yoshio Nonaka	108:21
23		

その他では、今回はアジア地域から初めての出場であった。欧州勢のレベルがよく分かった。これは一般の国際大会にも共通であった。

今回、日本から世界のオリエンテーリングというスポーツ界に入る機会が出来、注目が集まった。また、今後の国際大会の情報交換もやりやすくなった。

国際ろう者オリエンテーリング協会の発足、参加の機会を得ることが出来た。

2006 年に開催される（開催国は未定）ワールドチャンピオンシップでは年齢別に行われるのでそれに向けて引き続き強化トレーニングを行うことにした。

2009 年の台北デフリンピックには若い選手を育成して引率してゆきたい。

2010 年のワールドチャンピオンシップを日本で開催したいという声が欧州の国々からあがっ

ている。それまでに若い選手の育成および組織作りが急務であろう。

今回は選手としてだけでなく兼監督として、テクニカルミーティングにも参加するなど色々と情報交換を行った。

#### 2005 年度の強化合宿計画

WOC2005 併設イベントの競技にフル参加する。

- ① 8月 7 日 (日) Day-1 ミドルディスタンス
- ② 8月 8 日 (月) Challenge-1 ロングディスタンス
- ③ 8月 10日 (水) Day-2 スプリント
- ④ 8月 11日 (木) Day-3 ロングディスタンス
- ⑤ 8月 12日 (金) Day-4 ミドルディスタンス
- ⑥ 8月 13日 (土) クラブカップ7人リレー
- ⑦ 8月 14日 (日) Challenge-2 ロングディスタンス

場所：愛知県三河高原

合わせて WTOC に出場する韓国の肢体障害者オリエンティアとトレイルOを体験する。



## (7) 水泳

監督 豊田 律

### 1. 選考について

日本ろう者スポーツ協会から第 20 回メルボルンデフリンピックの標準記録の設定を委託され、前々回のデンマーク大会と前回のイタリア大会の3位記録を基準にして下記の通り設定した。長水路は 50m プール、短水路は 25mプールの意味でターンの回数によってタイムが変わってくるため、長水路、短水路の二つに分けて設定した。

	長水路		短水路	
	男子	女子	男子	女子
50m自由形	25 秒 40	29 秒 10	24 秒 90	28 秒 60
100m自由形	54 秒 40	1 分 03 秒 10	53 秒 40	1 分 02 秒 10
200m自由形	1 分 58 秒 90	2 分 15 秒 90	1 分 57 秒 40	2 分 14 秒 40
400m自由形	4 分 18 秒 80	4 分 47 秒 70	4 分 14 秒 80	4 分 43 秒 70
800m自由形	—	10 分 10 秒 30	—	10 分 02 秒 30
1500m自由形	17 分 19 秒 40	—	17 分 04 秒 40	—
50m平泳	31 秒 90	37 秒 80	31 秒 40	37 秒 30
100m平泳	1 分 09 秒 20	1 分 23 秒 90	1 分 08 秒 20	1 分 22 秒 90
200m平泳	2 分 30 秒 20	3 分 03 秒 30	2 分 28 秒 20	3 分 01 秒 30
50m背泳	28 秒 90	34 秒 80	28 秒 40	34 秒 30
100m背泳	1 分 04 秒 90	1 分 13 秒 70	1 分 03 秒 90	1 分 12 秒 70
200m背泳	2 分 18 秒 10	2 分 37 秒 80	2 分 16 秒 10	2 分 35 秒 80
50mバタフライ	27 秒 00	31 秒 70	26 秒 50	31 秒 20
100mバタフライ	1 分 00 秒 40	1 分 10 秒 40	59 秒 40	1 分 09 秒 40
200mバタフライ	2 分 14 秒 20	2 分 39 秒 60	2 分 12 秒 20	2 分 37 秒 60
200m個人メドレー	2 分 17 秒 40	2 分 36 秒 90	2 分 15 秒 40	2 分 34 秒 90
400m個人メドレー	4 分 45 秒 60	5 分 34 秒 70	4 分 40 秒 60	5 分 29 秒 70
400mフリーリレー	3 分 51 秒 40	4 分 27 秒 80	3 分 47 秒 40	4 分 23 秒 80
800mフリーリレー	8 分 36 秒 20	9 分 48 秒 30	8 分 28 秒 20	9 分 40 秒 30
400mメドレーリレー	4 分 20 秒 60	4 分 55 秒 30	4 分 16 秒 60	4 分 51 秒 30

2003 年（平成 15 年）1 月 1 日から 2004 年（平成 16 年）1 月 15 日までの間に標準記録を突破した選手を日本ろう者水泳協会の推薦候補選手として、日本ろう者スポーツ協会へ提出する事になった。

したがって、標準記録を突破した選手は下記の通りで役員を含め、日本ろう者水泳協会の推薦理由をつけて日本ろう者スポーツ協会へ提出した。

**(選手)**

選手名	種目	記録	標準記録	期日	大会名
今村可奈 (大阪)	100m 自由型	1分01秒49	1分02秒1	H15.12.7	SC協北大阪地区競技会
	200m 自由型	2分12秒05	2分14秒4	H15.12.7	SC協北大阪地区競技会
	200m バタフライ	2分30秒89	2分37秒6	H15.11.24	泉南・河内地区合同記録会
	200m 自由型	2分15秒80	2分15秒9	H15.8.3	大阪府選手権大会
	400m 自由型	4分44秒08	4分47秒7	H15.1.26	大阪府ジュニア大会
	標準記録を上記の通り5種目突破。特に200、400m自由形、200mバタフライは前回大会の2位記録を上回っており、メダル獲得に期待されている。				
選手名	種目	記録	標準記録	期日	大会名
早川友二 (神奈川)	50m自由型	24秒76	24秒9	H15.4.30	マスターズ水泳短水路大会横浜会場
	標準記録を上記の通り突破。第17、18、19回と3回連続出場し、メダル獲得など経験が豊富。他に50mバタフライも強く、メダル獲得に期待されている。				
選手名	種目	記録	標準記録	期日	大会名
高岸里佳 (大阪)	50m背泳	34秒24	34秒3	H15.12.21	SC協西大阪地区B・C級競技会
	標準記録を上記の通り突破。他に100、200m背泳も前回大会の5位記録を上回っており、メダル獲得に期待されている。				

**(役員)**

役員名	役職	保持資格
豊田 律 (三重)	監督	公認C級競泳コーチ・公認C級指導員・公認第1種競技役員
	第18、19回に監督として出場し、経験豊富。現在、日本ろう者水泳協会強化指定選手の総監督を務め、強化合宿にて早川、今村、高岸の3選手の指導にあたる。	
役員名	役職	保持資格
高岸清治 (大阪)	トレーナー	公認A級競泳コーチ・公認A級水泳教師・公認上級競技役員
	コーチとして今まで数々の日本代表選手を育てた実績を持つ。トレーナー知識も豊富。現在、大阪水泳協会の理事を務め、スイミングにて今村、高岸の2選手の指導にあたる。	

**2. 監督、コーチの役割**

監督…競技担当、TDとの連絡、事務局との連絡など。

コーチ…選手の管理、練習担当。

### 3. 目標設定

デフリンピック大会に向けて、まず目標を設定した。

早川友二選手…50m自由形、50mバタフライメダル獲得。最低でも全種目入賞。

高岸里佳選手…50m背泳メダル獲得。100m、200m背泳入賞。

今村可奈選手…100m、200m、400m、800m自由形メダル獲得。



### 4. 結果と評価

#### 早川友二選手

50m自由形	予選	25 秒 67 (6位)	決勝	25 秒 24 (5位入賞)
100m自由形	予選	55 秒 67 (7位)	決勝	55 秒 35 (8位入賞)
400m自由形	予選	4分 31 秒 26 (13位)	B 決勝	4分 26 秒 41 (11位)
50mバタフライ	予選	27 秒 63 (7位)	決勝	26 秒 77 (4位入賞)

前回に続いてのメダル獲得はならなかったが、レベルが高くなってきた中でよく健闘してくれた。特に50mバタフライで3位との差がわずか0.09秒だったのでとても惜しかったが、自己ベストを出したのでよく頑張ってくれた。年齢的に体力は他選手より少し劣っているものの、スタートと浮き上がりが非常によかったのが、入賞につながった。彼のレースぶりが、高岸選手、今村選手にとって良い見本になった。

#### 高岸里佳選手

50m背泳	予選	34 秒 68 (6位)	決勝	34 秒 70 (6位入賞)
100m背泳	予選	1分 15 秒 93 (12位)	B 決勝	1分 14 秒 49 (10位)
200m背泳	予選	2分 40 秒 57 (7位)	決勝	2分 40 秒 88 (7位入賞)
200m自由形	予選	2分 26 秒 45 (15位)	B 決勝	2分 24 秒 27 (11位)

体格が小柄にもかかわらず、堂々大柄の相手に向かってよく頑張ってくれた。泳力は他選手と全く変わらないので、スタートとターン、そしてタッチの技術を磨けば間違いなく上位入賞は狙えた。それが今後の課題と言えよう。

#### 今村可奈選手

50m自由形	予選	29 秒 96 (13位)	B 決勝	29 秒 52 (13位)
100m自由形	予選	1分 03 秒 37 (7位)	決勝	1分 02 秒 60 (5位入賞)

200m自由形	予選	2分 17 秒 28 (4位)	決勝	2分 14 秒 13 (2位)
400m自由形	予選	4分 43 秒 20 (1位)	決勝	4分 39 秒 86 (優勝)
800m自由形	予選	9分 46 秒 95 (1位)	決勝	9分 35 秒 28 (優勝)

年齢が16歳の若さ、国際大会が初めてにもかかわらず、堂々とよく頑張ってくれた。200m自由形は得意な種目であって惜しくも2位となったが、勝負の難しさの勉強になったと思う。その勉強を活かしてどんどん成長していきたい。

## 5. 今後の課題

大会のレベルが高くなってきている。早川選手の50m自由形（入賞5位）の記録は前大会で銀メダルを獲得した時の記録とほぼ同じであることからはっきり証明できる。

特にアジア勢の活躍が目立ち、中国・台湾が数々のメダルを獲得している。それにほとんどが10代と若い。そのままではアジア大会でも勝てないので強化本部を思い切って改善する必要があると痛感した。すぐ次回に向けて4年計画を実施してみんなと一緒に頑張らなければならない。



## (8) 男子卓球

男子監督 旅川 正人

### 1. 選手選考について

前回のローマ大会終了後、メルボルン大会までの4年間において、全国ろうあ者体育大会4回、全国ろうあ者卓球選手権大会3回、合わせて7回の大会成績をもとに、ポイント制による総合合計数で上位4位までを基準として選考しました。しかし選手の言動や態度及び身上の都合などで順位通りに選ぶとは限らず、順位をずらすケースがありました。上位に入っている高齢選手が2人おり、最初の2年間と比べ、後半の2年間では、実力の衰えが目立ったことで、若手にチャンスを与えたいという考えから、代表の座を繰越して若手選手に与えた次第でした。



大役をまかせて大丈夫かという声もありましたが、高齢選手とは、そう変わらない実力の持ち主である上、日本の将来のことを考え、この選択がベストではないかと思いました。

### 2. 成績と評価

#### ・男子団体 4位

エース青山選手と他にはいない数少ない戦術タイプである上江洲選手を中心とし、あとの1人は調子によることもあります。将来を考え、主として国本選手を出させました。結果的には4位でしたが、このメンバーでは行けるところまで行って、持てる力を全て発揮した結果だったと思います。体力面では、他国より劣る反面、戦術面や日本では見られないパフォーマンスでカバーし、精一杯頑張ったプレーに高い評価を与えたいと思います。2人の若手選手(国本、渡辺)は、青山、上江洲両ベテラン選手のパフォーマンスを目に焼きつける中で、日の丸の重みを感じ取れればと思います。

#### ・男子ダブルス 青山、上江洲組 4位 渡辺、国本組 2回戦敗退

青山、上江洲選手は団体戦フル出場の後の参加だったので体力面には、きつかっただろうが、パフォーマンスは最後まで尽きることなく発揮できたことを誉めてやりたいと思います。渡辺、国本組は、1回戦が相手の棄権で試合をせず、2回戦でいきなり強豪のドイツペアと対戦するはめになり、自分の力が発揮できないまま終わった感じがあったように思えました。若い2人はこの苦い経験を次回に活かせるよう、頑張ってもらいたいです。

#### ・男子シングルス 渡辺選手 予選リーグ戦敗退

#### 青山、上江洲、国本選手 予選リーグ突破 トーナメント1回戦敗退

ひと言で言えば、力不足であり、決定打の差でもあると言えるかもしれない。国内では点が取

れるはずところが、世界では取れない(通用しない)ということを感じ、自らの戦術研究をやらなければと痛感しました。それに体力の必要性も強く感じ取ったことでしょう。

#### ・混合ダブルス 青山、船越組 4位

男女両エースが組んでのペアだけにメダルが期待されたが、あと一步のところまで惜しくもメダルを逃した。準々決勝、準決勝とも、フルセットというタフな試合だったが、青山、船越両選手は持っている力を余ることなく出し切ったと思います。2人共、団体戦フル出場であり、肩、背中などを痛めながらも最後まで頑張り通した姿勢に皆は感動を覚えたと思います。



### 3. コーチ体制とその内容

今回は前回のローマ大会とは違って人数を増やし、よりよく選手達をバックアップできる体制だったと思います。

自費参加である有馬氏、スタッフ石森氏、トレーナー高田さんの3人は、自分の睡眠時間を削ってまで、選手達の衣類洗濯や朝早く起きて昼食確保の為にぎりぎり作りなど、色々やってくれました。石森、有馬氏は不規則な時間でありながらも、選手達の練習相手を務めたり、高田さんはタイムスケジュール確保や結果記録などをコピーし、毎日選手達に配るなど、献身的な働きをしてくれ、お陰さまでこちらは監督業に集中でき、感謝しております。

### 4. 競技運営等

今回はタイムスケジュールや大会プログラムを頂きましたが、今までの大会ではもらったことがなく今回が初めてでした。おかげで選手の試合コートや試合開始時間が把握でき、体調コントロールがスムーズにできました。

審判に関しては、厳格な審判員がいれば、まったく気ままな審判員もいて、やりづらい面もありましたが、大きなトラブルはなく小さなトラブルに対しては、審判長やデフリンピック技術委員の適切な指導によりスムーズに対処できました。観客はチケットを入手しないと会場内には入れないという今までにはないやり方で、そのせいかマナーのよい観客だったため、選手達は安心してプレーができました。

### 5. 大会参加迄の準備状況

合宿を3回、健聴者の大会参加や自主練習会などの中で、できる限りスタッフや選手達のコミュニケーションがとれるよう努めました。全国の各地から集まるということは、そう簡単ではないので、合宿では特にダブルスの面でお互いを知るという点では非常に有効な時間が取れたと思います。又、スタッフ、両監督も方向性を統一し、確認し合うことができたと思っております。



## 6. 反省・まとめ

戦術面、体力面、精神面の三面においてベストパフォーマンスが出せた選手、緊張感で力が発揮出来なかった選手等がいたと思います。結果的にメダルは一個もとれませんでした。スタッフが選手達のために色々動き回ってくれたことに感謝しております。青山、上江洲両選手に頼らなければ勝てないという現況をみて、次回は全体的に全員が戦える体制を整え、代表としての自覚を持つ選手を送らなければいけないのでは、と思います。その自覚を持たせるのがこちらの仕事になりますので、スタッフ強化も選手強化と同時に大切な課題だと思います。

それに今までの選考基準や選考方法を大きく見直すほどの勇断を持たなければ、卓球ニッポンの復活は有り得ないと思います。メルボルンデフリンピックが終わり、多くの方々からご支援を頂いたことは心より感謝しております。選手達は本当に精一杯頑張ってくれたと思います。私達スタッフはこの経験を今後の取り組みに役立つよう考え、周りに伝えたく思います。以上をもちまして報告と致します。



## (9) 女子卓球

女子監督 堀 純雅

### 1. 選手の選考について

前回のローマ大会終了後、メルボルン大会までの4年間において、全国ろうあ者体育大会4回、全国ろうあ者卓球選手権大会3回、合わせて7回の大会成績をもとに、ポイント制をつけ、総合合計点数から上位4位までを基準として選考しました。

### 2. 成績と評価

女子団体戦 3位 (銅メダル)

女子ダブルス 2位 (銀メダル)

女子シングルス 2位 (銀メダル)

団体戦に於きましては相手各国とも若年層の次代の選手を起用してきている流れの中にて、各国エース選手の責任感の強さを感じ更なる大会レベルの向上が予想されました。今回参加した日本選手団は船越選手を中心に初参加2名を加え各自持ち味を発揮し、現在の各選手の力を十分に発揮出来た点に付いては高い評価を与えます。

個人戦種目に於きましては団体戦フル出場の船越選手がメダルを獲得しましたが、やはり多い試合数により体力が削られ、気力と精神力のみにて試合に臨む姿は観客にも感動を与え高い評価を得たと感じております。

### 3. コーチ体制とその内容

今回は2名の男子スタッフの協力もあり、現地での練習メニュー等にも満足出来るレベルにて行え、またトレーナー(マネージャー)の機転の利く行動にて監督・選手は試合に専念出来た状況でした。

コーチ体制は今回の形が望ましく以後の大会に於いても必要な形式であると思われます。

試合毎に目標を認識させ全員の力にて戦える環境作りに対し、今回参加協力者の石森氏、有



馬氏及び高田さんの献身的なバックアップに感謝しております。

#### 4. 競技運営等

大会運営は審判によって温度差があり、非常に厳格な審判と地域レベルの審判とに大別され、混乱もありましたが日本チームのフェアな戦いに於いてはオーストラリア運営チームからも評価を得る事が出来、伝統国日本としての地位は更に向上したと確信致します。



#### 5. 大会参加迄の準備状況

代表選手選出決定後、2度の合宿と1度の練習会を行い健聴者の大会に参加し戦術、技術に対し短期間ではありますがレベルの向上を計りました。

監督個々の考え方を統一し、選手とのコミュニケーションにも十分に時間をかけ、方向性を確認し、本大会へ臨みました。

#### 6. 反省・まとめ

毎日のミーティングに於いて全員にて戦う為の時間の確認及び応援体制を確認しつつ、心の油断から来る怪我の防止に努め、悔いの残らない戦いをする事が出来たと確信します。

戦える環境作りに対してはマネージャー役の高田さんの繊細なフォロー、石森氏のトレーナー、自費参加での有馬氏の協力と万全の体制作りが出来た事がメダル獲得の要因となりました。

反省点としましては、女子キャプテンの船越選手一人への負荷を分散させる事が出来ない状況にて戦わざるを得なかったチーム事情に対して違った方策が無かったかが反省点です。

4年後以降のデフリンピック参加に対しては日本の競技レベルの加速度的向上が必要であり選手の選考基準、選考方法の改革が早急に必要となります。

次代を担う選手の発掘は勿論のこと強化方法にも一貫性が必要であり代表チームとしての自覚を持った選手団の結成が今以上に重要な課題だと思われれます。

今回の成績は4年前との対比に於いては惨敗と取られても仕方ありませんが監督として参加し選手と一緒に戦った姿は4年前以上にシビアな戦いであった事をご報告したいと思えます。参加選手の頑張りとはトレーナー、スタッフの協力に感謝し報告と致します。



## (10) テニス

監督 梶山 勝也



### 1. 反省

- ① メダル獲得目標3個に対して女子ダブルスの銀メダル1個しか獲得できなかった。
- ② 監督として各選手の試合に対する緊張やプレッシャーをプラスに出来る様にアドバイスや指導がもっと出来れば良かったと思った。そのため、前半は各選手の持ち味が活かされていなかった。
- ③ 日本では経験した事のないコートのコンディションでボールの変化にすぐに対応できていなかった。いろいろなコートの経験をしていく必要がある。
- ④ 試合後、体力の限界の中自分たちで買い物をして自炊をしたりしなくてはいけなかったのでマネージャーが欲しいと思った。
- ⑤ 現地の方や大会関係者と言葉が通じなく伝達などがスピーディに対応できていなかったのに対応できるようにしたい。又、通訳者が出来れば欲しいと思う。
- ⑥ 阿部(松永)選手は本来シード権があったが、対応がきちんとできず普通のエントリーになってしまった。
- ⑦ 各国の選手を見てテニスの技術はもちろんのこと体力的な面でのトレーニングも5分5分で行う必要を感じた。

### 2. 評価

メダル獲得目標3個のうち女子ダブルスの銀メダル1個だけの獲得であったが、私自身はメダル



獲得をうれしく思っている。

そして、前回のデフリンピックに比べて各選手のレベルが少しずつであるが上がっていると思った。特に、ダブルスに関してはレベルが確実に上がっていると実感した。

また、大会中は、各国の選手や監督と意見やコミュニケーションをとることにより日本に足りないものやレベルアップするための練習方法などが学べた。

日本選手もデフリンピックだけではなく世界大会などに参加をしていろいろなタイプの選手の技術を見たり自分自身の技術を磨いたりしていくと世界と戦えるようになって感じた。この大会では、多くの方にサポートして頂いたり様々な事を学ばせていただいたと思う。感謝いたします。

4年後のデフリンピックはメダルを1個だけではなく、2～3個は獲得するようにしたい。



## (11) ボウリング

監督 笹木 光明

1月2日代表戦手団は2組に分かれて、成田空港から夜20時半頃出発し、朝7時頃シドニー空港に着きましたがメルボルン市へ行く目的で乗り継ぎしなければならず選手達はマイボウルとトランクと共に移動し、周りにも迷惑なようでしたし大変でした。そしてメルボルン空港に着き、登録所へ手続きしたのは、14時半頃。手続き終了後、ホテルに着きましたがまたマイボウル等を移動し、選手達は益々疲れたようでした。ボウリング競技代表選手の参加者は男子5名と女子5名の計10名で4日と5日(2日間)で会場に慣れるため、数回投球しては移動したため、練習はしたものの時間が短いためレーンコンディションを半分位しかつかめていない感じでした。5日午後13時からTD会議に参加しましたが、通訳者同行はいないし、外国の手話の読み取りがまったくわからないまま進みました。

その夜行われた開会式では、選手達も参加し、会場では地元の企画による色々なイベントがあり、感動と同時に世界各国の代表者達との交流も楽しむ事ができました。

### 大会初日(1月6日)

参加国の男子は19カ国から134名が参加し、Aシフトは9時から12時まで、Bシフトは13時から16時まで、Cシフトは17時から20時まで男子個人戦が行われ、Aシフトは数見・久保両選手、Bシフトは新納・藤岡両選手、Cシフトは池選手が参加しました。成績は藤岡選手は36位、新納選手は43位、池選手は54位、久保選手は65位、数見選手は88位になりました。

### 第2日目(1月7日)

参加国の女子は10カ国から63名が参加し、女子個人戦が行われ、Aシフトは石井・福田両選手、Bシフトは数見・松清選手、Cシフトは栗山選手が参加しました。成績は数見選手が25位、松清・栗山選手は同点で34位、石井選手は38位、福田選手は39位になりました。

### 第3日目(1月8日)

男子ダブルス戦が62チームで行われ、Aシフトは新納・久保チーム選手が参加した。成績は新納・久保チーム選手は5位に入賞し、藤岡・数見チーム選手は16位になりました。特報としてはスイスの選手がパーフェクトを達成しました。

### 第4日目(1月9日)

女子ダブルス戦が28チームで行われ、Aシフトは数見・栗山チーム選手、Bシフトは石井・松清チーム選手が参加しました。成績は石井・松清チーム選手は8位に入賞し、数見・栗山チーム選手は14位になりました。

### 第5日目(1月10日)

男子トリオ戦が39チームで行われ、Aシフトは数見・池・久保チーム選手が参加し、成績は9位になりました。

### 第6日目(1月11日)

女子トリオ戦が18チームで行われ、石井・福田・栗山チーム選手が参加しました。成績は8位に入賞でした。

### 第7日目(1月12日)

女子団体戦が10カ国で行われ、Bシフト(前半)は石井・福田・数見・松清・栗山チーム選手

が参加しました。成績は 2,468 点、男子団体戦は 19 カ国で行われ、Cシフト(前半)数見・新納・池・久保・藤岡チーム選手が参加し、成績は 2,878 点でした。

#### 第 8 日目 (1 月 13 日)

前日に続いて男子団体戦が行われ、Aシフト(後半)に参加した。成績は 2,781 点で合計して 25,659 点で 2 位に載っていたが、Cシフトが残り、女子団体戦が行われ、Bシフト(後半)に参加した。成績は、2,475 点で合計 4,943 点で 6 位に入賞し、男子団体戦Cシフトが参加した。成績は 3 カ国が逆転したため順位が下がってしまい、5 位に入賞という結果でした。

男子マスターズ戦予選(24G)成績は、藤岡選手は 22 位、数見選手は 28 位、新納選手は 29 位、久保選手は 30 位、池選手は 59 位という結果で 16 位以上で選出の決勝へは進出ならず、女子マスターズ戦予選成績も、石井選手は 18 位、松清選手は 26 位、数見選手は 34 位、栗山選手は 35 位、福田選手は 37 位になりましたが、決勝へ進出ならず残念でした。

#### 第 9 日目 (1 月 14 日)

初日から 8 日目まで試合続きだった選手たちは休憩することができました。

#### 第 10 日目 (1 月 15 日)

決勝戦を選手達と観戦に行くことになり、他国選手達の技術を参考にすることができました。どの選手達も懸命に戦った成績を見ることができ感動しました。

#### 最終日

最終日は閉会式に選手達も参加しました。各国代表とは手話もわかりませんが身振り手振り動作で意思疎通したふれあいもあり、バッジなどを交換したり、地元の人達が手話歌をやったり、色々なイベントがあり楽しみ感動しました。

選手たちは 24 ゲームという試合数で大変疲れたと思いますが、皆は最後まで気を抜かないで本当によく頑張ってくれました。入賞は 5 枚を取れたのでよかったと思います！ 監督としては(自身は初体験だったが)初日から最終日まで朝から夜までABCと 3 シフトあるし、毎日選手たちに同行し、応援、コーチを(一人で)やるのは大変でした。これからは数名で同行するほうが良いと思います。

今後 2009 年に開催される台北大会では、今回メダルを取れなかったことを反省し、今回以上のメダルを獲得したいと願いを持ちます。又、2007 年第 2 回ワールドカップボウリング競技大会がシンガポールで開催される予定なので各選手とも更に腕を磨いて、アベレージは男子 200 点以上、女子 180 点以上を目標レベルとして選手選抜に臨んでもらいたいと願い、そして最強の状態で大会に参加することができるようにと考えております。





女子団体



練習風景



男子団体

## (12) 男子バレーボール

監督 濱本也寸志

### 1. 選手選考について

平成14年9月に国内で活動する約20チームへ向けて日本チームの募集要項を発表、強化指定選手と各チーム監督の推薦選手及び希望者による合計36名に対する合同トライアウトを同11月に名古屋で実施した。そのトライアウトを基点とし、長期強化計画に基づき、チーム及びポジション別の目標を明確に定め、長期合宿計画に沿って、合宿を実施して行く方法とした。

最終的には、ローマ大会ベテランを主体とし、かつ難聴の若手スーパーエース若原選手を基軸にしたチーム編成となった。ここ最近の傾向であるが、国内デフバレーボールチームの方針が楽しさと交流を重視するレクリエーションに向かっており、日本チームにおける勝利を追及する厳しい練習に耐えられず辞退する選手が出たこと。また、安易な理由によって辞退する若手選手が多くみられたことが、チーム編成、強化を遅らせる要因となった。国内各チームとのチーム方針の隔たりは、今後の課題として検討していく。

### 2. 成績と評価

#### 予選

Aグループ：オーストラリア、ウクライナ、イラン、日本、フィンランド、トルコ

Bグループ：イタリア、ロシア、アメリカ、ドイツ、フィジー、ガーナ

#### 1月3日（月）

朝、メルボルン空港に着いた時、航空時間が長くて、飛行機内は狭くて、寝不足だったので、午後からの予定だったMACC会場での練習を取りやめてホテルで昼まで、睡眠をとりました。昼食後、体をほぐすため、近くの公園で散歩して軽くトレーニングし、十分、ストレッチ体操をしました。

#### 1月4日（火）

朝、TD会議（代表者会議）に参加して試合の進行方法などの説明を聞きましたが、国際手話（英語の手話）がまったくわからなかった。野村さん（日本バレー協会の役員で国際審判の資格を持っていて、英語通訳できる頼もしい人です。）が通訳してくれて本当に助かりました。

やっぱり、国際手話を勉強しておくべきでした。

選手は11時半に午後からの練習に備えて公園で散歩とストレッチなどをしました。

午後からMACC試合会場へバスで移動して2時から公式練習をしました。

選手たちは初めての練習だし、長い移動時間の疲れが取れないので、少し硬かったです。

#### 1月5日（水）

午前、地元オーストラリア男子チームとの練習試合を行いました。

試合の結果は2対0で勝ちました。

内容は、1セット目は選手が緊張したため、硬かったようでした。

が、少しずつ慣れてきたので、日本チームらしい試合が出来たのです。

オーストラリアチームはメルボルンデフリンピックのために急遽チームを組んだようなので、強くはなかったのです。

しかし、公式の予選試合の前に練習試合をしてよかったと思いました。

もし、練習試合をしなかったら、MACC 会場での予選でいいスタートが出来ないまま、負けパターンにハマってしまうだろうと思います。

練習試合後、クールダウンストレッチをしてホテルへ戻りました。

午後5時から、デフリンピックの開会式がありますが、男子チームは明日から6日連続試合になりスタミナのことを考えて、怪我しているもがいるから、8名が不参加して残りの4名が参加しました。

1月6日（木）

午前8時に集合してホテルのロビーでミーティングを開始しました。

今日のスケジュールなどを説明。

昼食後、14時からホテルのロビーで試合に向けて注意と目標とポジションメンバーを発表しました。

目標

- ① チームワーク（金メダルを獲得するためには12名の選手とスタッフと力を合わせて頑張っていくこと。）
- ② 自己管理（金メダルを取るためには自分で体調を管理しなければなりません。）
- ③ 感謝（日本からいろいろカンパと協力してくれた皆さんに感謝の気持ちを忘れないこと。）
- ④ プライド（『日本代表』という立場を忘れないこと。）



先発メンバー

若原 梅本（弟） 信田

猪野 西村 乾 リベロ 大川

15時前に MACC 会場に着いて、すぐ、ストレッチとウォームアップをしました。

16時から第1試合が始まりました。

第1試合： ●日本 0－3 イラン○

第1セット： ●日本 17－25 イラン○

第2セット： ●日本 24－26 イラン○

第3セット： ●日本 20－25 イラン○

4年前世界第4位となったイラン選手のメンバーが半分、替わっていました。

体格が大きくパワーのあるスパイクでした。

メルボルンに着いてから、予選までの日数が足りなかったため、MACC 会場での練習不足で、

いいスタートができなかったのです。しかし、だんだん慣れてきて本調子になったのは後半になってからでした。イランはパワーとフェイントの繰り返しで日本の守備が乱れてしまった。イランはブロックが固かったし、日本のセッターは世界大会での経験がまったくなかったので、緊張気味でコンビネーション攻撃が出来ないまま、終わってしまったのです。

反省点は

試合前の練習時間（約、30分）が短く、調整不足でいいスタートが出来なかったため、次は試合前の練習時間を1時間位にしたほうが良いです。

4年後の台北デフリンピックでは選手の調整の期間を多めにしておく必要があると思われるので、最低限、着いてから、5日間位は調整したほうが良いと思いました。

1月7日（金）

午前8時に集合してホテルのロビーでミーティングを開始しました。

今日のスケジュールなどを説明。

昼食後、13時半、ホテルのロビーで試合に向けての注意と目標とポジションメンバーを発表しました。

先発メンバー

若原 梅本（兄） 信田

猪野 西村 乾 リベロ 大川

第2試合： ○日本 3－0 オーストラリア●

第1セット：○日本 25－12 オーストラリア●

第2セット：○日本 25－9 オーストラリア●

第3セット：○日本 25－9 オーストラリア●

オーストラリアチームはイランと同様に体格が大きいですが、バレーボールの技術はまだです。攻撃パターンは単純なので、守備しやすかったです。

明日からの本格的な試合にスムーズに行くため、練習のつもりで、コンビネーション攻撃とブロックとサーブで積極的に攻めました。

この調子で、明日のトルコ戦につなげればいけると思いました。

反省点

オーストラリアチームは技術が未熟なチームだったので、少し、油断したのかもしれませんが。弱い相手でもレベルに合わせないで、いつもの調子で戦う必要があると思いました。

油断は絶対いけないことです。

1月8日（土）

午前8時に集合してホテルのロビーでミーティングを開始しました。

今日のスケジュールなどを説明。



昼食後、13時半、ホテルのロビーで試合に向けて注意と目標とポジションメンバーを発表しました。

#### 先発メンバー

若原 梅本(兄) 信田

猪野 西村 乾 リベロ 大川

第3試合： ○日本 3-0 トルコ●

第1セット：○日本 25-21 トルコ●

第2セット：○日本 25-12 トルコ●

第3セット：○日本 25-18 トルコ●

試合前の練習の時、ピリピリムードになっていたもので、このままではだめだと思い、感情を抑えてリラックスするようにと選手に注意しました。

トルコチームも体格が大きく、その分、スパイクとブロックは高いです。

サーブとレシーブとスパイクの技術面は日本のほうが上ですが、油断できない相手です。

サイド攻撃は互角ですが、センターの速攻とコンビネーション攻撃で勝つことが出来ました。

#### 反省点

トルコ戦で10点以下に抑えられなかったのは痛恨で、明日のウクライナ戦で3対0で勝つしかなくなりました。

サイド攻撃とセンター攻撃(速攻とコンビネーション攻撃)をうまく利用して、勝ち逃げする必要があると思いました。

#### 1月9日(日)

午前8時に集合してホテルのロビーでミーティングを開始しました。

今日のスケジュールなどを説明。

昼食後、13時半、ホテルのロビーで試合に向けて注意と目標とポジションメンバーを発表しました。

#### 先発メンバー

若原 梅本(兄) 信田

猪野 西村 平田 リベロ 大川

第4試合： ●日本 0-3 ウクライナ○

第1セット：●日本 15-25 ウクライナ○

第2セット：●日本 15-25 ウクライナ○

第3セット：●日本 16-25 ウクライナ○

ウクライナの選手も体格が大きく、2メートルクラスの選手がいました。スパイクは日本のV1リーグの選手並みです。イランチームと同様に4年前よりも上達したように見えました。

ウクライナはパワーとスピードと正確さは参加国チームの中で一番、優れていました。

個人的な技術面は日本のほうが少し上でしたが、ウクライナはチームワークがよく、攻守とも優れていました。

日本はブロック2枚、3枚しても体格の大きい選手のスパイクは日本選手のブロックの上を越えてしまうため、苦労しました。

## 反省点

デフリンピックまでの4年間、筋力アップトレーニングしてパワーを身につけて技術の正確さを磨いて行くべきでした。また、180センチ以上の選手を集めて4年間、強化合宿を徹底的にやる必要があります。

負けましたが、気を取り直して、明日のフィンランドチームを倒して、5、6位決定戦へ進出するように頑張るしかありません。



1月10日（月）

午前8時に集合してホテルのロビーでミーティングを開始しました。

今日のスケジュールなどを説明。

昼食後、13時半からホテルのロビーで試合に向けて注意と目標とポジションメンバーを発表しました。

### 先発メンバー

若原 梅本（兄） 信田

猪野 西村 乾 リベロ 大川

第5試合： ●日本 2－3 フィンランド○

第1セット：○日本 25－21 フィンランド●

第2セット：●日本 23－25 フィンランド○

第3セット：○日本 25－18 フィンランド●

第4セット：●日本 22－25 フィンランド○

第5セット：●日本 13－15 フィンランド○

フィンランドはウクライナと同様に体格が大きく、ワンマンチームでトルコチームより少し上のよう感じました。

ウクライナ戦で負けたショックはまったくなく、スムーズにいけたのですが、フィンランドのブロックは高く、強打とフェイントの繰り返しで、守備が乱れてしまい苦しい戦いになってしまいました。フィンランドは日本のパターンをしっかりと研究したように思いました。

## 反省点

強打とフェイントに対するレシーブに慣れるように頑張らないといけないし、世界との試合の経験をもっと、積んでいく必要があります。

体格が大きいほど、守備の範囲が広く、背の低い選手は守備範囲が狭いので、届くところまで足で動く必要がある分、戻るまでの時間がロスになりやすいです。背の低い選手はもっと、筋力トレーニングを続けてスピードアップしてレシーブの範囲を広げるしかありません。また、180センチ以上の選手が10人以上いるチームをつくって4年間、筋力トレーニングと技術とチームワークを丁寧に指導する必要があります。

1月11日(火)

午前8時に集合してホテルのロビーでミーティングを開始しました。

今日のスケジュールなどを説明。

昼食後、11時半、ホテルのロビーで試合に向けて注意と目標とポジションメンバーを発表しました。

#### 先発メンバー

若原 梅本(弟) 猪野

小垣 梅本(兄) 平田 リベロ 大川

7位8位決定戦 ○日本 3-0 アメリカ●

第1セット: ○日本 25-19 アメリカ●

第2セット: ○日本 25-22 アメリカ●

第3セット: ○日本 25-22 アメリカ●

アメリカには4年前のローマデフリンピックで予選と5、6位決定戦で2戦とも負けています。しかし、4年前のメンバーは半分残っており、アメリカの選手は体格が大きいし、パワーのある選手が多かったです。

日本は主力選手が怪我したため、先発メンバーの半分は替わりました。

最後の試合なので、全員で思い切りやっつけていけ!と指示しました。

最高のプレーが目立って気持ちのいい試合運びになりました。

ワンポイントサーブとワンポイントレシーブに使う選手を積極的にメンバーチェンジしてリズムに乗っていけました。

#### 反省点

怪我のないように筋力トレーニングを毎日して怪我に強い体を作らないといけません。

#### 3. コーチ体制とその内容

スタッフは監督、コーチ、トレーナー、手話通訳者、通訳者(日本バレーボール協会役員で国際審判資格の取得者)、マネジャー兼手話通訳(3名)、アナリスト(4名)、広報部員、全員で13名とし、監督・トレーナー以外のスタッフは、任意で派遣しました。

○コーチは選手に技術などの指導。

○トレーナーは選手の健康と体力の管理と指導。

○通訳者はTD会議(代表者会議)の英語の通訳と国際のルールの確認など。

○マネジャーは手話通訳及び強化合宿の会場などの予約と、選手への料理など。

○アナリストは相手のパターンと戦略の調査など。

○広報部員は試合の結果などを日本にいる協会の会員に報告など。

#### 4. 競技運営など

試合の組み合わせが突然変更になったこと。



変更しないでそのままにしてほしかった。

## 5. 大会参加までの準備の状況

去年の1年間は毎月強化合宿を実施しました。

合宿は2、3日間が多かった。2、3日間では、選手の上達振りと性格などを見きわめにくかった。最低は5日以上合宿をすれば、選手の性格と技術を見極めることができるはずで、4年後の台北デフリンピックまでの長期合宿をする必要があります。

## 6. 反省とまとめ

長い移動時間で選手の疲れが取れない状態で試合会場での練習をするのはよくありませんでした。着いてから試合まで、3日間では短いです。最低でも5、6日以上で最高は1週間以上が必要です。

理想的なのは、着いてから2日間は練習しないで、時差ぼけと長時間の移動の疲れが取れるまで、睡眠時間と休憩と散歩などの体の調整を十分にしておいて、着いて3、4日目からは試合会場での練習（最低は3日間）をする。このように調整時間を多めにしてほしいです。

ウクライナとイランは4年前のローマデフリンピックよりも、パワーとスピードと正確さが優れていました。日本はもっと、4年間、筋力トレーニングなどを毎日して良い体作りをして技術を丁寧に指導し、金メダルの取れるチーム作りが必要です。筋力アップすれば、スピードが速く、技術も正確になりいろんな技（コンビネーション攻撃と守備）が出来るようになるでしょう。

選手が積極的に筋力トレーニングでパワーを身につけて技術の正確さを磨いていく努力が必要でした。また、180センチ以上の選手を10名以上集めて、そのチームで4年間、筋力トレーニングと技術とチームワークなどを丁寧に指導する必要があります。

地元のチームの指導者はもっと、バレーボール技術などの講習会に参加して、選手に指導しておくべきです。また全国の聴者の学校にデフリンピックとろうバレー選手が頑張っていることをPRしておく必要があります。

最後になりますが、監督として多くの経験を積むことが出来て、良い勉強になったと共に良い思い出になりました。どうもありがとうございました。

メルボルンデフリンピックに協力していただいた関係者と役員の皆さん、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

4年後の台北デフリンピックで金メダルを取れるように日本バレーボール協会強化部が中心となって頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。



## (13) 女子バレーボール

監督 都倉 里江

### 1. 選手の選考について

#### ○平成 14 年 9 月

日本ろうあバレーボール協会強化委員会で全国ろうあ者体育大会においてチームの情報を収集し、各チーム監督推薦による優秀な選手を募った。監督推薦による優秀な選手の情報収集は前イタリア大会監督川口清隆氏をはじめ、上原国昭氏（前イタリア大会総監督）、全国各チーム監督の協力をいただき、推薦選手が 38 名集まった。

#### ○平成 15 年 1 月

第 1 次選考合宿を大阪市舞州障害者スポーツセンターに於いて実施した。全国各地から 38 名の優秀な選手が集まり、基礎体力・運動能力・基礎的技術のテストを行った。同時にメルボルン大会監督の就任発表も行った。監督には全国総合体育大会優勝、国民体育大会優勝、全国高校選抜で日本代表として中国遠征の経験をもっておられる都倉里江氏（兵庫県ろう者女子バレーボールチーム監督・兵庫県立姫路聾学校高等部教諭）に依頼し、引き受けていただいた。



監督就任発表を早々に行ったのは、選手一人ひとりを見て、どんなチームを作っていくか、日本代表としてどんな特徴のあるチームが作れるか、という将来的なビジョンを頭の中で描きながら選手を選考していくためであった。これは選手と監督との意志疎通や目指すべきバレーをしっかりと選手に伝えるには適切な手段であったと思う。

#### ○平成 15 年 5 月

第 2 次選考合宿を千葉県市原市内の小学校体育館に於いて実施した。第 2 次選考合宿ではゲームを通して一人ひとりのポジションの適性を確かめることを重点に置いた。選考の結果、推薦選手 38 名のうち、16 名を落として 22 名に絞った。

#### ○平成 15 年 8 月

第 3 次選考合宿を大阪市舞州障害者スポーツセンターに於いて実施した。第 2 次選考合宿で浮き彫りになった「日本代表としての自覚の欠如」が大きな課題であった。早い時期に日本代表として世界と競うというモチベーションを高め、更に練習に励んでもらうことを目的に、前大会金メダリストをお招きして「世界」と戦うためには何が必要なのか？を講演していただいた。と同時に、金メダリスト対候補選手との試合も行った。第 3 次選考合宿を終えた時点で 18 名の選手に絞り込んだ。

○平成 15 年 11 月

最終選考合宿を千葉県の日本文学センターに於いて実施した。監督指揮のもと、ポジション別に基礎練習・実践練習を行った。レシーブ、スパイク、ブロック、サーブを一通り確認の上、各選手のポジションの適性、応用性、潜在能力などを見るためにゲームを行った。今回、召集した候補選手をポジション別に見ると、レフトスパイカーが多く、不足しているセンター、ライトへのコンバートが可能かどうかを選考のポイントとした。最終選考の結果、候補選手 15 名を選んだ。

## 2. 成績と評価

### ▼予選リーグ第1日目【2005年1月6日(木)】

試合結果： ○日 本 対 ウズベキスタン● 不戦勝

第1セット：日本 25-0 ウズベキスタン

第2セット：日本 25-0 ウズベキスタン

第3セット：日本 25-0 ウズベキスタン

いよいよ今日から試合が始まった。最初の対戦相手はウズベキスタンであった。ウズベキスタンの国事情に多少の情報は入っていたが、会場に着くなり対戦相手のウズベキスタンが不参加と分かった。これで参加国が5カ国になってしまった。事実上明日のイタリア戦が初戦となった。まずはリラックスしていつもどおり日本らしい捨て繋ぐバレーを展開できるように、また、今日の試合がなくなったことで気持ちが途切れてしまわないようモチベーションを高め、いい雰囲気で行って行くよう話した。

### ▼予選リーグ2日目【2005年1月7日(金)】

試合結果： ○日 本 対 イタリア●

第1セット：日本 25-22 イタリア

第2セット：日本 25-4 イタリア

第3セット：日本 25-10 イタリア

今日は日本にとって事実上の初戦であった。試合前日、ウクライナ対イタリア戦をビデオでチーム分析をし、ミーティングでも十分な話し合いを行った。そこで個々のウィークポイントを再確認した。しかし、予想通り1セット目はかなり緊張して動きも硬かった。何度か守りに入ってしまった場面もみられたが、途中から本来の攻めるサーブを打てるようになり、エースの山崎、鈴木を中心に速いコンビバレーを展開することができた。2、3セットはそのままの勢いに乗ってイタリアを圧倒し、終盤にはメンバーチェンジで入った安積のサーブエース、岡崎、西田友のスパイクも決まり、3-0のストレートで勝利することができた。

初戦を終え、やはりスタートの大切さとサーブで更に攻めて相手を崩していく事が課題であると感じた。

### ▼予選リーグ3日目【2005年1月8日(土)】

試合結果： ○日 本 対 ロシア●

第1セット：日本 25-11 ロシア

第2セット：日本 25-14 ロシア

第3セット：日本 30-28 ロシア

3戦目は“ロシア”。戦力レベルとしては、イタリアとさほど変わらない。しかし、イタリアに比べると高さがあるので、背の低い日本の戦術法はサーブで崩し、レシーブで繋いで速いバレーを展開することであった。イタリア戦は緊張して動きの硬かった選手もこの日はスタートからリードを許さず、日本のムードで1、2セットをものにすることができた。けれど、世界の壁は予想していた以上に高く、3セット目の中盤以降ロシアのブロックにつかまり、セットカウント時には30-28になっていた。辛うじてストレートでロシアに勝ったが、試合内容を振り返ると予想外に苦しい試合であった。

翌日に対戦するチームはこの日、アメリカを倒したウクライナ。夜のミーティングで「ロシアチームよりもブロックが高く、攻撃にも高さやパワーがあるので苦戦を強いられると思うが、とにかく気持ちで守りに入らないよう最後まで粘り続け、全員一丸で攻めていきたい」と話をし、みんなで気持ちを引き締めた。

#### ▼予選リーグ4日目【2005年1月9日(日)】

試合結果： ●日本 対 ウクライナ○

第1セット：日本 25-20 ウクライナ

第2セット：日本 20-25 ウクライナ

第3セット：日本 19-25 ウクライナ

第4セット：日本 19-25 ウクライナ

自分たちの今後を見通せる大事な1戦だった。試合前日までビデオでウクライナの試合をとったビデオテープを何回も繰り返して試合戦法を分析する傍ら、試合会場にもビデオカメラを持ち込み、ウクライナの戦術データ収集に努めた。ウクライナのセンターからの攻撃パターンはほぼデータ収集できた。そのセンターからの攻撃に、自分たちがどう戦えばいいのか、どこを狙えばいいのかは選手たちに何回も説明し、お互いに確認をしてみたので、監督としてはウクライナの攻撃に対抗する日本側の戦術が試合で発揮できれば絶対大丈夫という自信があった。選手たちにウクライナは背があるが、私たち日本はレシーブで負けるものは絶対にない！と自信を持たせ、コートに送り出した。

課題の一つでもあった試合の滑り出しは山崎、鈴木の強烈なスパイクがテンポよく決まり、サーブも指示通りに狙うことができ、そこから相手のミスを誘い、点が開いていった。出だしの1セット目は自分たちの本来のサーブで相手のレシーブを乱し、エースで勝負できたすばらしい内容だった。ウクライナも徐々にセンター攻撃で果敢に攻めるが、日本が先行したままで1セット先取し、幸先良いスタートを切る。だが第2セットに入ると第1セットの勢いが嘘のように、ウクライナに圧されていった。ウクライナはセンター攻撃中心だった攻撃パターンに両サイドからの攻撃も加わり、角度のある攻撃を防げない。日本はサーブ、サーブレシーブの乱れも出始めてきた。ここで試合の流れを変えたかったが、肝心なところでサーブやサーブレシーブのミスが多くなり、さらに高いブロックに阻まれて流れをなかなか変えられないまま試合が終わってしまった。

選手たちに「試合相手は全く歯が立たないという訳ではない、私たちのレシーブは絶対にどこの国にも負けない！と感ずることができたので、また明日から気持ちを切り替えて頑張

っていこう！」と話して今日1日を終えた。

#### ▼予選リーグ最終日【2005年1月10日(月)】

試合結果： ○日本 対 アメリカ●

第1セット：日本 25-19 アメリカ

第2セット：日本 17-25 アメリカ

第3セット：日本 25-13 アメリカ

第4セット：日本 25-19 アメリカ

予選リーグ最終日はアメリカ戦。日本は予選リーグアメリカ戦で西田（節）とのクロスプレーで右肘を痛めた山崎をベンチに下げ、平尾をレフトに、ライトは初スタメンの岡崎でスタートした。選手たちには「今日はとにかく楽しんでやろう！昨日まではサーブが弱気だったので今日はミスしてもいいから強気で打っていけ！」と指示した。その結果、これまでの試合よりもサーブポイントが11本と多くとることができ、その攻める気持ちが他のプレーにも良い影響



を与え、好プレーがたくさん出るようになった。しかし、1つのミスで急にムードが悪くなり、相手の勢いに押されてしまい、なかなかその流れを止められない場面がでた。特に2セット目はアメリカの高いブロックに阻まれてなかなかスパイクが決まらなかった。アメリカの両サイドからの強打、クイックやフェイントに翻弄され、アメリカにセットを奪われた。アメリカ戦を振り返って感じたことは、ミスした時でもいかにして自分達の雰囲気上げていくかが日本チームの課題である。逆に波に乗ったら誰にも止められないぐらいの強さもっている。だから、選手たちに「明日からの決勝トーナメントはスタートから日本のパワーを爆発させて勢いにのってやっっていこう！」と発破を掛けた。

#### ▼決勝トーナメント戦 準決勝 【2005年1月11日(火)】

試合結果：○日本 対 アメリカ●

第1セット：日本 25-18 アメリカ

第2セット：日本 19-25 アメリカ

第3セット：日本 25-21 アメリカ

第4セット：日本 25-18 アメリカ

いよいよ決勝トーナメントが始まった。この日は37度に達する暑さであった。準決勝戦は予選リーグ2位：日本は予選リーグ3位：アメリカと、予選リーグ1位：ウクライナは予選リーグ4位：イタリアとそれぞれ対戦することが決まっていた。この日は1日前に対戦したばかりのアメリカと試合することになっていた。昨日対戦したばかりのアメリカと2日続けての試合になった。アメリカには簡単に勝たせてもらえないだろうと思っていたので、試合終了のホイッスルを聞くまでは安心できなかった。

予想通り、昨日までのアメリカとは雰囲気が変わっていた。勝負に対する気迫がこちらに伝わってきた。1セット目から互角の攻防を展開し11-13まで競り合う。その時点でアメリカの選手が目元から血を流すケガをし、コートにも血が付いたため試合を一時中断。きれいに拭き取り、消毒作業、ケガの手当等で長時間試合が中断した。その後2分間のウォーミングアップをし、プレー再開。選手は「他の選手をなぜ出さない！」とイライラしていた。でも、この中断時間が圧され気味だった日本にとってはラッキーな時間となり、その後の試合の流れが大きく変わった。

選手の疲労も大会中盤にきて、段々とピークに近づいてきており、けが人も増えチームとしては苦しい状況におかれたが、それ以上に選手・スタッフの「絶対にファイナルでもう一度ウクライナと戦いたい！」という気持ちが強かったので、この日は特にチーム一丸となった戦いだった。

残るはあと1戦、決勝戦。この日のために選手たちは何度も悔し涙を流し、厳しい練習にも耐えてきたのだから、どんなボールにも必死で食らいついてやって欲しい。高さではウクライナにはかなわないが、日本はそれ以上のレシーブ力と執念で今度こそ勝って喜びの涙を流したい。たくさんの応援して下さっている方々の気持ちをプレッシャーではなく、自分たちの力にかえて明日の決勝戦は全力で戦いたいと心に誓った。

#### ▼決勝トーナメント戦 決 勝 【2005年1月13日(木)】

試合結果：●日本 対 ウクライナ○

第1セット：日本 19-25 ウクライナ

第2セット：日本 10-25 ウクライナ

第3セット：日本 20-25 ウクライナ

ずっとこの2年間憧れ続け、この日の為に努力してきた夢の決勝戦。今までプレーしていた試合会場もメインコートに変わり、雰囲気も今までとは全く違っていった。

選手たちには緊張せずいつも通りの力を発揮し、悔いのない試合をして欲しかったが、大舞台の見えない魔物に捕まり、最初から最後まで一度もリードすることなく、何も力が出せないまま終わってしまったのが何よりも本当に悔しい。もっと伸び伸びと思いきりプレーして欲しかったが、世界の壁を打ち破ることができなかった。敗因はやはり高さに対抗する日本の守備面での甘さが試合中にでてしまったことだと認めざるを得ない。この大会の反省をもとにこれからの日本に課せられるものは守備面のさらなる強化、コンビネーションパターンの増加、精神的資質の向上、リーダーの育成と考える。

### 3. コーチ体制とその内容

スタッフの決定に於いては、まず下記の条件にあてはまる方をお願いした。

- ① バレーにおける専門的知識を身につけており、経験も豊富であること
- ② 自己負担で行けること
- ③ 長期休暇が得られること
- ④ 職場の協力が得られること
- ⑤ 関東、関西に偏りのないこと

以上のことを考慮しながら協力を依頼し、承諾していただいた。各々が自己の役割を認識し、合宿中に限らず、現地でも常に連絡や相談、試合の反省、作戦会議を密に行っていたので、指導体制としてはスムーズに行えた。

また、補欠選手の3人もエントリー締切直前までチームの一員として努力を続けてきたこと、チーム内においてもメンタル面で支えてきてくれたことを高く評価し、チームスタッフとして同行した。現地では選手が試合に集中できるよう、様々な場面で気遣いをしてくれて、寝不足になりながらも本当によく動いてくれた。

役割分担は以下の通りである。

【 メルボルン同行スタッフ 】

- 監督 都倉里江(兵庫) …チーム指揮、強化
- コーチ 山田茂(大阪) …チーム、選手の強化  
トレーニングの計画・実施
- トレーナー 澤和信二(千葉) …選手の怪我や体調の管理  
テーピングの実施
- マネージャー 栄智美(大阪) …チーム全体の運営事務
- 通訳 阪本友輝(大阪) …健聴者との手話通訳
- スコアラ 前田まゆみ(兵庫) …チーム分析
- A・トレーナー 沼澤真里(千葉) …選手の怪我や体調の管理  
メンタルケア
- 広報 八木康吉(兵庫) …広報活動、記録
- 広報 青木洋佳(東京) …広報活動、記録

【 国内スタッフ 】

- 庶務・会計 伊東みずき(大阪) …合宿毎の会計、清算
- アシスタントコーチ 檀上直樹(大阪) …チーム、選手の強化
- アシスタントコーチ 荒井隆太(東京) …チーム、選手の強化
- アシスタントコーチ 物井明子(神奈川) …チーム、選手の強化

また、スタッフ以外にも多くのボランティアの方々の協力をいただきながら無事に大会を終えることができた。

#### 4. 競技運営など

私にとっては初めてのデフリンピックであり、日本を発つ前から前イタリア大会監督からも様々な情報をいただき、アドバイスしてもらっていたが、現地で戸惑うことが度々あった。4年後この様なことがないよう、引き継ぎ・確認事項として把握し、日本選手団としても再度検討していただきたい。

#### 【 申し送り事項 】

① TD会議にて

a) エントリー国の参加確認漏れ

TD会議に参加したが、各国の参加確認がないまま行われた。参加確認が行われていれ

ば、その時点でウズベキスタンの不参加が確認できたのではないか。

b) エントリー確認

「エントリーの最終チェックをして欲しい」と言われ確認をしたらスタッフの名前が3名しかなかった。後日TD（アレックス氏）に直接交渉し、4名にさせていただいたが、やはり日本からのエントリーを受け取った時点で事前に問題があるのなら直ちに連絡して欲しかった。現地に行ってから言われるのはおかしい。

c) 組み合わせについて

ブラジルが棄権した段階で、どうしてそこにイタリアが入ってきたのか？ 同じ南米の国が入るべきではないか？

現地に来てから男女共組み合わせが大きく変わったこと。

② ユニフォームについて

TD会議では全く話にも出ていなかったのに、試合が始まってからレフリーにユニフォームについて細かく注意された。他国はユニフォームのデザインが違う国もあった。日本が注意された点は次の通りである。

a) 靴下の長さを揃える。

b) 長袖か半袖かを統一する。長袖を切って半袖に統一するように言われた。

c) ゲームパンツにも番号を入れる。入れない場合は試合ごとに50ドル罰金。

③ ラインズマンについて

ラインズマンのジャッジミスが目立つ。見ていないことが多い。デフリンピックは国際大会に準ずるので、ラインズマンも公認審判員を配置するべきである。

④ 試合会場整理券

決勝戦のみに必要になった「黄色いバンド」の情報にいくつかの食い違いがあり、混乱した。

⑤ スリーボールシステム

TD会議では決勝戦はスリーボールシステムと聞いていたのに、実際はワンボールシステムで行われた。

⑥ メディアIDについて

女子バレー取材は関西テレビが支援、協力してくれた。が、関西テレビのID取得費用に30万円近くかかった。デフリンピックの知名度を上げ、支援していきたいと協力していただけた放送会社がID取得に30万円という金額を支払ったという話を聞いてたいへん驚いている。私たちは世間にもっとデフリンピックのことを知って欲しいし、広めて欲しいという願いを抱いている。そのためにはマスコミの力も欠かせないし必要である。デフリンピックの知名度を全面的に上げるべきならもっとメディアに協力・宣伝してもらえよう力を入れる必要があるのではないか。

⑦ 日本選手団の監督会議について

毎晩のように行われた監督会議は必要性を感じない。

- ・その場で他競技の予定や試合結果、選手の様子を各競技監督が知る必要があるのか？
  - ・その時間を選手とのミーティングや作戦会議に使った方が有効ではないか？
- 今後、検討していただきたいのは監督会議の持ち方や情報提供・連絡手段である。

こちらとしては

- a) 競技が終わる→ホテルに帰着する→監督またはチーム連絡担当者が事務局へその日の試合等を報告する→次の日の予定、試合スケジュール（バスも含めて）を確認する。
- b) その他の事務連絡は掲示板を利用して連絡すれば時間も有効に使えるし、紙などの資源の無駄にならない。

### ⑧ ドクターについて

足の裏の皮の治療をした後、そのままの手で次の人の治療にあたるのは不衛生である。何よりも衛生面に気をつけていただきたい。

## 5. 大会参加までの準備状況

平成 16 年 1 月から月に 1 回の割合で強化合宿を実施した。

### ○平成 16 年 1 月 第 1 回強化合宿

【場 所：兵庫県立総合リハビリテーションセンター】

- ① 3月のデフカップ・エキシビジョンマッチに向けてのチーム作りをする
- ② セッターとのコンビネーションを中心に、自分達の攻撃がしっかりと組み立てられるようにする

2つの目標を掲げ、第1回目の強化合宿を実施した。まだお互いに慣れていないということもあり、選手同士のコミュニケーションもままならないので、チームとしてまずコミュニケーションを取ることを大切にしながらコンビネーションを組み立てていった。

### ○平成 16 年 2 月 第 2 回強化合宿

【場 所：貝塚ナショナルトレーニングセンター（大阪府）】

いよいよ目前に迫った3月のデフカップ・エキシビジョンマッチに向けてのチーム作りを中心に合宿を行った。まだチームを結成してから2回しか合宿を実施していないので、特に「サービスエースを取られない徹底したレシーブ力」という目標を掲げ、レシーブに絞って強化練習を行った。また、第1回目と同様ポジション別にわかれ、コンビネーションにも力を入れた。

### ○平成 16 年 3 月 デフカップ・エキシビジョンマッチ（対 大阪体育大学）

今回のエキシビジョンマッチは全日本女子チームにとっては初めての公式戦であり、今の自分たちの力がどれくらいなのか、今回のチーム目標の1つでもある「どれだけ拾って繋ぐ粘り強いバレーが展開できるか」を試すという意味でも良い機会であった。スーパーエース山崎望選手を欠いての苦しい試合だった。相手の速いコンピバレーに全くついていけず、自分たちのバレーを何もさせてもらえないままあっという間に試合が終わってしまったという感じだった。だが選手、スタッフ共、自分たちの甘さ、力不足、練習不足を痛感し、今後の限られた時間を充実したものにするためにも、どんな姿勢で

何を中心に取り組んでいかなければならないかを考える良い機会となった。

試合結果は以下の通りである。

第1セット	全日本	2	－	25	大阪体育大学
第2セット	全日本	8	－	25	大阪体育大学

#### ○平成 16 年 4・5 月 第3回強化合宿

【場 所：京都市野外活動施設 花脊山の家】

前回の合宿以後、セッターの青木久美子選手が病気を患い、辞退することになった。そこで、新たに兵庫県立姫路聾学校中学部 1 年生安積梨絵選手を候補選手として追加登録した。安積選手は中学 1 年という若さでありながらレシーブにおいては抜群のセンスと、ボールに対する反応の良さや身のこなしを体得しており、日本チームとしてレシーブ力強化のためにも大いに活躍が期待出来る選手である。

エキシビジョンマッチでの悔しさをバネに、練習にも一段と力が入った。

#### ○平成 16 年 6 月 第4回強化合宿

【場 所：三菱電機静岡体育館（静岡県）】

第 4 回強化合宿は静岡県バレーボール協会 朝比奈整氏の多大なる協力のもと、静岡県選抜ろう者女子バレーボールチーム、清水商業高等学校に練習試合の相手をしていただいた。相手の速いバレーになかなかついていけず苦戦したが、1 つひとつ自分達のコンビネーションを確認し、組み立てながらゲームを重ねていった。また、相手に速い攻撃をさせないためにも、サーブの強化が更に必要であると感じた。

#### ○平成 16 年 7 月 第5回強化合宿

【場 所：ホテル東天光アリーナ（千葉県）】

柏市立柏高等学校に協力をいただき、練習試合を行った。デフリンピック本番は 1 月。その時期、日本は冬だがメルボルンは夏なので、今、この時期の暑さの中でもバテない体力を身につける必要があった。日中の練習以外にも、朝のランニングなどを取り入れ、体力強化にも力を入れた。また、夜には和洋女子大学の湊久美子先生をお招きしスポーツ選手としての栄養管理、食事などについて講演していただいた。ここで改めて練習以外の生活すべてにおいても自己管理の大切さを知るよいきっかけとなった。

#### ○平成 16 年 8 月 第6回強化合宿

【場 所：山陽ふれあい公園総合体育館（岡山県）】

Vリーグのシーガルの皆様に協力していただき4日間の合宿を行った。ゲームに限らず、レシーブ時の膝の動かし方、体重移動、背の低い選手でも出来るブロックの跳び方等、細かな指導をしていただいた。初日のゲームでは手も足も出なかった我がチームも、最終日には早い速攻にも序々にではあったが反応し、ボールも上がるようになり、チームの課題でもあったセンターのブロック移動も少しずつついていけるようになってきた。新たに、自分達が上げたボールをいかにして攻撃に繋げていくかが大きな課題になってきた。また、この合宿では大阪国際滝井高等学校、和歌山県開智高等学校、福井県立福井商業高等学校、徳島県立富岡東高等学校にも練習試合の相手をしていただいた。

## ○平成 16 年 10 月 第 7 回強化合宿

【場 所：貝塚ナショナルトレーニングセンター（大阪府）】

残る合宿もあと 3 回となり、チームの中で細かくコミュニケーションを取り、1 つひとつ確認し合いながらコンビネーションを中心に練習を行った。また、前大会金メダリストのメンバーに集まっていた頂き、ゲームを重ねた。試合の勝ち負けよりも、勝ち方、負け方にこだわり、絶対にしてはならないミスは決して許さず、夜間練習も行い時間をかけて徹底的に反復練習を行った。バレーボールは試合の流れが速いスポーツであり、たった 1 本のミスでも試合の流れを大きく変えてしまう。だからこそ 1 つひとつのプレーの大切さを選手達は体と心で感じてくれたであろう。

## ○平成 16 年 11 月 第 8 回強化合宿

【場 所：大阪市舞州障害者スポーツセンター】

合宿もいよいよ終盤に入り、スーパーエースの山崎望選手がやっと全日程参加できた。今まで健聴者の中でしかバレーをしたことがなかった山崎選手は、最終選考会で初めてろう者のバレーを体験して以来の全日程参加なので、なによりもコミュニケーションの壁にぶつかるのではないかと心配した。が、選手の中で今までのブランクを少しでも埋めようと意欲的に山崎選手とコミュニケーションを取ろうとする選手も現れた。山崎選手一人に頼り過ぎると必ずマークが厳しくなると予想されるので、山崎選手以外の選手の決定力と相手ブロックをどれだけ引き付けられるか、センター陣の動きが重要になってくる。

今回の合宿では大阪の中でも速攻を中心とする強豪のクラブチームに練習試合をお願いした。

また、7 月の合宿で講演していただいた湊先生がメルボルンまで下見に行ってくださったので、夜のミーティングの時間を利用して現地報告をしていただいた。現地での食事をどのように取ればよいか、体調管理など、現地報告も兼ねて詳しくアドバイスを頂いた。懇切丁寧に指導して下さる湊先生には心から感謝の気持ちでいっぱいになった。

## ○平成 16 年 12 月 最終強化合宿

【場 所：貝塚ナショナルトレーニングセンター（大阪府）】

この 1 年間いつも言い続けてきた代表としての「意識の低さ」「メンタル面の弱さ」がこのチームにとっての一番の大きな課題であったが、いよいよ大会を目前に控えた最終合宿、選手達の顔つき、気迫が変わってきた。今回の合宿は、春のエキシビジョンマッチでボロボロに負けてしまった大阪体育大学に再度練習試合をお願いした。あの日、自



分たちのバレーが何も出来ないまま終わってしまった悔しさを胸に、「このままでは世界どころか、国内でもどこにも勝てない！」とこの1年間近く練習を重ねてきた。全く手も足も出なかったあの日とは違い、どんなボールも必死になって食らいつく選手達の姿を見て、やっと日本代表が目指す「捨って繋ぐ粘り強いバレー」が仕上がりつつあることを実感した。終わってみれば1セットを勝ち取り、負けたセットでも、どれも20点を越える接戦であった。この日は他にも大阪府立南寝屋川高等学校、和歌山商業高等学校にも相手をしていただいた。

## 6. 反省・まとめ

この大会は聴覚障害者のオリンピックとして4年に1度開催され、今回は世界81カ国、約3,500名の選手・役員が参加し、12日間にわたって全16競技が実施された。

日本選手団は役員も含め135名の大所帯で渡豪し、【個人競技】陸上、水泳、卓球、テニス、バドミントン、ボウリング、オリエンテーリング【団体競技】バスケットボール、バレーボール、サッカーの全16競技に参加した。

バレーボール競技の参加国は、当初12カ国と言われていたが、出発直前で8カ国という情報が入り、実際現地に行ってから6カ国に減り、組み合わせも大幅に変更された。しかもウズベキスタンが不参加という波乱の幕開けとなった。各国総当たりで予選が行われ、上位4チームで決勝トーナメントが行われた。

試合会場は「メルボルン・スポーツ・アクアティック・センター (MSAC)」で行われた。同会場でバスケットボールやレスリング、バドミントン、卓球、水泳等様々な競技が行われた。予選、準決勝が行われたバスケットホールは空調設備もなく昼間は30℃を超えていた。メルボルンの夏は日本のような湿気はないが朝晩は冷え込み、昼間は35℃を超えた日もあった。幸い、日本の試合は午前中の涼しい間に行われ、暑さで困るようなことはなかった。

予選の初日がウズベキスタンの不戦勝ということもあり、1日でも早く実際に試合をやって、自分たちがこの地でどんなバレーが出来るのかを待ちわびてのイタリア戦であった。参加国全部と試合ができることはある意味、喜びでもあった。どの試合も楽に余裕を持って勝てたとは言い難い。試合を重ねる度に選手の疲労も溜まり痛みが出て怪我をする選手も増えた。レギュラーのほとんどが故障と闘いながらの苦しい試合であった。スターティングメンバーの6人だけでなく、控えの選手も全員それぞれの試合でコートに出て活躍し、チームを助けてくれた。

特にアメリカは前大会銀メダル選手が多数残っており、ウクライナも高さだけでなく、セッターとしての技術もアップし、サーブにもスピードがあった。技術を更に磨いてきているように感じた。予選はウクライナに敗れたものの、他の試合は全て勝ち、4勝1敗で2位通過となり、決勝トーナメント進出を果たした。

準決勝でのアメリカ戦、いくら昨日勝った相手とはいえ、「メダルを賭けた1戦」ということでもあったので、選手も相当のプレッシャーと戦い、苦しかったのだろう。勝った瞬間、ほとんどの選手が涙を流して喜んでいて。私自身も「何が何でも決勝戦までは絶対に行きたい！行ってやる！！」と思いつけてきただけに、本当に心から嬉しかった。だがすぐに、最後の一番大切な試合が思い浮かび、試合後更に気持ちがピーンと引き締まる思いがした。

そして迎えた決勝戦。「ここは本当にオーストラリアなんだろうか？」と思うほどたくさんの方々が応援に駆けつけてくださった。監督席から選手越しに見える日本選手団の応援がどれほど心強かったことだろう。だが、選手は相当緊張していた。最初から表情も動きも昨日までとは全



く違っていた。エース山崎のスパイクも高さのあるウクライナのブロックに阻まれてしまう。日本持ち前の明るさや粘り強いレシーブも見られないまま最後までウクライナのペースで試合が流れていった。コートサイドから見ていることしかできないもどかしさを感じながら、たった3セットなのに私にとってはとても長い時間のように感じられた。「このまま終わってしまっているのか？最後に意地を見せてやれ！」タイムを取る度にベンチに戻ってきて、なんとか気持ちを切り替えようとする選手を見ているとこの2年間の合宿が色々思い浮かんだ。私は監督として常に怒ってばかりいた。「気持ちが弱い！本当に勝ちたいのか？日本代表としての自覚はあるのか？」自分のバレー人生の経験から、ここ1番で追いつめられたとき、最後に勝敗を決めるのは技術ではなく精神面だと確信していた。だから、合宿の中で徹底的に選手を追い詰めた。この12名の選手達は私からだけでなく、他のスタッフ、前大会金メダルメンバーたちからもいつも怒られてばかりだった。それでも諦めず、挫けず今日まで頑張ってきた。正直言って気持ちの表現が下手な選手も多い。「勝ちたい！」と思ってもそれが上手く行動に表せない。悔しくても言い返すことができない。自信を持ってプレーできない。真面目でバカがつくぐらい正直。もっとするバレーができれば楽なのに…。といつも思っていた。だが、そんな選手たちが決勝戦に来ることができた。何とも言えない熱い思いが胸の中を駆けめぐっていた。とにかく悔いのない試合をさせてやりたい！それだけだった。

試合が終わり、日本は完敗だった。選手は悔しさでみんな泣いていたが、その後の笑顔を見ると、前大会金メダルということで注目され続けた、「二連覇」というプレッシャーから解放されホッとしているようにも感じた。「私たちはやれるだけのことはやってきた！」という自信も感じられた。

今回集まったメンバーはスーパーエース山崎が現役の大学生ということもあり強化合宿にもほとんど参加できなかった。健聴者同士のバレーに慣れている山崎が国内合宿にほとんど参加出

来ない状況でチームに溶け込めるのか…相当心配したが、選手達は自然に山崎を受け入れ、終わってみれば明るいチームのマスコットの存在になっていた。また、チーム内最年少13歳の安積は未成年で海外も初めての経験だった。何かあったら…という心配もあったが、両親が現地まで同行してくださり、特に大きな心配をすることもなく無事終えることができた。お父さんが日本の応援団長をかってでて下さり、誰よりも熱心に日本チームを盛り上げてくださった。

そして、今回のメンバーのもう1つの特徴は「若さ」だった。平均年齢23歳、半分以上がデフリンピック初参加であった。私自身監督としてもう1つ考えていたことは、「一度きりのチームではなく、4年後、8年後にも“強いJAPAN”の歴史を続けていけるよう、若い選手も育てながらチームを強化していきたい」と考えていた。上は32歳、下は13歳ということでチーム内のコミュニケーションは大丈夫だろうか？と心配していたが、そこは上の者が上手にまとめてくれた。

監督の依頼を受けてから2年間。こんな若い者が、このような大役をさせてもらっているのだろうか？と思う時も度々あったが、とにかく前を向いてやるしかなかった。自分の信じるバレーを伝え続け、見たこともない世界の相手を想像しながら無我夢中でやってきた。背の低い日本が世界を相手に戦うには粘り強いレシーブしかない！そして大切なのはハートだ。絶対に勝ちたい！上手になりたい！と思うから人は努力する。奇跡なんてない！自分の努力しかない！努力は絶対に裏切らない！そう信じてやってきた。そんな私の気持ちを選手は理解してくれ、スタッフも多大なる協力をしてくれたお陰で今日の日が迎えられたのだと心から感謝しています。

また、日本からたくさんの方々に応援や励ましの言葉をいただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして心からお礼申し上げます。

## 4. 資料

### (1) デフリンピック Q&A 集

(デフリンピック派遣委員会事務局編集：2004年11月15日現在)

#### ①デフリンピックとはどんな大会ですか？

デフリンピックは、「パラリンピック」より古い歴史をもち、それに出場することはろうの選手の最大の誇りであり、一般ろう者が選手の活躍を期待し、大きな感動を受ける国際競技会です。また、パラリンピックと異なり、障害当事者であるろう者自身が運営するろう者のための国際的なイベントであり、参加者が国際手話によるコミュニケーションで親睦を深められるところに大きな特徴があります。

#### ●過去の大会の開催年・場所を教えてください。

歴史はパラリンピックよりも古く、夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催されています。

(参考：パラリンピックの夏季大会は1960年、冬季大会は1976年に初開催)

第19回夏季大会は2001年イタリア・ローマで開催され、15競技に4,000名が集いました。

第15回冬季大会は2003年スウェーデン・スツバルで開催され、5競技に253名が集いました。

資料「夏季デフリンピック・冬季デフリンピック開催地一覧」をご参照ください。

#### ●今後の開催予定を教えてください。

第20回夏季大会は2005年1月5日から1月16日までオーストラリア・メルボルンで開催され、16競技が予定されています。

第16回冬季大会は2007年2月1日から11日まで(予定)米国・パークシティで、第21回夏季大会は2009年9月5日から15日まで(予定)台湾・台北での開催が決定しています。

#### ②CISSとはどんな団体ですか？

国際ろう者スポーツ委員会と言い、1924年の設立以来、デフリンピックやろう者世界選手権大会の開催、そして各国でのろう者スポーツの振興など、着実な取組みを続けており、国際オリンピック委員会(IOC)から認知されています。現在の加盟国は83カ国です。

#### ③デフリンピックに含まれていない競技は行なわれていますか？

まず、デフリンピックの正式種目にするかどうかは、その競技人口などによってCISS評議員会で決定されます。また、デフリンピックとは別に、CISS公認の国際選手権大会が世界各地で開催されています。国際選手権大会は、一つの競技だけを行う国際選手権大会です。デフリンピックの種目だけでなく、様々な競技の大会が行われています。

最近(今年度)の国際選手権大会では、ロシアでの国際ろう者武道選手権大会や、スウェーデンでの世界ろう者ゴルフ選手権大会が開催されています。当連盟のホームページでも発表しております。ゴルフや武道などはデフリンピックの正式種目として認められていませんが、いずれはデフリンピックの種目に入れたいと目的を持って競技人口を増やすべくがんばっているようです。

#### ④パラリンピックになぜろうの選手が出場していないのですか？

国際パラリンピック委員会が1989年に発足した当時、CISSも一緒に取り組むことが確認されましたが、国際パラリンピック委員会がデフリンピックの独創性について理解を深めなかったため、1995年に脱退せざるを得ませんでした。

以上の経過により、パラリンピックにろう者の出場がない状況が続いています。なお、デフリン

ピックの独創性とは、コミュニケーション全てが国際手話によって行なわれ、競技はオリンピックと同じルールで運営される点にあります。また、パラリンピックがリハビリ重視の考えで始まったのに対し、デフリンピックはろう者仲間での記録重視の考えで始まっていることもあります。

## ⑤第20回デフリンピックについて教えてください。

**開催期間：**2005年1月5日から1月16日まで

**開催場所：**オーストラリア・メルボルン市内及び近郊

**主催：**国際ろう者スポーツ委員会 (CISS)

**主管：**オーストラリアろう者スポーツ連盟 (Deaf Sports Australia)

**参加国数 (予定)：**81カ国以上 (第19回デフリンピック実績)

**参加人数 (予定)：**4000名以上 (第19回デフリンピック実績)

**全競技種目：**陸上、水泳、卓球、テニス、射撃、バドミントン、ボウリング、オリエンテーリング、自転車、レスリング、バスケットボール、バレーボール、ビーチバレー、ハンドボール、サッカー、水球。

**競技日程：**「P.10：派遣日程・競技日程」をご参照ください。

### ●デフリンピックに出場するには予選はありますか？

団体競技は各ブロックで出場枠が設けられており、この出場枠を超えたエントリーがあった場合は、ブロックでの予選があります。今回は、サッカー競技が2004年5月にマレーシアでアジア太平洋地区予選会を行ない、日本チームは5戦を3勝1敗1引き分けの成績で、デフリンピックへの出場権を獲得しました。バレーボールとバスケットボールはアジア太平洋地区からのエントリー数が少なかったため、予選なしで本選への出場となっています。バレーボールは女子チームが第19回デフリンピックで優勝しているなど、アジア太平洋地域のレベル向上に貢献しています。

個人競技についてはブロック予選はありません。

### ●デフリンピックへの参加資格について教えてください。

補聴器をはずした裸耳状態での聴力損失が55デシベルを超えている者で、各国のろうスポーツ協会に登録している者が参加資格を有します。また競技中に補聴器を装用することは禁止されています。これは身体の安全を確保する観点によるものです。

### ●デフリンピックに公式マークやマスコットはありますか？

公式マークは「オリンピック」の手話の形をあしらって、赤・緑・黄色・青の4色でデザインされています。マークは添付の「デフリンピック紹介チラシ」をご参照ください。

公式マスコットは手をかたどったVicとMelです。名前は開催州のヴィクトリア州 (Victoria) と開催都市のメルボルン (Melbourne) から名付けられました。



## ⑥第20回デフリンピック日本代表選手団について教えてください。

### ●どの競技に何名派遣されますか？

16競技のうち、10競技（陸上、水泳、卓球、テニス、バドミントン、ボウリング、オリエンテーリング、バスケットボール、バレーボール、サッカー）に計102名を派遣します。

「P.5：日本選手団」

「P.12～15：日本選手団名簿」をご参照下さい。

### ●選手の派遣期間を教えてください。

2005年1月2日(日)～17日(月)です。ただし、サッカーのみ2004年12月31日(金)～2005年1月17日(月)です。

### ●今回のメダル獲得目標数について（大竹総監督/日本ろう者スポーツ協会事務局長）

前回の第19回デフリンピック（ローマ）では金10個、銀5個、銅5個でメダル総数では世界第5位の成績でした。

第20回デフリンピックメルボルン夏季大会で、日本選手代表団派遣は11回目を数えます。第1回目の11名から135名と大世帯となりました。また当初は卓球など数競技のみでしたが、今回は10競技に出場する予定です。特に卓球は日本の得意とする競技で、必ずとっていいほどメダルを多く獲得してきました。

今回は前回実績8競技計20個を超える31個のメダル獲得を目標にあげます。ベテランぞろいの卓球、バドミントン、ボウリング、テニス、ベテランと新人とで若返った前回覇者の女子バレーボールを中心に、前はメダルには及ばなかった男子バレーボール、男子バスケットボールも幾度なる強化合宿の積み重ねで、実力を蓄えてきました。また男子サッカーが激戦の末予選突破を果たし、念願の決勝大会出場を果たし、この勢いは見逃せません。

陸上、水泳は選手の若返りで未知数ですが、出場条件の厳しい標準記録をクリアできた者ばかりで、前回以上のメダルが期待されます。オリエンテーリングは日本では普及されておらず、可能性は図りきれませんが、初派遣を機会に国内普及とともにレベルアップにつないでいくつもりです。

今大会出場のために練習に励んできた代表選手、また出場を果たせなかった選手のためにも前回は上回る成績をとれるよう、選手一同とともにがんばっていく所存です。多くのご支援、応援をよろしくお願いいたします。

### ●各競技で注目の選手・抱負などを教えてください。

#### ◇卓球（旅川監督/日本ろう者スポーツ協会技術委員）

団体は男女ともメダルが取れる可能性は高い。特に女子は取りこぼしがないと見られる。男子は周りがレベルアップしているため、以前よりは苦しいかもしれないが、総合力でカバーし、優勝はもちろん悪くても銅メダルは獲得したい。

個人戦では現チャンピオンである船越（旧姓：小浜）選手のV3がかかっているが、今回もきちんと自分の実力を出せば、大丈夫ではなかろうか。男子エースである青山選手も今回が三度目の出場であり、今度こそ入賞するという気持ちが強く表しているため、メダル獲得の期待が大きく膨らんでいる。他にも実力的にメダルが取れてもおかしくない選手も何人かいる。

男女ダブルスについてはどの組でもメダルの可能性はあるとみている。そのうち女子はその可能性がかなり高いではなかろうか。混合ダブルスでは目標として金、銀、銅、全て獲得したい。これは他国の男女のバランスから見ても、決してできないことではないと考えるが、はたして。今回は日本ろう者スポーツ協会の理解もあってスタッフを多数にしてくれた以上、ぜひ皆の期待に応じるよう頑張りたいと思います。どんな色のメダルかはわからないが、目標として10個を目指します。

◇ 陸上競技（飯村監督）※コメントなし  
4個を目標としたい。

◇ バレーボール（太田担当中央委員／日本ろう者スポーツ協会）

男女ともメダルを獲得できる可能性があります。女子バレーは前回大会で優勝したのでV2連覇を狙う期待もあります。選手たちは若返りですからなんとか行けるのではないのでしょうか。

男子は前回のローマ大会での失敗を猛省して、早くから金メダルを奪うために強化計画に取り組んでいます。念願のベスト4以上の入賞を狙って連続の合宿を行い、選手としての勝負精神を鍛え、健康管理を徹底し、上位のクラスに生き残れるような体づくりを励んでいるので、前回よりパワーアップできると思います。

◇ バスケットボール（日比野技術委員／日本ろう者スポーツ協会）

（男子）

前大会は、初出場で大敗でした。出場国の中でもっとも身長が低い日本は、スピードで対抗しました。前半は互角に試合を進めるものの、バスケットボールはぶつかりあいのスポーツのため、体力を消耗し、後半は高さで負けてしまいました。

現在の日本代表は、世界大会の経験者が5人いて、さらに経験を積んで成長しています。また、身長190cmの辻選手はオールラウンドな動きができ、世界の高さに通用すると思います。また、ガードの日本体育大学出身の中村選手も期待できます。大学での豊富な経験を武器に世界相手でもひるまずに立ち向かえると思います。あと、稲村選手は、チーム内最年長で、もっともバスケの経験が豊富です。彼は、日本代表の中で一番パワーがあり、パワーでは世界に引けを取りません。ドリブル、シュートの技術もあり、2回目の出場ということで、とても活躍が期待できます。

全体的に選手の質、経験とも前回は上回っており、メダルを期待できると思います。

同じリーグに、前回金メダルのアメリカ、そしてアフリカ初出場となるガーナが入っています。他に、イタリアが入っており、4チームで上位2チームが決勝トーナメント出場。アメリカは置いておいて、イタリアとガーナに勝つことがメダルへの条件です。

女子は初出場のため未知数。

◇ サッカー（高橋トレーナー／日本ろう者スポーツ協会技術委員）

Jリーグ発足時に育ってきた選手が半数以上集まったのと、正月の高校選手権埼玉予選で、ベスト4まで行った風間選手がいます。周りが健聴者の中で当時主将を務めた位なので、すごいですよ！また静岡選抜に選ばれた事のある細見選手もいるので期待できます。昔見た世界のレベルと現在では全く異なりますが、一次リーグではアルゼンチンには勝ちオランダとは引き分けて、ロシアは強いので1勝1引き分け1負け又は2勝1負けで決勝トーナメントへ進出出来ると信じています。勢いに乗りメダルを取りに行きます！

◇ バドミントン（田原担当中央委員／日本ろう者スポーツ協会）

\*メダル獲得が期待できる選手の氏名とその理由

小堀知史選手・秋山雅彦選手組 男子ダブルス

（理由）攻撃に破壊力があり、健聴者との試合でも競り勝ちが多い。

石井満里選手 女子シングルス

（理由）2001年デフリンピック女子シングルス優勝。連覇を目指す。

樋渡美香選手 女子シングルス

（理由）石井選手の良きライバル。全国ろうあ者体育大会に於いて優勝、準優勝経験あり。

秋山雅彦選手・石井満里選手組 混合ダブルス

(理由) 2003年12月に行われた世界レベルに近いアジア太平洋ろう者バドミントン選手権の混合ダブルスで優勝。デフリンピックでも優勝をねらう。

小堀知史選手・樋渡美香選手組 混合ダブルス

(理由) 初出場だが、上記の秋山・石井組と同じレベルの力を持つ。

\* チームで、過去大会と比較して今回は期待できる場合の理由

2001年イタリア・デフリンピックでは団体3位。敗因は出場選手の不足。男女2名ずつ合計4名のみで全試合に臨んだため。連日の試合へのフル出場による疲労により準決勝でインドネシアに惜敗(2勝3敗)。今回は男女各4名計8名と前回の2倍の選手数が出場するため、スタミナの面で心配がない。スピードのある攻撃も維持できるだろう。(団体戦のルールは男子シングルス・女子シングルス・男子ダブルス・女子ダブルス・混合ダブルスの5戦試合形式。) また、チームワークも良くまとまっている。今回の選手は国内・国外において多くの試合を積んでいる。

\* そのほか、気づいたところ

今回は初めて健聴者のコーチをお願いした。コーチからいろいろ厳しい助言を頂いており、選手全員のレベルが一段と上がった。また、2回の強化合宿を行なって、社会人リーグに出ている地元の健聴者の選手との練習試合を多く組ませるなど、合宿内容に工夫を凝らした。また、合宿の協力を頂いた日本ろう者バドミントン協会の選手、役員からの大きな励みと応援を忘れないで、メルボルンデフリンピックで大いに力を発揮したい。メダルは6つ以上を目指す。

#### ◇ 水泳競技(豊田監督)

今村可奈選手=自由形の選手で全種目とも前回大会の3位記録を上回っており、メダル獲得が期待できる。そしてスタミナが他選手よりすば抜けている。まだ16歳と若くまだまだ伸びる。

高岸里佳選手=背泳の選手。特に50mは世界記録まであと0.5秒追っておりメダル獲得が期待できる。また、スタートとタッチが他選手よりすば抜けている。まだ19歳と若く、今村選手とともにまだまだ伸びる。

早川友二選手=自由形とバタフライの選手。4大会連続参加のベテラン。経験が豊富でメダル獲得が期待できる。更にスタートとタッチ、レース運びが他選手よりすば抜けており、勝負強さで期待できる。

水泳競技は今まで6大会参加してメダルは8個獲得している伝統の種目。メルボルン大会では最低でも1個メダル獲得を目指す。

#### ◇ ボウリング(辺見担当中央委員/日本ろう者スポーツ協会)

今回出場は男子5名、女子5名で、個人、ダブルス、トリオ戦、5人チーム戦に出場できる。

男子個人戦久保春夫(群馬)、藤岡宏明(広島)はメダルが期待できる。

トリオ戦(調整中)5人チーム戦は前記2人+数見満(和歌山)、池洋(東京)、新納義弘(広島)で期待できる。

女子個人戦数見順子(和歌山)は期待できる。トリオ、5人戦は入賞(4~8位)を予想。

男女ダブルス戦は少々むずかしいかも知れない。

アベレージ目標は男子24G 200点 女子24G 190点 メダルは2~4個を予想。

#### ◇ テニス(日本ろう者テニス協会・森本事務局長)

シングルス戦ではローマ・デフリンピックで銅メダル獲得した阿部八千代選手(旧姓=松永)の連続メダル獲得が期待される。前回から4年間一般の試合経験を積み、実力的にも精神的にもパワーアップしている。松下哲也選手、小川正伸選手も前回は初参加で緊張に負けたが、今大会はメダル獲得に向けて燃えている。有川真理子選手も粘りのある試合運びで勝ち進めばメダル獲得も夢ではない。ミックスダブルス戦はコンビネーションのある攻撃力を持つ松下・阿部組に期

待したい。小川・有川組も居住地が近いために練習量が多く、上位進出をめざしている。男子ダブルス、女子ダブルスも上位進出を果たしたいが、年々若者の国際レベルがあがっているため、実際はどこまで頑張れるかわからないが、最低でもメダル2個を取りたい。今年の3月から月1、2回程程度の強化合宿を実践している。毎回違う場所での開催により、大学の強化指定選手との試合形式による練習を積み、精神面・技術面両方の向上を目指してきた。本番で怪我のないよう体調のコンディション調整にも気をつけている。

#### ◇ オリエンテーリング

オリエンテーリングは発祥地である欧州勢が強豪です。アジア地域で先進国である日本の選手もまだワールドカップ大会などでメダルが取れるところまでに至っていないのが現状です。それで、入賞だけはしたいというのが目標です。とくにデフリンピックは年齢無制限男女別で競いますので、マスターズ領域に入っている私にとってはきついレースになりそうですが、初の日本からの刺客として恥じない成果を得ていきたいと思っております。ご声援のほどよろしくお願い致します。

#### ●今回特に注目される競技・選手について教えてください。

全競技でメダルが期待されます。詳しくは前項をご参照下さい。

#### ●選手選考方法について教えてください。

オリエンテーリングを除く全競技について、ろう者のスポーツ団体が設立されています。各団体に、過去の全国ろうあ者体育大会及び選手権大会での成績などを基準にしての推薦を各団体をお願いしております。また、陸上と水泳に関しては、前回大会のメダル記録を参考に設定する標準記録を選考基準としての推薦をいただいております。各団体より推薦された選手を日本ろう者スポーツ協会中央委員会で承認、全日本ろうあ連盟デフリンピック派遣委員会に報告という手続きを取っております。

#### ●競技／選手を取材したいのですが、合宿の日程など教えてください。

各ろう者スポーツ団体が(財)日本障害者スポーツ協会助成による強化合宿を実施していますので、各団体にお問い合わせいただければと思います。

資料「ろう者スポーツ団体連絡先一覧表」をご参照ください。

#### ●メルボルンで取材を行いたいのですが、どのように手続きをすればよいですか？

メルボルンデフリンピック組織委員会に手続きを取っていただくことになっていますが、既に申し込みを締め切られているようです。

現地でのメダル獲得状況などの情報は全日本ろうあ連盟のウェブサイトでの公開を予定しておりますが、現時点で読売新聞大阪本社メディア戦略室が現地からの速報体制を検討しているようです。

なお、全日本ろうあ連盟の支援する特定非営利団体法人CS障害者放送統一機構が現地での取材体制を整えていますので、映像を提供できる可能性があります。これについてのお問い合わせは以下までお願いします。

NPO法人 CS障害者放送統一機構

〒530-0044 大阪市北区東天満2-7-12 スターポート

TEL 06-6242-6501 FAX 06-6242-6502

#### ●日本選手団の公式ユニフォームについて教えてください。

開会式用のユニフォームについて、パラリンピック日本代表団がオリンピック日本代表団と同じものを支給されていますので、デフリンピック日本代表団にも同じ物の支給を求めています。日本オリンピック委員会から認められておりません。

障害者スポーツ支援基金よりの助成を受けて、今回はアシックス社製のジャージにデフリンピックマークと日本国旗をつけたものをユニフォームとして採用しております。



#### ⑦派遣費について教えてください。

##### ●派遣費はどのくらいかかるのですか。

代表団135名の旅費、宿泊費、手話通訳者同行経費、現地行動費、報告書作成等、全部で約9,000万円が必要とされています。今回はデフリンピック開催が正月休みとオーストラリアの観光シーズンにかかるため、航空運賃が高くなっております。また、パラリンピックと違って、選手村などの設営がありませんので、現地のホテルを利用する必要があり、宿泊費や現地行動費が高くならざるを得ません。

##### ●補助金は出るのですか。

デフリンピックへの派遣事業は厚生労働省の指導にもとづき、(財)日本障害者スポーツ協会が派遣主体となっております。そこで、日本障害者スポーツ協会が補助金の申請等を担当しており、今回の場合は、航空運賃と宿泊費について、障害者スポーツ支援基金等から助成を受ける見通しとなっております。

しかしながら、当初期待されていた日本自転車振興会からの助成金が突如打ち切られたことがあり、現時点では現地行動費などに充てられる約2,000万円が不足する見込みとなっております。この金額を企業・団体からの寄付で賄うべく、現在派遣委員会委員がお願いに回っているところでございますが、デフリンピックの知名度の低さに加え、経済不況のこともあり、なかなか厳しいところです。

全日本ろうあ連盟としても組織内では自己資金約250万円の造成をめざして、カンパ運動に取り組んでいるところです。

なお、募金専用の口座番号は次のとおりです。

東京信用金庫 江戸川橋支店

財団法人全日本ろうあ連盟 理事長 安藤豊喜

口座番号 普通 4013910

**(関連) 競技団体などでカンパ活動などの取り組みをしていますか？**

ろう者スポーツ団体でもカンパ活動などの取り組みを行っている団体があります。これは団体として代表団選手の強化合宿やスタッフ派遣等に必要な経費を確保するためであり、例えば、日本ろうあバレーボール協会がTシャツの販売に組み込み、日本デフバスケットボール協会が松下電器のご協力を得てチャリティショーを行なったりしております。

**⑧競技はどのように行なわれますか？／健聴者の大会との違いは何ですか？**

先に説明しました通り、ろう者仲間が記録を競い合う内容となっておりますので、オリンピック競技のルールにほぼ準ずる内容での競技運営となっております。

コミュニケーションや情報保障は全てが視覚的に保障されており、例えば陸上競技でのスタートの合図や審判の注意など全てがろう者にわかるよう工夫されています。

**⑨第20回デフリンピックについて、今までに取り上げられた雑誌などありましたら、教えてください。**

当連盟発行の日本聴力障害新聞の他、『聴覚障害者の情報と文化(2004年秋号)』(社会福祉法人聴力障害者情報文化センター)に掲載されました。また、11月2日の朝日新聞朝刊、スポーツ面でデフリンピックの寄付活動の件が掲載されました。その他にも多くの新聞などに取り上げられております。

**⑩デフリンピックを観戦したいのですが。**

日本代表選手団をサポートしている近畿日本ツーリストが応援ツアーを組んでおります。詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

近畿日本ツーリスト株式会社 東京法人旅行支店  
FAX：03-3231-5233 TEL：03-3231-5231  
E-mail koshiba031035@mb.knt.co.jp

また、現地での観戦チケットを購入されたい場合は、以下のホームページをご参照下さい。

[http://2005deaflympics.com/sport\\_ticketingfinal.asp](http://2005deaflympics.com/sport_ticketingfinal.asp) (英文)

以 上

## (2) 夏季デフリンピック開催地一覧

回数	開催国	開催都市	開催期間	大会規模		日本代表団派遣		日本代表団成績			
				参加国数	選手数	選手	役員	計	金	銀	銅
1	フランス	パリ	1924年8月10日～8月17日	9	145						
2	オランダ	アムステルダム	1928年8月18日～8月26日	10	210						
3	西ドイツ	ニュールンベルグ	1931年8月19(21)日～8月23(24)日	14	316						
4	イギリス	ロンドン	1935年8月17日～8月24日	12	293(283)						
5	スウェーデン	ストックホルム	1939年8月24日～8月27日	13	264						
6	デンマーク	コペンハーゲン	1949年8月12日～8月16日	14	405						
7	ベルギー	ブリュッセル	1953年8月15日～8月19日	16	524						
8	イタリア	ミラノ	1957年8月25日～8月30日	25	625						
9	フィンランド	ヘルシンキ	1961年8月6日～8月10日	24	595						
10	アメリカ	ワシントン	1965年6月27日～7月3日	27	697	7	4	11	0	1	1
11	ユーゴスラビア	ベオグラード	1969年8月9日～8月16日	33	1183	9	4	13	0	4	0
12	スウェーデン	マルメ	1973年7月21日～7月28日	32	1061	9	4	13	4	2	0
13	ルーマニア	ブカレスト	1977年7月17日～7月27日	32(37)	1118(1468)	17	8	25	5	2	0
14	西ドイツ	ケルン	1981年7月23日～8月1日	32	1213(1663)	34	11	45	7	4	2
15	アメリカ	ロサンゼルス	1985年7月10日～7月20日	29	1053(1648)	52	15	77	8	5	2
16	ニュージーランド	クライストチャーチ	1989年1月7日～1月17日	30(32)	959(1469)	40	16	56	7	3	4
17	ブルガリア	ソフィア	1993年7月24日～8月2日	51	1705(1900)	41	13	54	4	7	5
18	デンマーク	コペンハーゲン	1997年7月13日～7月26日	62(57)	2068(2078)	44	14	58	6	1	1
19	イタリア	ローマ	2001年7月22日～8月1日	71(81)	2405(約4000)	60	26	86	10	5	5
20	オーストラリア	メルボルン	2005年1月5日～16日	66	3500	102	33	135	3	7	1
21	中国	台北	2009年9月5日～15日(予定)								

### (3) 日本選手の大会別入賞一覧

#### ① 卓球・陸上・水泳

競技	第10回大会 (1965・アメリカ)	第11回大会 (1969・ユーゴスラビア)	第12回大会 (1973・スウェーデン)	第13回大会 (1977・ルーマニア)
卓球	◆女子シングルス 2位 中井リヲ子	◆女子団体 2位 竹内幸子 鈴木リヲ子 高橋公子  ◆男子シングルス 2位 石橋敏男 ◆女子ダブルス 2位 鈴木リヲ子 竹内幸子	◆男子団体 1位 幾島政幸 吉田信一 岡崎新一 古寺信幸  ◆女子団体 2位 西岡京子 齋藤栄子 野見山節子 ◆男子シングルス 1位 幾島政幸 2位 吉田信一 ◆男子ダブルス 1位 幾島政幸 古寺信幸 ◆混合ダブルス 1位 幾島政幸 齋藤栄子	◆男子シングルス 1位 幾島政幸 4位 吉田信一  ◆女子シングルス 1位 安藤わき江 ◆男子ダブルス 1位 幾島政幸 吉田信一 ◆女子ダブルス 1位 安藤わき江 佐藤茂子 ◆混合ダブルス 1位 幾島政幸 佐藤茂子 2位 吉田信一 安藤わき江
陸上	◆男子25km マラソン 3位 高山道雄  ◆男子 10,000m 7位 高山道雄	◆男子 100m 5位 遠藤宗司  ◆男子20km競歩 5位 藤本昌男	◆三段跳び 4位 島尻寛俊  ◆競歩 20km 4位 三浦敏治 ◆男子マラソン 8位 三浦敏治	◆女子走高跳 5位 吉田厚子 (1m53) ◆女子走高跳 6位 中井和代(1m50) ◆女子走幅跳 7位 吉田厚子(5m19)
水泳				◆男子 1,500m 自由形 2位 中田進康 (18.24'06) ◆男子 400m 自由形 6位 中田進康

競技	第 14 回大会 (1981・西ドイツ)	第 15 回大会 (1985・アメリカ)	第 16 回大会 (1989・ニュージーランド)
卓球	<p>◆男子団体 1位 幾島政幸 吉田信一 旅川正人</p> <p>◆女子団体 1位 竹島春美 恒川正子 加藤春美 小原靖子</p> <p>◆男子シングルス 1位 幾島政幸 2位 吉田信一</p> <p>◆女子シングルス 1位 竹島春美 2位 恒川正子 3位 小原靖子</p> <p>◆男子ダブルス 1位 幾島政幸 吉田信一</p> <p>◆女子ダブルス 1位 恒川正子 加藤春美 2位 竹島春美 小原靖子</p> <p>◆混合ダブルス 1位 竹島春美 幾島政幸 2位 加藤春美 旅川正人</p>	<p>◆男子団体 1位 幾島政幸 伊藤一臣 吉田清繁 旅川正人</p> <p>◆女子団体 1位 竹島春美 加藤春美 青木恵子 恒川正子</p> <p>◆男子シングルス 1位 幾島政幸 2位 伊藤一臣</p> <p>◆女子シングルス 1位 竹島春美 2位 恒川正子</p> <p>◆男子ダブルス 1位 幾島政幸 吉田清繁</p> <p>◆女子ダブルス 1位 恒川正子 加藤春美 2位 竹島春美 青木恵子</p> <p>◆混合ダブルス 1位 竹島春美 幾島政幸 2位 吉田清繁 青木恵子 3位 加藤春美 旅川正人 4位 恒川正子 伊藤一臣</p>	<p>◆男子団体 1位 伊藤一臣 幾島政幸 吉田清繁 旅川正人</p> <p>◆女子団体 1位 竹島春美 清水正子 伊藤歌苗 房安京子</p> <p>◆男子シングルス 3位 伊藤一臣</p> <p>◆女子シングルス 1位 竹島春美 2位 清水正子 3位 伊藤歌苗</p> <p>◆男子ダブルス 1位 幾島政幸 吉田清繁 3位 旅川正人 伊藤一臣</p> <p>◆女子ダブルス 1位 清水正子 伊藤歌苗 2位 竹島春美 房安京子</p> <p>◆混合ダブルス 1位 竹島春美 幾島政幸 2位 清水正子 吉田清繁</p>
陸上	<p>◆男子走幅跳 4位 八重堅隆久</p> <p>◆男子100m 7位 片山 勲</p>	<p>◆女子槍投げ 1位 小林宏美 (51m02)</p>	<p>◆男子走高跳 6位 土肥恒二</p> <p>◆男子走高跳 7位 三田昌彦</p> <p>◆男子三段跳 8位 三田昌彦</p> <p>◆男子槍投げ 7位 三田昌彦</p> <p>◆女子砲丸投げ 6位 山田美佐子</p> <p>◆女子槍投げ 1位 小林宏美 (53m46)</p> <p>◆女子円盤投げ 4位 小林宏美</p>
水泳	<p>【漆島睦晃】</p> <p>◆男子100m自由形 4位</p> <p>◆男子400m自由形 4位</p> <p>◆男子200m自由形 3位 (2.04'50)</p> <p>◆男子200mバタフライ 5位</p> <p>【中田進康】</p> <p>◆男子200mバタフライ 6位</p>	決勝進出ならず	

競技	第 17 回大会 (1993・ブルガリア)	第 18 回大会 (1997・デンマーク)
卓球	<p>◆男子団体 2位 吉田清繁 幾島政幸 上江州光彦 旅川正人</p> <p>◆女子団体 1位 房安京子 馬淵真佐子 角田真由美 野崎歌苗</p> <p>◆男子シングルス 3位 吉田清繁</p> <p>◆女子シングルス 1位 房安京子 2位 馬淵真佐子 4位 角田真由美</p> <p>◆男子ダブルス 2位 幾島正行 吉田清繁</p> <p>◆女子ダブルス 1位 房安京子 野崎歌苗 3位 馬淵真佐子 角田真由美</p> <p>◆混合ダブルス 1位 幾島政幸 房安京子 2位 上江州光彦 角田真由美 3位 旅川正人 野崎歌苗</p>	<p>◆男子団体 1位 梅村正樹 青山修 澤内卓也 中尾美弘</p> <p>◆女子団体 1位 小浜京子 星出千佳子 山崎ルミ子 坂本珠美</p> <p>◆女子シングルス 1位 小浜京子 4位 星出千佳子</p> <p>◆男子ダブルス 1位 梅村正樹 青山修</p> <p>◆女子ダブルス 1位 小浜京子 星出千佳子</p>
陸上	<p>◆男子マラソン 3位 市野瀬英彦(2.48'49)</p> <p>◆男子110mハードル 4位 小川勝巳(16'13)</p> <p>◆男子走高跳 5位 土肥恒二(1m85)</p> <p>◆男子走幅跳 6位 小川勝巳(6m78)</p> <p>◆女子3000m 5位 橋本清美(10'45"67)</p> <p>◆女子走幅跳 5位 井田操子(5m36)</p>	<p>◆男子マラソン 6位 坂井正広(2.47'30)</p> <p>◆男子走幅跳 6位 関根均(6m60)</p> <p>◆男子槍投げ 8位 福島広幸(53m32)</p> <p>◆女子10000m 1位 橋本清美(37'53"10)</p> <p>◆女子5000m 2位 橋本清美(17'54"8)</p> <p>◆女子1500m 5位 橋本清美(4'47"85)</p> <p>◆女子槍投げ 8位 千葉文恵(39m54)</p> <p>◆女子砲丸投 7位 千葉文恵(9m30)</p>
水泳	<p>【早川友二】</p> <p>◆男子100m自由形 2位(55"11)</p> <p>◆男子200m自由形 2位(4'13"34)</p> <p>◆男子400m自由形 2位(1'59"88)</p> <p>◆男子1500m自由形 3位(17'12"00)</p> <p>【桧森祐之】</p> <p>◆男子50m自由形 7位(25"89)</p> <p>◆男子100m平泳 4位(1'10"07)</p> <p>◆男子200m平泳 5位(2'36"03)</p>	<p>【早川友二】</p> <p>◆男子50m自由形 6位(25'12)</p> <p>◆男子100m自由形 8位(55'47)</p> <p>◆男子100mバタフライ 6位(1'00"86)</p> <p>【池下由加】</p> <p>◆女子100m平泳B決勝 4位(1'29"53)</p> <p>◆女子200m平泳B決勝 4位(3'14"16)</p>

競技	第 19 回大会 (2001・イタリア)	第 20 回大会 (2004・オーストラリア)
卓球	<p>◆男子団体 1 位 梅村正樹 青山 修 中尾美弘 旅川正人</p> <p>◆女子団体 2 位 小浜京子 星出千佳子 土井朋子 田中雅美</p> <p>◆男子シングルス 1 位 梅村正樹</p> <p>◆女子シングルス 1 位 小浜京子</p> <p>◆女子シングルス 4 位 星出千佳子</p> <p>◆男子ダブルス 1 位 梅村正樹 青山 修</p> <p>◆女子ダブルス 1 位 小浜京子 星出千佳子 2 位 田中雅美 土井朋子</p> <p>◆混合ダブルス 1 位 梅村正樹 小浜京子 2 位 青山 修 田中雅美</p>	<p>◆男子団体 4 位 青山 修 上江洲光彦 国本雄一郎 渡辺 誠</p> <p>◆女子団体 3 位 船越京子 今西直子 寺田千寿子 田中雅美</p> <p>◆男子シングルス</p> <p>◆女子シングルス 2 位 船越京子</p> <p>◆男子ダブルス 4 位 青山 修 上江洲光彦</p> <p>◆女子ダブルス 2 位 船越京子 今西直子</p> <p>◆混合ダブルス 4 位 青山 修 船越京子</p>
陸上	<p>◆女子走幅跳び 3 位 桃原 恵(5m28)</p> <p>◆男子 10000m 8 位 山田真人(34'11"01)</p> <p>◆女子 10000m 4 位 橋本清美(38'26"41)</p> <p>◆男子マラソン 4 位 山田真人(2.45'25)</p> <p>◆女子マラソン 1 位 橋本清美(3.06'50)</p>	<p>◆男子 10000m 7 位 金子誠一(34'26"36)</p> <p>◆男子マラソン 5 位 金子誠一(2.53'57)</p> <p>◆女子 10000m 6 位 泉 裕子(39'37"53)</p> <p>◆女子マラソン 2 位 泉 裕子(3.11'08)</p> <p>◆女子槍投げ 2 位 武内晴香(41m40)</p>
水泳	<p>【早川友二】</p> <p>◆男子 50m 自由形 2 位(25'21)</p> <p>◆男子 100m 自由形 5 位(55'01)</p> <p>【水谷哲也】</p> <p>◆男子 50m 自由形 6 位(57'21)</p>	<p>【早川友二】</p> <p>◆男子 50m 自由形 5 位(25"24)</p> <p>◆男子 100m 自由形 8 位(55"35)</p> <p>◆男子 400m 自由形 11 位(4'26"41)</p> <p>◆男子 50m バタフライ 4 位(26"77)</p> <p>【今村可奈】</p> <p>◆女子 50m 自由形 13 位(29"52)</p> <p>◆女子 100m 自由形 5 位(1'02"60)</p> <p>◆女子 200m 自由形 2 位(2'14"13)</p> <p>◆女子 400m 自由形 1 位(4'39"86)</p> <p>◆女子 800m 自由形 1 位(9'35"28)</p> <p>【高岸里佳】</p> <p>◆女子 200m 自由形 12 位(2'24"27)</p> <p>◆女子 50m 背泳ぎ 6 位(1'14"49)</p> <p>◆女子 200m 背泳ぎ 7 位(2'40"38)</p>

② バレーボール・テニス

競技	第13回大会 (1977・ルーマニア)	第14回大会 (1981・西ドイツ)	第15回大会 (1985・アメリカ)	第16回大会 (1989・ニュージーランド)
バレーボール	◆男子 4位 中田康夫 奥 幸男 儀保盛光 島尻寛俊 榎 貞雄 上江田武志 金城秀成 宮城 功 宮城 明 比嘉 勉	◆男子 7位 中里和明 佐藤 誠 浜本也寸志 島尻寛俊 儀保盛光 砂原昇一 榎 貞雄 金城秀成 朝倉幹夫	◆男子 2位 島尻寛俊 戸羽伸一 朝倉幹夫 中里和明 浅利義弘 村田正彦 青川勝則 梅林浩次 下垣彰則 本堂雅仁 浜本也寸志 塚根 隆	◆男子 5位 中里和明 阿部秀一 布山和司 坂元公房 塚根 隆 林 則和 福本和巳 青川勝則 来間正人 浜本也寸志 村田正彦 草芽裕二
		◆女子 5位 和田恵美子 渡辺純子 藤田春美 辻 生子 木田桂子 浅野喜久子 木村みどり 木村一枝	◆女子 3位 小林恵美子 渡辺しのぶ 小野寺幸子 後藤美穂子 木村みどり 鈴木佳代 土山利枝 辻 生子	◆女子 3位 小林幸枝 原品奈保美 渡辺しのぶ 伊藤幸子 芳賀景子 大野真美 福田かおり 東條郁子 嘉陽町子 佐藤友枝 川井裕美
テニス			入賞なし。	入賞なし。

競技	第17回大会 (1993・ブルガリア)	第18回大会 (1997・デンマーク)	第19回大会 (2001・イタリア)	第20回大会 (2004・オーストラリア)
バレーボール	◆男子 10位 木沢一俊 布山和司 山田俊策 山本唯雄 塚根 隆 西村秀正 林 則和 福本和巳 上田将喜 村田正彦	◆男子 9位 木沢一俊 信田光宣 小島克仁 福本和巳 林 則和 猪野康隆 梅本浩章 山本唯雄 壇上直樹 上田将喜 浜本也寸志	◆男子 6位 大川裕二 梅本浩章 猪野康隆 小垣憲一 信田光宣 梅本隆久 竹森雄介 西村浩一 村上浩二 上田将喜 木沢一俊 升田 誠	◆男子 7位 若原正享 平田智哉 信田光宣 大川裕二 藤井康生 小垣憲一 西村浩一 福本和巳 梅本浩章 乾 文雄 猪野康隆 梅本隆久
	◆女子 4位 清水真奈美 吉村昭子 高橋小枝 峯尾輝恵 和田和代 浅尾ひろみ 栄 智美 古川みき 大野真美 清水敦子 福本智富美 関口由美子	◆女子 5位 川島香織 上田祥子 物井朋子 田中真紀 古野純子 田結庄奈美 栄 智美 浅尾ひろみ 古川みき 岡本かおり 永田千鶴 川西まり子	◆女子 1位 川島香織 升田真紀 高瀬洋子 小牧雅子 梅本祥子 岡本かおり 西田節子 栄 智美 小垣奈美 藤 裕子 小澤由美 西田友子	◆女子 2位 藤 裕子 仲宗根祥子 三平 薫 山崎 望 安積梨絵 平尾あゆみ 鈴木恵子 岡崎宏美 大鶴直美 岡本かおり 西田節子 西田友子
テニス	入賞なし。	◆男子シングルス ベスト16 新垣達司	◆女子シングルス 3位 松永八千代 ◆男子ダブルス ベスト8 小川正伸 松下哲也 ◆女子ダブルス ベスト8 松永八千代 青木千香	◆女子シングルス 4位 阿部八千代 ◆女子ダブルス 2位 阿部八千代 有川真理子 ◆混合ダブルス ベスト8 松下哲也 阿部八千代

③ バドミントン・ボウリング・バスケットボール

競技	第 18 回大会 (1997・デンマーク)	第 19 回大会 (2001・イタリア)	第 20 回大会 (2004・オーストラリア)
バドミントン	<p>◆団体戦 6位 宮武孝明</p> <p>◆男子シングルス 4位 小堀知史 6位 宮武孝明</p> <p>◆女子シングルス 5位 藤木真美</p> <p>◆男子ダブルス 3位 宮武孝明 小堀知史</p> <p>◆混合ダブルス 5位 宮武孝明</p>	<p>◆団体戦 3位 宮武孝明 小堀知史 石井満里 羽賀照予</p> <p>◆男子シングルス ベスト8 小堀 知史</p> <p>◆女子シングルス 1位 石井満里</p> <p>◆男子ダブルス 4位 小堀知史 宮武孝明</p> <p>◆女子ダブルス 2位 石井満里 羽賀照予</p> <p>◆混合ダブルス 3位 小堀知史 石井満里</p>	<p>◆団体戦 ベスト8 小堀知史 秋山雅彦 中西 潤 甲斐勝巳 石井満里 樋渡美香 羽賀照予 中井智子</p> <p>◆女子シングルス ベスト8 石井満里 樋渡美香</p> <p>◆男子ダブルス ベスト8 甲斐勝巳 中西 潤</p> <p>◆女子ダブルス 1位 石井満里 樋渡美香</p> <p>◆混合ダブルス 4位 秋山雅彦 石井満里</p>
ボウリング		<p>◆男子シングルス 4位 鈴木浩美</p> <p>◆女子シングルス 3位 矢吹千恵子</p> <p>◆女子ダブルス 1位 数見順子 矢吹千恵子</p> <p>◆男子マスターズ 15位 鈴木浩美</p> <p>◆女子マスターズ 13位 矢吹千恵子</p>	<p>◆男子ダブルス 5位 久保春夫 新納義弘</p> <p>◆女子ダブルス 8位 石井美代子 松清俊子</p> <p>◆男子団体 5位 数見 満 久保春夫 新納義弘 藤岡宏明 池 洋</p> <p>◆女子トリオ 8位 石井美代子 福田美幸 栗山美和子</p> <p>◆女子団体 6位 石井美代子 福田美幸 栗山美和子 数見順子 松清俊子</p>
バスケットボール		<p>◆男子 14位 中村直樹 福島 明 稲村広太 谷口裕教 福光 純 及川澄志 園 雅光 仲間正人 森 元誠 雪森文晃 佐野之憲 五十嵐 悟 岡野泰行</p>	<p>◆男子 10位 中村典之 及川澄志 雪森文晃 手塚清貴 中山直樹 辻 朋大 澤口雅哉 日比野 隆 中山明人 稲村広太 福島 明 須田将広</p> <p>◆女子 8位 薄井美智子 大庭紀美 河合素子 涌井香里 渡辺亜紀 富田 望 杉谷 香 佐々木由香 平林裕子 福島彩子</p>

④ サッカー・自転車

競技	第 14 回大会 (1981・西ドイツ)	第 15 回大会 (1985・アメリカ)	第 16 回大会 (1989・ニュージーランド)
サッカー		<p>◆8位</p> <p>大久保勝広 高野克巳            森島優裕 山内広一            猫宮邦裕 家山雄二            酒井幹雄 山崎隆之            中川 誠 白川 勝            中弥光弘 川端孝夫            渡辺庸志 藤谷卓生            染谷茂治</p>	
自転車			<p>◆1,000m スプリント            8位 小田春彦</p> <p>◆100km ロードレース            6位 小田春彦</p> <p>◆50km ポイントレース            4位 小田春彦</p>

競技	第 20 回大会 (2004・オーストラリア)		
サッカー	<p>◆12位</p> <p>伊東高志 光野 誠            湯澤史就 羽木敬哲            四方 恒 川見浩一            古 隆喜 馬場博史            山地寿朋 松本紀彦            飯坂隆行 野呂 啓            船越弘幸 細見尚史            野間三夫 風間隆由            白木健太 阿部清志</p>		
自転車			

#### (4) 冬季デフリンピック開催地一覧

回数	開催国	開催都市	開催期間	大会規模		日本代表団派遣			日本代表団成績			
				参加国数	選手数	選手	役員	計	金	銀	銅	
1	オーストリア	ゼーフェクト	1949年1月26日～1月30日	5	33							
2	ノルウェー	オスロ	1953年2月10(20)日～2月14(24)日	6	53							
3	西ドイツ	オーベルアンメルガウ	1955年2月10日～2月13日	7	61							
4	スイス	モンタナブナーラ	1959年1月27日～1月31(30)日	8	42(56)							
5	スウェーデン	オーレ	1963年3月11日～3月16日	8	58(53)							
6	西ドイツ	バルヒスガーデン	1967年2月20日～2月24(25)日	12	86	3	3	6	0	0	0	0
7	スイス	アボオルボーデン	1971年1月25日～1月29日	13	92	(不参加)						
8	アメリカ	レイクプラシッド	1975年2月11日～2月16日	15	268	10	3	13	0	0	0	0
9	フランス	メリベル	1979年1月21日～1月27日	14	180	8	5	13	0	0	0	0
10	イタリア	マドンナ	1983年1月16日～1月23(22)日	16	191	9	6	15	0	0	0	0
11	ノルウェー	オスロ	1987年2月7日～2月14日	15	136(225)	10	4	14	0	0	0	0
12	カナダ	バンフ	1991年3月2日～3月9日	16(18)	294(287)	9	6	15	0	0	0	0
13	フィンランド	ウツラス	1995年3月14日～3月19日	20	312	10	5	15	0	0	0	0
14	スイス	ダボス	1999年3月6(7)日～3月14日	18	273	10	5	15	0	1	1	1
15	スウェーデン	スツツバル	2003年2月27日～3月9日	22	253	14	15	29	2	0	0	0
16	アメリカ	パークシティ	2007年2月1日～2月11日(予定)									

## (5) 日本選手の大会別入賞一覧（冬季デフリンピック）

大会 競技	第8回大会 1975年 アメリカ	第9回大会 1979年 フランス	第10回大会 1983年 イタリア
① アルペンスキー	<p>◆大回転 6位：高畑美優治</p>	<p>◆回転 8位：安藤俊夫</p> <p>◆大回転 8位：高畑美優治</p>	<p>◆滑降 7位：高畑美優治</p> <p>◆大回転 5位：高畑美優治 8位：安藤俊夫</p> <p>◆S大回転 4位：高畑美優治</p>
② スノーボード			

大会 競技	第 11 回大会 1987 年 ノルウェー	第 12 回大会 1991 年 カナダ	第 13 回大会 1995 年 フィンランド
① アルペンスキー	<p>◆滑降 6 位：大場富士子 7 位：浜野文子 8 位：中村谷よしみ</p> <p>◆回転 4 位：高畑美優治</p>	<p>◆滑降 入賞なし</p> <p>◆回転 入賞なし</p> <p>◆大回転 入賞なし</p>	<p>◆滑降 7 位：加藤美千代</p>
② スノーボード			

大会 競技	第 14 回大会 1999 年 スイス	第 15 回大会 2003 年 スウェーデン
① アルパンスキー	<p>◆滑降</p> <p>4 位：加藤美千代(58,52)</p> <p>8 位：金子奈緒美(59,15)</p> <p>◆回転</p> <p>2 位：伏見景子(1:36,59)</p> <p>◆大回転</p> <p>3 位：伏見景子(1:53,79)</p> <p>8 位：中嶋輝之(1:51,73)</p>	
② スノーボード		<p>◆大回転</p> <p>1 位：原田 上(1'19.78)</p> <p>4 位：佐藤雄一(1'24.90)</p> <p>5 位：高根沢 務(1'26.66)</p> <p>1 位：加藤八重子(1'31.76)</p> <p>4 位：長澤理沙子(1'40.31)</p> <p>5 位：斎藤彰子(1'44.86)</p> <p>◆パラレルスラローム</p> <p>5 位：原田 上</p> <p>6 位：高根沢 務</p> <p>7 位：佐藤雄一</p> <p>5 位：斎藤彰子</p> <p>6 位：加藤八重子</p> <p>8 位：長澤理沙子</p>



第20回

# デフリンピックの 開催について

社会・援護局障害保健福祉部企画課社会参加推進室

平成17年1月5日(水)～16日(日)までの12日間、オーストラリアのメルボルンにおいて、「第20回デフリンピック」が開催され、81か国から約4000人が参加し、16競技が実施されます。日本からは107名の選手が参加し、陸上、水泳、サッカー、テニス、バスケットボール、バレーボール、バトミントン、卓球、ボウリング、オリエンテーリングの10競技に挑みます。デフリンピックとは、聴覚に障害のあるアスリートの国際大会であり、「オリンピック」「パラリンピック」同様、聴覚障害者スポーツ最高峰の大会です。夏季大会と冬季大会がそれぞれ4年に一度開催されています。

「デフリンピック」は、英語の「Deaf」(耳の聞こえない)と「Olympics」(オリンピック)の合成語(Deadlympics)です。以前は、「世界ろう者競技大会」の名称だったのですが、国際オリンピック委員会の承認を受けて、2001年の5月に名称を変更しました。デフリンピックの歴史は古く、1924年にフランスで夏季大会が初めて開催され、1949年には第1回の冬季大会がオーストリアで開催されました。日本は、夏季大会には、1965年の第10回大会(アメリカ、ワシントン)から、冬季大会には、1967年の第7回大会(西ドイツ、ケルン)から参加しています。2001年に開催された前回のイタリア、ローマ大会では選手60名が8競技に参加し、金10個、銀5個、銅5個の合計20個のメダルを獲得しており、特に、デフリンピック通算79個のメダルを獲得した卓球、世界の強豪をしりぞけて優勝した女子バレーボールの活躍が光りました。



2003年の第15回冬季デフリンピック大会(スウェーデン・スツバル)にて、スノーボード回転で男女ともに金メダルを獲得



2001年の第19回夏季デフリンピック大会(イタリア・ローマ)にて、女子バレーボールチームが初めて金メダルを獲得

今回の大会でも、日本が初めてデフリンピックに出場して以来、毎回メダルを獲得している卓球、前回の大会で、シングル、ダブルス、団体など各種目に入賞し、金・銀・銅を総なめにしたバトミントン、前回初出場にもかかわらず、いきなりの金を獲得したボウリングなどの活躍が期待されます。

メルボルンでメダル31個をめざす

# 日本のアスリートたち

(財)全日本ろうあ連盟  
第20回デフリンピック派遣委員会事務局長 大杉 豊

者スポーツ委員会は構成メンバーに入っていますが、以上に説明したデフリンピックの期間性と手話の重要性についての理解が得られなかつたために、1993年に派遣しているのです。このためにデフリンピックに障害障害者の出場がないという状況が続いているわけです。

4年前、2001年にイタリアローマで開催された第19回デフリンピックで、日本は8競技に60名の選手を派遣し、金メダル10個、銀メダル5個、銅メダル5個を獲得し、メダル総計でも世界第3位という成績を挙げました。そして、第20回デフリンピックに派遣される代表団の大杉委員長は、前回の20割を大幅に超える31個のメダル獲得を目指し、各競技(オリエンティエング、サッカー、水泳、卓球、テニス、バスケ、バドミントン、バレーボール、ボウリング、陸上)の選手コーチもそれぞれ目標を持って強化に励んでいるところです。

全日本ろうあ連盟でも代表団派遣委員会を設け、派遣にかかわる準備を進めています。厚生労働省及び日本障害者スポーツ協会の協力を得て航空費、宿泊費等の資金助成を受ける予定となっていますが、金額ではありません。ほかに役員、選手

の国内交通費、現地行動費、食糧費など、あわせて約2000万円が不足している見込みです。手話をコミュニケーション手段とする障害障害者の、スポーツ発展のみならず、国際交流を通しての社会参加と自己実現を目指すためにも、みなさんの温かい応援ご支援をお願いを願っています。

選手と指導員を伴い、イタリア、ローマの選手と共に  
写真：高杉豊(右)と選手たち



2005年1月5日から16日までオーストラリアのメルボルンにて「第20回デフリンピック」が開催され、日本は総勢135名(選手102名、役員33名)と過去最大の規模となる代表団を派遣します。

アスレチックデフリンピックは日本の国民に大きな感動を与えました。スポーツの精神が障害者を含めた国民全体に広がりつつあるのが国を代表するアスリートたる国際選手と選手を誇り、私達は感動を覚え、そして世界の恒久の平和への希望をもつことが出来るのです。

デフリンピックには肢体不自由者や視覚障害者などのアスリートが参加していましたが、聴覚障害者が参加していないことには気が付かれた選手もおられるのではないのでしょうか。実は、デフリンピックとは別に「デフリンピック」と呼ばれる聴覚障害者自身の国際大会があり、1924年から開催されているのです。デフリンピックが開催されたのは1964年のことですから、デフリンピックは40年早く誕生していたこととなります。このデフリンピックを主催する国際ろうあ者スポーツ委員会(CISS)は聴覚障害者自身で運営され、デフリンピック開催地でも聴覚障害者が主体となり運営される

ところにデフリンピックの2つの特徴があります。

デフリンピックは障害を持つ人たちのリハビリテーションを目的として始められたといわれており、障害の程度に応じたクラス分けや、介助者の伴走を認めるルールの採用など、デフリンピック独特の競技運営が発展してきていますが、デフリンピックではデフリンピックのルールとはほぼ変わらない形の競技運営がされているところにも特徴が見られます。

「デフリンピックは国語が残る、デフリンピックは国語が残る」という表現がありますが、デフリンピックは何が残るのでしょうか。それは手話です。聴覚障害者は手話という言語を持っており、英語と日本語が異なるのと同じように手話も各国で異なっています。しかし、聴覚障害者は国際手話と呼ばれる共通の手話で登壇し、コミュニケーションを取ることが出来ます。競技説明会、コーチ会議、表彰式など競技運営は全て国際手話で行なわれ、聴覚障害者の役員が話すときは国際手話の通訳がつけられるのがデフリンピックの特徴でもあるのです。

国際デフリンピック委員会(IPC)が1989年に発足したときに、国際ろう

### 皆様からのご支援をお願い申し上げます

★東京徳用会館 江戸川橋支店  
財団(ザイダン)法人(ボウジヤ)全日本(ゼンニホン)ろうあ(ロウア)連盟(レンメイ)  
理事長(リジヤウ) 安藤敦典(アンドントキキ)  
口座番号 普通 4013910  
(財)全日本ろうあ連盟  
〒162-0801 東京都新宿区山崎町130 SKビル8階  
E-mail: inquiry@jfd.or.jp  
F A X 03-3267-3445 T E L 03-3268-8847





「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

**岡田武**

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

**文壇**

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。

「しんぶん赤旗」の記者会見で、岡田武が記者と交歓している様子。



当「アソビ」が正式に採用したのは、オーストラリアの大会で、オーストラリアの大会で採用された。オーストラリアの大会で採用された。オーストラリアの大会で採用された。

オーストラリアの大会で採用された。オーストラリアの大会で採用された。オーストラリアの大会で採用された。オーストラリアの大会で採用された。オーストラリアの大会で採用された。

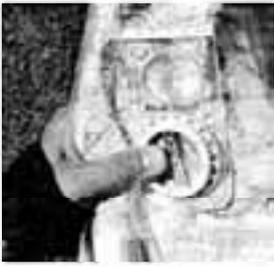
## テクニカルイニテリヤ

テクニカルイニテリヤの大会で採用された。テクニカルイニテリヤの大会で採用された。テクニカルイニテリヤの大会で採用された。テクニカルイニテリヤの大会で採用された。テクニカルイニテリヤの大会で採用された。



テクニカルイニテリヤの大会で採用された。テクニカルイニテリヤの大会で採用された。テクニカルイニテリヤの大会で採用された。テクニカルイニテリヤの大会で採用された。テクニカルイニテリヤの大会で採用された。

International Federation of the Deaf (IFD) の設立が発表されました。2004年のWorld Deaf Championshipsは、ハンガリーで開催されたことに決まりました。その結果、オーストラリアの大会で採用された。オーストラリアの大会で採用された。オーストラリアの大会で採用された。



IFDの大会の様子



IFDの大会の様子

## 記者会見に手話で説明

記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。

記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。

記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。

記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。記者会見に手話で説明した。

**日本選手団が 募金呼びかけ ちりとり**

世界選手団が来る第20回デフレピックの開幕大会が来年1月、オーストラリアのメルボルンで開かれる。デフレピックには歴々の選手団は歴々の選手団は募金不足に陥り、募金呼びかけしている。不足分は約5千万円(総予算9千万円)。支援を打つ切の団体が出たため、「募金をすなわち命」とも言われる。日本選手団の不足分は、企業・団体から募金を集めたい。

世界選手団は健康者と外見が変わらないため、選抜の不自選が選抜されにくい。デフレピックを主催する国際デフレピック委員会(国際デフレピック委員会)の構成メンバーに知ったが、手筋の選抜性がわかっていない。なごしく選抜した。募金の問い合わせは、日本選手団へ。電話・3268・8847、ファクス・3267・3446。

15種目で競う「ろう者の五輪」

IOCも公認 デフレピック

【東京11日】ろう者の国際大会「デフレピック」が、国際オリンピック委員会(IOC)から正式に公認された。これは、ろう者の国際大会「デフレピック」が、国際オリンピック委員会(IOC)から正式に公認された。これは、ろう者の国際大会「デフレピック」が、国際オリンピック委員会(IOC)から正式に公認された。

ろう者の国際大会「デフレピック」が、国際オリンピック委員会(IOC)から正式に公認された。これは、ろう者の国際大会「デフレピック」が、国際オリンピック委員会(IOC)から正式に公認された。

「アテネの熱気」を引き継ぎたい

アテネの熱気を引き継ぎたい。アテネの熱気を引き継ぎたい。アテネの熱気を引き継ぎたい。

バスケットボールは日本男女代表出場



バスケットボール日本代表のメンバーたち。アテネの熱気を引き継ぎたい。



デフレピックは、ろう者の国際大会。アテネの熱気を引き継ぎたい。



デフレピックの準備中。アテネの熱気を引き継ぎたい。

# 上板の阿部さん

## 豊初の子ア五輪選手に

### 来三 来年一月、豪州で開催

豊初の子ア五輪選手に、来年一月、豪州で開催されるシドニー五輪に出場する。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。

阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。



テフリンピックの出場を決めた阿部さん。上板町七歳の阿部さん。スポンサー公認

阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。

阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。

# 記者席

「あつりん」は、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。



# 阿部 八千代さん

テフリンピックの出場が決まった阿部八千代さんの様子。



阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。

阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。

阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。阿部さんは、今年三月、東京で開催された「豊初の子ア五輪選手」の選考会に参加し、男子シングルスで優勝した。

# 「ろう者の五輪」関心持って

## 1924年発祥 デフリンピック

「ろう者の五輪」今年も、冬大会が開幕する。ろう者のスポーツの盛んな国、日本は、ろう者のスポーツの発展に力を入れている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。

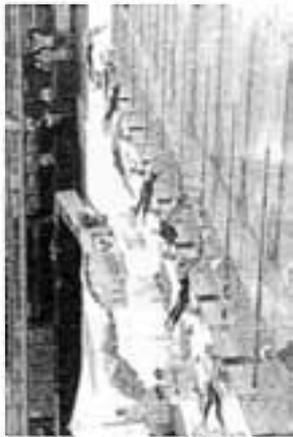
ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。

ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。

ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。

## 費用不足 200万円 支援呼びかけ

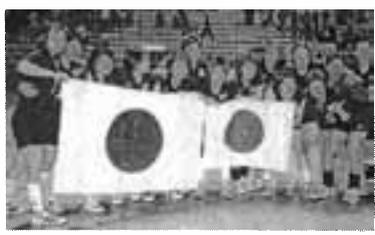
ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。



パラリンピック（札幌五輪）より。リハビリ施設で、記録簿のデフリンピック（前回のローマ大会より）を日本ろう者の関係者へ提供。

## 選手ら130人 目標メダル30個以上

ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。



メルボルン大会もメダルラッシュが期待される

# お楽しみサンデー

## 南信州日曜版

「デフリンピック」は、ろう者のスポーツの盛んな国、日本は、ろう者のスポーツの発展に力を入れている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。

「デフリンピック」は、ろう者のスポーツの盛んな国、日本は、ろう者のスポーツの発展に力を入れている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。

「デフリンピック」は、ろう者のスポーツの盛んな国、日本は、ろう者のスポーツの発展に力を入れている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。

「デフリンピック」は、ろう者のスポーツの盛んな国、日本は、ろう者のスポーツの発展に力を入れている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。ろう者のスポーツは、ろう者の生活に大きな影響を与えている。



### Saturday Wide

耳の穴を指さす「上野のふりこ」から「(選挙大台) 選挙年」まで、オーストラリアの文化や生活に密着した「はなはな」の連載は、朝日新聞の「はなはな」の連載。日本文化の魅力を伝える。海外の文化を知る。海外の文化を知る。

## 聴覚障害者スポーツ集「つららんど」

# 日本の100選手 多彩

1月に發で



（左）13歳の選手

「聴覚障害者スポーツ集」は、聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。



13歳、選手



聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。

聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。

「この人」は、聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。



「この人」は、聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。

「この人」は、聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。聴覚障害者の活躍を伝える。多彩な選手が活躍している。

## デフリンピック 開催迫る

### メダル量産に期待 1月6日から 支援募金受け付け

東京・有明体育館(東京都)に、デフリンピックの会場となる。メダル量産に期待。支援募金受け付け。メダル量産に期待。支援募金受け付け。

# 都民版

都民版は、東京都民の生活や文化、スポーツ、教育、経済、社会問題などについて、最新のニュースやインタビュー、コラムなどを掲載しています。また、読者の声や意見も積極的に取り上げています。

## 初戦で10点目標

出場選手全員奮闘

「初戦は緊張したが、選手たちは全員奮闘し、10点の目標を達成した。今後の大会も頑張りたい。」

「試合中、チームの士気は高まり、最終的に勝利を収めた。今後の練習も頑張りたい。」



出場選手全員奮闘

# 江戸川の2人バスケット代表

「初戦は緊張したが、選手たちは全員奮闘し、10点の目標を達成した。今後の大会も頑張りたい。」



## 力強いプレーを

初出陣 清水さん

「初出陣でしたが、力強いプレーでチームに貢献しました。今後の大会も頑張りたい。」

「試合中、チームの士気は高まり、最終的に勝利を収めた。今後の練習も頑張りたい。」

## 派遣費20万不足

もも懸 寄付募る

「派遣費が20万円不足しているため、寄付を募りたい。ご協力をお願いします。」

デフリンピック男子サッカー日本代表  
DF 白木 健太さん(25)

# 独自の感覚磨きプレー



「試合中、チームの士気は高まり、最終的に勝利を収めた。今後の練習も頑張りたい。」



「試合中、チームの士気は高まり、最終的に勝利を収めた。今後の練習も頑張りたい。」

## 左足からのセンタリング武器

「左足からのセンタリングは、チームの武器です。試合中、チームの士気は高まり、最終的に勝利を収めた。今後の練習も頑張りたい。」

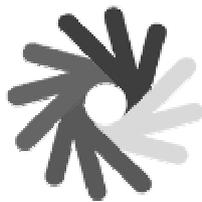








## (7) デフリンピック通信 (第1号~第8号)



DEAFLYMPICS

第1号

2004年9月6日発行

全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会 第20回デフリンピック派遣準備委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SKビル8階  
TEL03-3268-8847 FAX 03-3267-3445 E-mail: [deaflympic@jfd.or.jp](mailto:deaflympic@jfd.or.jp)

各ろうスポーツ団体では、デフリンピック派遣選手の強化及び現地支援などの準備に取り組まれていることと存じます。全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会でも第20回デフリンピック派遣委員会を設立し、派遣の準備に取り組んできております。みなさまに事務局の動きと情報をお伝えすることでコミュニケーションをスムーズに図ることを目的として、「デフリンピック通信」を発行します。週一回をめぐりに重要な情報を迅速に伝えてまいりますので、選手やスタッフに周知いただく等、皆様のご協力をお願い申し上げます。

(事務局責任者 大杉)

### ●デフリンピック派遣準備委員会設立について

全日本ろうあ連盟は理事会にて「第20回デフリンピック派遣準備委員会」の設立を決定しました。安藤理事長が委員長を務め、全理事と日本ろう者スポーツ協会田口会長以下全中央委員が中心になって取り組みを展開することになります。第1回目の委員会を9月21日に開催し、派遣体制、派遣資金造成などの確認を行なう予定です。

### ●派遣費用について

みなさまから「派遣費用は自己負担となるのか?」というご質問を頂いています。すでにみなさまご存知のように、今回は日本自転車振興会から日本障害者スポーツ協会への助成金がゼロとなっております。そこで、この助成金に相当する金額をどうやって確保するか、厚生労働省、日本障害者スポーツ協会と話し合いを続けています。現時点で正確な話は出来ませんが、21日の委員会で確認を行なったあと、委員会委員が中心になって各企業・団体にご寄付のお願いに回ることも検討課題となっております。

### ●全国ろうあ者体育大会開会式でのデフリンピック日本代表団壮行会について

9月17日に岐阜県岐阜市の岐阜メモリアルセンターにて第38回全国ろうあ者体育大会開会式が行なわれますが、この開会式の第二部として、全国ろうあ者体育大会実行委員会主催による「デフリンピック日本代表団壮行会」が企画されています。デフリンピック派遣準備委員会委員長、代表団団長、実行委員会からの激励の挨拶が予定されていますが、各競技の代表者からデフリンピックにかける抱負を2分ほど述べていただく予定もありますので、各ろうスポーツ団体に代表者をお願いしたいと思っております。

9月13日までに、代表者の氏名及び連絡先を当事務局までお知らせください。折り返し、当日の集合方法など詳細を連絡いたします。

●全国ろうあ者体育大会開会式での派遣委員会特製 T シャツ販売などについて

デフリンピック派遣準備委員会で派遣資金造成とPRを目的として、イラスト入りの T シャツを製作しています。イラストは沖縄県石垣島在住の崎山克馬さんという方に「風」をモチーフに描いていただきました。シャツの生地も風通しの良いスポーツ向きのものになっていますので、トレーニングなどでの使用が可能なものです。全国ろうあ者体育大会開会式にて発表・販売しますので、派遣資金造成とPRのために皆様のご協力をよろしくお願い致します。なお、定価は2200円の予定です。

各ろうスポーツ団体から、「全国ろうあ者体育大会の競技会場などでのグッズ販売や募金活動をしてもらいたいのか？」とのお問い合わせを受けていますが、原則的には認めていません。理由は、①各競技会場では、選手の皆さんが競技に集中できるための環境を用意する責任が主催団体にあることと、②開会式などで各ろうスポーツ団体がそれぞれ募金活動を行うことが適切かどうかという問題にあります。全国ろうあ者体育大会では主催団体である全日本ろうあ連盟の「デフリンピック派遣準備委員会」の T シャツ販売取り組みにご協力をお願いします。

また、同時にデフリンピックの啓蒙を目的とするカラーのチラシも作成中ですので、このチラシも T シャツ販売コーナーにて配布します。各ろうスポーツ団体でも今後の活動でまとまった枚数が必要になるかと思えます。この場合は別途事務局までご連絡ください。

●デフリンピック開閉会式用公式ユニフォームについて

第19回デフリンピック(イタリア・ローマ)に参加されたみなさまは覚えていらっしゃると思いますが、今回もデフリンピック開会式用の公式ユニフォームを助成対象選手と役員全員(自費スタッフは自己負担で購入可能)に支給します。

メーカーはアシックスに決定しており、全国ろうあ者体育大会開会式後の説明会にて見本をお見せし説明致します。選手・役員の数が大変多いことと、時間が限られていることから、一人一人の細かい採寸は行ないません。所定の用紙を今週中に各スポーツ団体事務局にメールとファックス両方で送りますので、その用紙に各自ご記入いただくこととなります。

全国ろうあ者大会開会式後の説明会では、ユニフォーム見本のサイズを一通り揃えておきますので、各自のサイズ確認は可能です。(これは採寸ではありませんが、試着は可能です。)

●デフリンピック競技用ユニフォームについて

各競技に必要なユニフォーム購入に対する助成もあわせて検討中です。詳細が決まりましたらお知らせします。ただし、この助成にあたっては、メーカー及び販売代理店の指定などの条件がつきますことにご留意ください。

●旅行者について

今回の渡航・宿泊などの手続きは近畿日本ツーリストにお願いすることになりました。第 19 回デフリンピック(イタリア)で皆さんのお世話をしました山崎さんが今回も担当することになりました。「前大会の反省を活かして皆さんが試合に専念できるよう、バックアップしていきたい」というのが、山崎さんの抱負です。今後、近畿日本ツーリストより、渡航やビザ取得手続きなどについて、選手・役員に直接連絡がいくことになるかと思いますが、選手・役員各自で対応くださるよう、周知をお願いします。

以 上

ご不明の点またはご質問がありましたら、早急に事務局までご連絡をいただけるよう、よろしくをお願いします。(担当：後藤啓二・豊島絵美子)

# デフリンピック通信



第2号

2004年9月15日発行

全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会 第20回デフリンピック派遣準備委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SKビル8階  
TEL03-3268-8847 FAX 03-3267-3445 E-mail: [deaflympic@jfd.or.jp](mailto:deaflympic@jfd.or.jp)

第38回全国ろうあ者体育大会がいよいよ迫ってまいりました。出場予定の選手はメルボルン大会の前哨戦として悔いのないようがんばってください。デフリンピック通信第2号です！

## ●全国ろうあ者体育大会開会式でのデフリンピック日本代表団壮行会について

9月17日に岐阜県岐阜市の岐阜メモリアルセンターにて第38回全国ろうあ者体育大会開会式が行なわれますが、この開会式の第二部として、全国ろうあ者体育大会実行委員会主催による「デフリンピック日本代表団壮行会」が企画されています。各競技の代表者からデフリンピックにかける抱負を2分ほど述べていただく予定で、それぞれ代表者を決めるようお願い申し上げておりました。

しかし、現在までに当事務局へ代表者決定の報告があったのは3競技のみです。当日に混乱しないよう、誰が代表者として抱負を述べるかを前もって決めておいていただけよう、ご協力をお願いいたします。

当日、各代表者は壮行会が開催される前の休憩時間に、舞台に向かって左側にお集まりください。

## ●全国ろうあ者体育大会開会式でのデフリンピック特製Tシャツ販売について

デフリンピック派遣準備委員会で派遣資金造成とPRを目的として、イラスト入りのTシャツを全国ろうあ者体育大会開会式会場にて発表・販売します。

派遣資金造成とデフリンピックPRのために、友人や知人への呼びかけなど、皆様のご協力をよろしく申し上げます。なお、Tシャツの定価は2200円を予定しておりましたが、消費税への対応などで2500円に変更となりました。このTシャツ販売促進とともに、例えば、「デフリンピック応援キャンペーン」等の形で、デフリンピックそのものをどこまで国民広く広げていけるかを研究中ですので、良いアイデアがありましたら、事務局までお知らせください。

### ●全国ろうあ者体育大会での各ろうスポーツ団体のグッズ販売活動について

基本的に、全国ろうあ者体育大会ではグッズ販売や募金活動を主催団体以外には許可していません。今回も開会式会場で来年の開催地・長崎県のろう協会によるグッズ販売と、デフリンピックTシャツの販売のみとなっております。

しかし、各ろうスポーツ団体もデフリンピックに向けての選手強化や(自己負担)スタッフの派遣などで、グッズ販売活動に取り組んでいるところもあると聞いています。そこで、今回に限り、それぞれの競技会場で昼食時間に限ったグッズ販売活動を認めます。ただし、現金を集めるだけの募金活動は認めませんことと、各会場でのルールには従っていただくことで、よろしくお願いいたします。

グッズ販売活動をご希望される団体は 16 日のデフリンピック説明会にグッズをお持ち頂き、事務局で確認させていただきます。

### ●デフリンピック開閉会式用公式ユニフォームについて

9月 17 日の開会式後に予定している説明会で見本をお見せして説明する予定です。試着も可能ですが、各サイズごとに 1 着しか用意できませんので、全員が試着することはできません。どうしてもサイズが不明な方のみが試着できるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

尚、説明会に出席できない選手でサイズがどうしてもわからない方は、自宅近くのスポーツ店で試着してみるなどしてご確認されるようお願いいたします。メーカーはアシックスを予定していますので、アシックス製のジャージを試着すればサイズが把握できます。

以 上

ご不明の点またはご質問がありましたら、早急に事務局までご連絡をいただけるよう、よろしくお願いいたします。(担当：後藤啓二・豊島絵美子)

# デフリンピック通信



第3号

2004年10月5日発

全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会 第20回デフリンピック派遣準備委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階  
TEL03-3268-8847 FAX 03-3267-3445 E-mail: [deaflympic@jfd.or.jp](mailto:deaflympic@jfd.or.jp)

第38回全国ろうあ者体育大会（岐阜大会）では、お疲れ様でした。壮行会や説明会はいかがでしたでしょうか？派遣任命書を手にして、日本代表選手としての自覚が出てきたのではないかと思います。壮行会に出席できなかった方々もおりますので、出席した選手や役員から感想などを報告しあって感動を分かち合ってください。また、「目で聴くテレビ」でも放映される予定です。この機会をお見逃しなく！

季節の変わり目ですが、岐阜の皆様からいただいた「さるぼぼ」を御守りに、体調に気をつけてトレーニング・合宿などに励んでください。

## ● 秋篠宮紀子妃殿下より励ましのお言葉をいただきました！

先日、全日本ろうあ連盟役員が、秋篠宮紀子妃殿下に拝謁する機会がありました。以前より聴覚障害者や手話に関心をお持ちの妃殿下に、デフリンピックのお話をしたところ、非常に関心を持ってくださりました。後日に妃殿下から、第19回デフリンピック（@イタリア・ローマ）と第15回冬季デフリンピック（@スウェーデン・スツバル）の報告書が欲しいとの連絡がありましたので、早速事務局からお送りしました。妃殿下もデフリンピックに注目しておられるようで、「がんばってください」との励ましのお言葉をいただきました。

## ● デフリンピックTシャツの販売・カンパにご協力を

岐阜大会で初お目見えした「デフリンピックTシャツ」を、各47都道府県の全日本ろうあ連盟加盟団体で販売しカンパにご協力いただけることとなりました。みなさんの地域の加盟団体にも、10月1日付けでお送りしております。秋のイベントなどで、販売・カンパ活動が行われると思います。是非ともご自分でも参加しPRに協力してください。

尚、購入申し込み先は各加盟団体となりますので、ご自分の加盟している協会へお問い合わせください。

● 日本代表選手団ユニフォーム決定！

日本代表選手団のユニフォームが下図のように決定しました。



● デフリンピックの日程について

岐阜大会の説明会でも皆さんからご指摘のあった、デフリンピック大会の競技日程についてですが、デフリンピック委員会（旧称：CISS）から出されているものとメルボルン大会実行委員会から出されているものが異なっています。現在、両者に確認を取っておりますので、わかり次第みなさまへご連絡いたしますので、しばらくお待ちください。

● デフリンピック大会チケットについて

実行委員会から、開閉会式および競技の入場チケットの案内が来ました。選手・役員の方には不要ですが、応援にいらっしゃる方には必要になります。お友達や、ご家族で必要な方は、下記のHP から申込書が出せますのでアクセスしてみてください。

[http://2005deaflympics.com/sport\\_ticketingfinal.asp](http://2005deaflympics.com/sport_ticketingfinal.asp)

### ● 取材情報について

デフリンピックも近づき、各競技団体の活動などがマスコミに紹介されることも増えてきました。新聞・雑誌・テレビなどマスコミの取材を受けた際は、こちらにも記事のコピーなどをお送りいただけますようお願いいたします。これは、今後の寄付金活動など、デフリンピックのPRの際に活用させていただくためのものですので、ご協力をお願いいたします。

### ● デフリンピックPRにご協力を

デフリンピックのPRについては、今大会だけのPRに留まらずデフリンピックの存在そのものをPRするためにも、これから継続的に続けていくことを考慮に入れて、PR活動内容について検討しています。ついでには、各競技団体が今まで取材を受けたり、懇意にしているマスコミ関係者がおられましたら、是非ともご紹介いただけますようお願いいたします。デフリンピックという素晴らしい大会の存在を、少しでも多くの人に知ってもらえるよう、是非ともご協力願います。

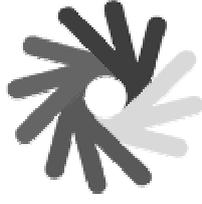
### ● 強化合宿の情報を

マスコミから、各競技の強化合宿の様子を取材したいという問合せがあります。つきましては、デフリンピック派遣までの間に予定している強化合宿の予定日程・場所を報告願います。マスコミから取材したい申込みを受けてから各競技団体に連絡を取り合っていると、時間がかかってしまい、機会を逃してしまいます。取材の申込みがあったらすぐに対応できるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

以 上

ご不明の点またはご質問がありましたら、早急に事務局までご連絡をいただけるよう、よろしく申し上げます。(担当：後藤啓二・豊島絵美子)

# デフリンピック通信



DEAFLYMPICS

第 4 号

2004 年 10 月 22 日発行

全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会 第 20 回デフリンピック派遣準備委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SKビル8階  
TEL03-3268-8847 FAX 03-3267-3445 E-mail: [deaflympic@jfd.or.jp](mailto:deaflympic@jfd.or.jp)

例年になく多くの台風が上陸していますが、皆様にはお変わりないでしょうか。何事もないよう祈っております。逆に、デフリンピックでは是非とも日本からの「風」を盛大に巻き起こしてください。

## ●応援ツアーについて

近畿日本ツーリスト株式会社が応援ツアーを企画します。日本聴力障害新聞 11 月号にて詳細が発表される予定です。家族や友人などにご紹介ください。

## ●近畿日本ツーリスト株式会社の山崎さんが現地の下見に行きます。

今大会の開催地であるメルボルン（オーストラリア）へ日本代表団派遣するにあたって、デフリンピック第 1 号で紹介されているとおり、近畿日本ツーリスト株式会社へ渡航や宿泊などの手配を一任しております。第 19 回デフリンピック（イタリア）で皆さんのお世話をした山崎さんが今回も担当することになりましたが、彼は前大会の反省や苦い思い出から、今大会はもっと準備を整え万全な体制にして皆様をバックアップしていきたいと、並々ならぬ情熱を見せております。

そして、この度、11 月 3～7 日にメルボルンまで赴き、現地を視察するそうです。実行委員会と打合せや、ホテルや競技会場などの下見を行うとのことでした。彼が帰国次第、近畿日本ツーリスト株式会社から現地について詳細の報告があります。お楽しみに！

## ●派遣委員会委員が企業回りを開始

派遣資金の不足額 2000 万円を埋めるべく、10 月 6 日、派遣委員会安藤豊喜委員長が上京し、9 企業・団体を回って、ご寄付の依頼活動を行ないました。これを皮切りに、田口博人副委員長、黒崎信幸委員、石野富志三郎委員など派遣委員会及び全日ろう連の役員が 11 月までに 200 以上の企業・団体を目標に回る予定です。

●CS 障害者放送統一機構スタッフがメルボルン入り決定

ローマデフリンピックで統一機構スタッフがカメラを抱えて走り回っていたことを覚えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。そのあと、ローマでの日本の活躍は「目で聴くテレビ」で放映され、今年の岐阜全国体育大会開会式でもダイジェスト版が放映されました。そして、メルボルン。統一機構はスタッフ3名の現地派遣を決定、代表団事務局と協力し合って、皆さんの活躍をカメラに収める手順を整えています。

●読売新聞社もスタッフ1名現地派遣の方向

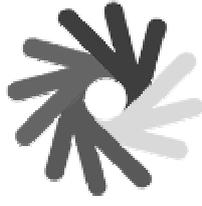
読売新聞大阪本社メディア戦略室がスタッフ1名を開会式から最後まで派遣する方向との連絡がありました。スタッフは私達と同じろう者で、ウェブサイトの編集が専門です。現地からのレポート、そして速報がリアルタイムで流されることになるでしょう。

みなさんへの取材などもあるかと思えます。ご協力をお願いします。

以 上

ご不明の点またはご質問がありましたら、早急に事務局までご連絡をいただけるよう、よろしくをお願いします。(担当：後藤啓二・豊島絵美子)

# デフリンピック通信



DEAFLYMPICS

第5号

2004年11月18日発行

全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会 第20回デフリンピック派遣準備委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階  
TEL03-3268-8847 FAX 03-3267-3445 E-mail: [deaflympic@jfd.or.jp](mailto:deaflympic@jfd.or.jp)

寒さも一段と厳しくなってきましたが、皆様にはお変わりありませんでしょうか。ここ日本では冬に近づきつつありますが、オーストラリア・メルボルンでは逆に夏に近づきつつあります。真夏のメルボルンを楽しみにしつつ、風邪には気をつけてください。

## ●応援ツアーについて

日本聴力障害新聞11月号にて詳細が発表されました。日程では2つの案があります。関西方面の選手が多いことを考慮して、関西空港発もあります。

◎平成17年1月3日(月)～1月8日(土)

◎平成17年1月7日(金)～1月13日(木)

詳細などはこちらへ！家族や友人などたくさん声をかけてください。

◎近畿日本ツーリスト株式会社 東京法人旅行支店、担当：越場、藤井、山崎

FAX03-3231-5233 TEL03-3231-5231

E-mail: [koshiha031035@mb.knt.co.jp](mailto:koshiha031035@mb.knt.co.jp)

## ●近畿日本ツーリスト株式会社の山崎さんが現地の下見に行ってきました

渡航や宿泊などの手配を一任している近畿日本ツーリスト株式会社の山崎さんが、メルボルンを訪れて、第20回デフリンピックの会場や宿泊ホテルなどの下見を行いました。

先週報告を受けましたが、中でも特筆すべきことをいくつか挙げます。

◎各部屋に台所がついている。

初めはミニキッチンと聞いていたので、ワンルームマンションの小さな台所を想像していましたが、やはりオーストラリア！レベルが違います！オーストラリアでのミニキッチンは日本の一般家庭の台所にあたるようです。電気コンロや冷蔵庫はもちろん、レンジ、オーブン、お湯沸かし機に、なんと食器洗浄機までがある！炊飯器や鍋、フライパンなどの調理器具に、グラスや食器も十分に備えてあります。しかも、私たち日本代表団のために、「箸(はし)」を用意するよう準備を進めているとのこと。ホテルの気遣いがとても心細やかです。

◎目の前にセブンイレブンがある。

ホテルの目の前にセブンイレブンがあるとのこと。もちろん日本とは違ってお弁当・おにぎりは期待できませんが、日常生活用具や飲み物などあらかじめ揃っているとのこと。また、近くに大きなスーパーマーケットがいくつかあるし、徒歩5分のところに中華街もあるとのこと。その店では日本の食べ物がほとんど買えるそうです。日本の飴やポテトチップスなんかも売っているそうです。日本の米も安く売られているので、食材に困ることはないようです。ちなみに日本料理店も近くに多くあります。弁当も800円～購入可能です！

◎洗濯機が無料！

地下に洗濯機3台、乾燥機が2台備えられています。しかも、なんと無料で使える！用意するのは洗剤のみでOKです。また、近くにクリーニング店もあるので、頼むことも可能とのこと。

◎各部屋からインターネット接続が可能。

ノート PC を持ち込んで、各部屋からインターネットにつなぐことが可能です。その接続方法はナローバンド（ダイヤルアップ接続）になるとのこと。（接続費用については、自己負担となります）

◎ホテルから会場地までの移動

ホテルから会場までの距離などを実際に調べたとのこと。歩いていける会場もあれば、車で移動した方がよい会場もあるようです。基本的には貸切バスで移動できるよう手配しておりますが、何かあってもすぐに対応できるように準備を進めております。

※後日に、近畿日本ツーリスト株式会社からさらに詳細の報告があります。お楽しみに！

## ●第2回「第20回デフリンピック派遣委員会」会議の開催

これまでに、安藤豊喜委員長や田口博人副委員長、黒崎信幸委員、石野富志三郎委員、長谷川芳弘委員など派遣委員会及び全日ろう連の役員が120の企業・団体を廻ってご寄付の依頼活動を行いました。また、安藤委員長が厚生労働省や日本障害者スポーツ協会と話し合いを重ね、予算を確保できるよう最終調整を図りました。

これからの活動を話し合うために、11月12日に「第20回デフリンピック派遣委員会」の第2回会議を開催し、派遣費用予算の内訳や派遣準備など具体的に審議しました。この結果は今週内に皆様へ改めて報告致します。

### ●全国各地で展開されているカンパ活動

皆様をデフリンピックへ送り出そうと、全国各地でカンパ活動が行われています。デフリンピック応援Tシャツを販売しながらカンパを集めて、目標金額を達成しつつあります。中でも大阪聴力障害者協会はこちらからお願いしてあったカンパ目標金額をさらに上回る金額を、なんと自分で設定してがんばっているとのこと。大阪の皆様の暖かい気心が伝わる話ですね。

このカンパ活動は当初の期限を延長して来年1月31日まで続く予定です。是非とも皆様からの積極的な活動をお願い致します。

### ●宿泊ホテルの部屋割りについて

岐阜体育大会で説明したとおり、皆様の部屋は基本的に3人部屋となります。その数に従って、宿泊ホテルの部屋数を調整中です。近日中に、各競技の選手・役員の部屋数を連絡致しますので、その部屋数に合わせて振り分けの調整をお願い致します。詳細はまた近日中に連絡致しますので、その時はご協力のほどをよろしくお願い致します。

以 上

ご不明の点またはご質問がありましたら、早急に事務局までご連絡をいただけるよう、よろしくお願い致します。(担当：後藤啓二・豊島絵美子)

全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会 第20回デフリンピック派遣準備委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階  
TEL03-3268-8847 FAX 03-3267-3445 E-mail: [deaflympic@jfd.or.jp](mailto:deaflympic@jfd.or.jp)

メルボルンへの出発まであと2週間となりました。また、年末シーズンに入り、公私にわたって忙しい日々が続くと思います。くれぐれも風邪をひかれることのないよう気をつけてください。

## ● 秋篠宮同妃両殿下のご接見で励ましのお言葉をいただきました！

「デフリンピック通信第3号」で事務局長が秋篠宮妃殿下より励ましのお言葉を頂いたことを報告しましたが、それをきっかけに妃殿下がデフリンピックに関心を持たれ、12月13日（月）に東京の赤坂御所の秋篠宮同妃両殿下によるご接見が実現しました。

各競技の代表選手16名にご出席いただき、秋篠宮同妃両殿下を囲んでの歓談が行われました。選手一人ひとりに大会にかける抱負やスポーツについてのご質問をされるなど、両殿下の優しい心遣いが伝わってまいりました。紀子妃殿下は手話通訳者を通さずに選手たちと直接話されることもあり、秋篠宮殿下のお言葉を手話通訳されました。これには選手一同も感動されたようです。

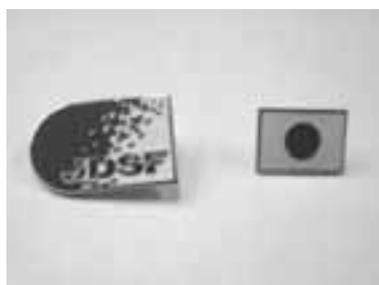
この様子はCS障害者放送統一機構の「目で聴くテレビ」で放映されます。

放映日：12月21日（火）夜7：30～8：30の内、数分（JFDレーダー）

この「目で聴くテレビ」はアイ・ドラゴンⅡで見られます。デフリンピック開会後はメルボルン現地の様子も放映されますので、まだ自宅に設置してない方はこの機会に購入しましょう！（※日常生活用具給付対象です。）

## ● 日本国旗のネクタイピン・JDSF バッジをメルボルン現地で販売します。

現地に着いてから、各国の選手と交流があると思います。中には記念品交換をされたい方もいると思います。日本国旗のネクタイピンとJDSF バッジの在庫がありますので、メルボルンにてご希望者におわけします（各1個450円）。ホテル内の日本代表団本部事務局にて1月3日より販売します。早いもの勝ちです！お早めに！



●**団体戦の試合の時に記念交換するペナントを支給します。**

バレーやバスケ、サッカーなど団体戦で試合を行う時、相手チームとペナント交換を行います。ついては、日本ろう者スポーツ協会のペナントを現地でお渡しします。各チーム代表者にホテル内の本部事務局まで取りに来てくださるようお願いいたします。



●**同行する医師が決定しました。**

同行頂く医師1名の推薦を日本障害者スポーツ協会にお願いしていたところ、埼玉医大総合医療センターリハビリテーション科の大井直往（おおいなおゆき）様をご紹介頂きました。

医師の滞在する部屋の番号は現地で発表しますが、基本的には本部事務局の部屋に待機して頂くことになります。

●**ドーピングについて**

大井医師より、ドーピングについて前もって読んでおいた方がよいウェブサイト（ホームページ）を教えて頂きました。各自、このホームページを見て、ドーピングについての知識を身につけてください。

<http://www.mbcl.co.jp/doping/index.html>

また、いつも飲んでいる薬の成分の中にドーピングで禁止されている成分があるかどうか調べる時は、このホームページを参考にしてください。

<http://www.marubeni.co.jp/useful/shinryou/dope.html>

●ユニフォームは無事に受け取りましたか？

12月初めに「チャンピオン会社」よりユニフォームを各自へ発送しましたが、無事に受け取られていますか？もし、まだ受け取っておられませんでしたら、至急ご連絡ください。

また、ユニフォームを着た上で顔写真を撮っていただくようお願いしておりますが、まだご提出いただいてない方は早めにお問い合わせください。締切日は12月20日（月）です。これは新聞やテレビなど、マスコミメディアへ提供しますので、きれいに撮ってください。

●カンパ活動はまだ終わっていません！

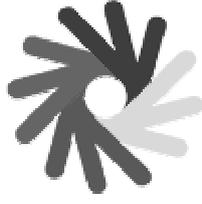
皆様の渡航代や宿泊代などは何とか確保することができましたが、当初に決めた目標金額にはまだまだ達していませんのでカンパ活動は続けています。12月13日も秋篠宮同妃両殿下のご接見と同時に、日本ろう者スポーツ協会中央委員が企業をまわって寄付をお願いする取り組みがありました。

1月末まで続けていく予定です。各地域やブロックでもカンパ活動を続けていくことを、デフリンピック派遣委員会や日本ろう者スポーツ協会中央委員会でも確認しました。皆様も各地域でご協力をお願い致します。

以 上

ご不明の点またはご質問がありましたら、早急に事務局までご連絡をいただけるよう、よろしくお願ひします。(担当：後藤啓二・豊島絵美子)

# デフリンピック通信



DEAFLYMPICS

第7号

2004年12月21日発行

全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会 第20回デフリンピック派遣準備委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階  
TEL03-3268-8847 FAX 03-3267-3445 E-mail: [deaflympic@jfd.or.jp](mailto:deaflympic@jfd.or.jp)

クリスマスが近づいてまいりましたが、当事務局は連日大忙しです。4年前のイタリア大会と比べて、マスコミメディアからの問合せが非常に多く寄せられています。前大会と比べて、デフリンピックの知名度は着実に広まっていると現場で実感しております。これも、皆さまの日々の活動の賜物でしょう。この調子でメルボルンでは是非とも活躍して、世間からの注目を引くようがんばってください。

## ●競技日程が変更されました！

明日、12月22日には近畿日本ツーリスト東京法人旅行事業部から「しおり」が各自宛に発送されます。渡航スケジュールや宿泊など詳細が説明されていますので、参考にしてください。

その「しおり」には競技日程が載っていますが、本日に第20回デフリンピック大会のウェブサイトで、サッカーとバレーの競技日程が新たに変更されたと発表がありました。早速、翻訳して全日本ろうあ連盟のウェブサイトにて公開しています。

[http://www.jfd.or.jp/sports/20sd/20sd\\_q-and-a\\_eventsched.html](http://www.jfd.or.jp/sports/20sd/20sd_q-and-a_eventsched.html)

このように現場でも当日にいきなり変更される場合があります。当事務局でも情報収集に努めて、練習日程や試合日程などが変更されたらすぐに皆さまへ連絡できるように現場でも体制を整える予定です。皆さまも「しおり」だけでなく、現場でもつとめて当事務局からの発表を見逃さないようにしてください。

## ●水と氷が各会場で用意されます。

第20回デフリンピック大会のウェブサイトで、選手の皆さまに用意される水と氷についての発表がありました。以下のとおりです。各自、ご参考にしてください。

### ・ 選手のための水

デフリンピック準備委員会は、出場選手のために、600ミリの飲料水のボトルを45,000本用意します。

飲料水は次の場所で提供します：

- \* 氷の入った保冷ボックスにボトルを入れて冷やし、全ての競技会場に置く
- \* ボトルに入った水、又は20リットルの冷やしたミネラル・ウォーターの給水器を選手の更衣室に置く

#### ・選手のための氷

氷は全ての競技会場の次の場所に用意する：

- \* 医務室(スポーツ・メディスン・オーストラリア担当)：選手の怪我に対応するため
- \* 競技場：飲料水のボトルを冷やすための保冷ボックス用
- \* 選手更衣室にも少量の氷を用意する

氷の配布は医療担当者及び各会場の責任者が担当する。

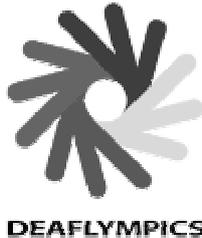
選手及びチームの個人的使用のための氷は準備されない。

選手が氷を使いたい場合は、医療班のトレーナーに申し込む。

以 上

ご不明の点またはご質問がありましたら、早急に事務局までご連絡をいただけるよう、よろしく申し上げます。(担当：後藤啓二・豊島絵美子)

# デフリンピック通信



第8号

2004年12月28日発行

全日本ろうあ連盟/日本ろう者スポーツ協会 第20回デフリンピック派遣準備委員会事務局  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SKビル8階  
TEL03-3268-8847 FAX 03-3267-3445 E-mail: [deaflympic@jfd.or.jp](mailto:deaflympic@jfd.or.jp)

いよいよ出発も目前に迫ってまいりました！各自、荷造りは既に終わられたでしょうか。当事務局でも準備万全の体制で臨む予定です。後、4日足らずでいよいよ2004年も終わろうとしています。今年1年間、本当にありがとうございました。新年の挨拶はメルボルンで皆さまと直接交わしたいと思います。事務局一同、メルボルンでお待ちしております！

## ● 1月2日に放送局の取材があります。ユニフォームをお忘れなく！

NHKとCS障害者放送統一機構から、日本代表団が出発するにあたって、取材の申込みがありました。NHKについては、主将である卓球競技の船越選手と旗手である水泳競技の早川選手が日本代表団を代表して取材を受けます。

皆さまが出発する様子もカメラに収めたいとのこと。多くの日本代表選手がメルボルンへ出発することを、テレビ画面を通して全国の皆さまにアピールしたいと思います。そこで、集合場所に集まってから搭乗手続きを経て飛行機に乗るまでの間はユニフォームの上着をご着用ください。

デフリンピックを全国の皆さまにアピールするためにも、ご協力をよろしくお願い致します。

なお、CS 障害者放送統一機構は3名のスタッフを現地に派遣、読売新聞大阪本社からも1名が派遣されますので、取材へのご協力をお願いします。

## ● 競技日程が変更されました！

デフリンピック通信第7号で、サッカーとバレーボールの競技日程が変更されたことを連絡しましたが、続いて卓球とテニスの競技日程も変更されました。早速、翻訳して全日本ろうあ連盟のウェブサイトにて公開しています。

[http://www.jfd.or.jp/sports/20sd/20sd\\_q-and-a\\_eventsched.html](http://www.jfd.or.jp/sports/20sd/20sd_q-and-a_eventsched.html)

なお、現地では宿泊ホテル内に日本代表団の事務所を儲ける予定です。様々な連絡事項を掲示板などに貼って、皆さまにお知らせする予定です。ホテルでは、一日に一度は必ず事務所にて連絡事項などを確認してください。

●森永製菓株式会社よりサプリメントが提供されます！

黒崎委員や大杉事務局長が森永製菓株式会社へ寄付をお願いした結果、選手のみだけサプリメントをご提供いただくことになりました。「トリプルカーボ」というビタミン剤です。

<http://shop.weider-jp.com/shop/goods/goods.asp?goods=71699>

皆さまが成田空港第2ターミナルビルのHカウンターで搭乗手続きを行う時に、各選手へ1個ずつ配布します。

以 上

当事務局は12月28日で事務所を閉鎖します。これよりは成田空港に集合するまで、当事務局と連絡することはできませんので、ご注意ください。（担当：後藤啓二・豊島絵美子）

## 5. ご支援・ご寄付を頂いた企業・個人の方々

日本代表選手団の派遣に向けて、以下の方々よりご寄付を頂きました。

あたたかいご支援に心より感謝申し上げます。

(2005年3月8日現在)

協賛
近畿日本ツーリスト株式会社 東京法人旅行支店

企業		
入金月	企業名	金額
12月	石油資源開発 株式会社 様	30,000円
12月	千葉ゼロックス株式会社 様	100,000円
12月	トヨタカローラ秋田グループ有志一同 様	100,000円
12月	大塚商会ハートフル基金 様	100,000円
12月	財団法人 テクノエイド協会 様	50,000円
12月	沖電気グループ労働組合 様	70,000円
12月	株式会社 沖電気カスタマアドテック 様	100,000円
12月	株式会社 ニコン 様	50,000円
12月	京成ホテル株式会社 様	100,000円
12月	株式会社 コヤマドライビングスクール 様	100,000円
12月	有限責任中間法人 日本補聴器工業会 様	100,000円
12月	三菱重工業株式会社 様	400,000円
1月	株式会社 日立ハイテクインスツルメンツ 様	100,000円
1月	武田薬品工業株式会社 様	50,000円
1月	練馬区聴覚障害者協会 婦人部 様	10,000円
1月	社団法人 日本薬剤師会 様	100,000円
1月	全日本ろうあ連盟 職員労働組合 様	10,000円
1月	武田薬品工業株式会社 様	450,000円
2月	株式会社 エルアイ武田 様	100,000円
2月	翼システム 株式会社 様	100,000円

企業		
入金月	企業名	金額
10月	日本生命労働組合有志 様	50,000円
11月	株式会社 リベラルタイム出版社 様	50,000円
11月	全国市町村職員共済組合連合会 様	11,500円
11月	日本歯科医師会 様	100,000円
11月	日本手話通訳士協会 様	20,000円
11月	社団法人 全国乗用自動車連合会 様	100,000円
11月	社団法人 日本看護協会 様	100,000円
11月	全国厚生農業協同組合連合会 様	50,000円
11月	株式会社 サンシャインシティ 様	100,000円
11月	日本印刷 株式会社 様	300,000円
11月	A I U保険会社 様	200,000円
12月	日本医師会 様	100,000円
12月	全国障害者福祉援護協会 様	50,000円
12月	アコム 株式会社 様	200,000円
12月	株式会社 リクルート 様	100,000円
12月	富士ゼロックス 株式会社 様	50,000円
12月	協和発酵ケミカル 株式会社 様	50,000円
12月	協和発酵工業 株式会社 様	50,000円
12月	株式会社 虎屋 様	100,000円

個人		
入金月	ご芳名	金額
11月	大古場明子 様	10,000円
11月	小林邦代 様	10,000円
11月	井川和子 様	5,000円
11月	前田清 様	20,000円
11月	林庸子 様	2,000円
11月	武本一秀 様	10,000円
11月	中田和美 様	3,000円
11月	キタヨウコ 様	10,000円
11月	タケウチノリヒコ 様	10,000円
11月	古賀絢子 様	10,000円
12月	原田和明 様	10,000円
12月	練馬こぶし会 神谷 様	5,000円
12月	ハヤシアツヤ 様	10,000円
12月	ヒルマサチコ 様	3,000円
12月	タケウチマチコ 様	10,000円
12月	早川重寛 様	100,000円
12月	常村弘志 様	100,000円
12月	テラウチマコト 様	5,000円

個人		
入金月	ご芳名	金額
12月	(匿名) 様	2,000円
12月	ヤマダミスズ 様	3,000円
12月	ヤジマヨシミツ 様	5,000円
12月	ヒヤリングストア 清水大輔 様	30,000円
12月	カネマルカズヒロ 様	2,000円
12月	タカノカオル 様	10,000円
12月	シラカワマサカズ 様	3,000円
12月	オカザキゴウ 様	3,000円
12月	ヤナギサワアキ 様	10,000円
12月	練馬こぶし会 菊地恵子 様	2,000円
12月	シマツキシコ 様	3,000円
12月	ホソノサトミ 様	2,000円
1月	札幌新川整形外科 ワタナベ 様	6,368円
1月	(匿名) 様	50,000円
1月	本多忠雅 様	10,000円
1月	大井直往 様	73,600円
2月	ツノダ 様	10,000円

2005 メルボルンデフリンピック大会報告書

2005年12月25日発行

発行 財団法人 全日本ろうあ連盟

印刷 日本印刷株式会社

※各記事・写真等は発行元へ転載手続きをした上で掲載しております。

独立行政法人福祉医療機構（障害者スポーツ支援基金）助成（事業）